

平成 20 年度文部科学省大学評価研究委託事業

短期大学機関別評価における学生の学習成果及び  
達成度評価の評価基準、評価方法の実証的調査・開発

平成 21 年 3 月

財団法人 短期大学基準協会



# 目次

1. アメリカ合衆国における短期大学の評価に関する事情調査・調査研究報告	1
2. イギリスにおけるファンデーション・ディグリーの展開とアウトカム評価に関する調査研究報告	69
3. オーストラリアにおける短期高等教育の評価に関する調査研究—オーストラリア資格枠組（AQF）と准士学位プログラム—	101



## アメリカ合衆国における短期大学の評価に関する事情調査・調査研究報告

### 1. 本調査の目的及び方法

学校教育法の一部改正により認証評価が義務付けられたのは、2004（平成 16）年のことである。認証評価は、7 年以内ごとに受けなければならないとされているので、2010（平成 22）年度には全ての短期大学が認証評価を一度以上受けている状態になる。本協会の第三者評価は、この 2010（平成 22）年度までを「第一周期」と捉え、本協会の評価についての理解、浸透を図ることを目標の 1 つとしてきた。そのため、実施の過程では様々な課題も浮上したが、評価の基幹部分には大きな変更を加えずに評価を実施してきた。これらの課題、短期大学を取り巻く環境の変化などを勘案しながら、本協会では検討組織を新たに設け、2011（平成 23）年度以降の評価の体系を検討しているところである。

今回、アメリカ合衆国（以下、アメリカ）の評価動向や学生の学習成果（Student Learning Outcomes、SLO）などの調査を企画したのは、次周期評価の評価基準や評価の方法を検討するにあたり、本協会の経験から導かれる焦点に加えて、より発展的な検討を行うためである。特に、評価機関及びコミュニティ・カレッジの SLO に対する考え方、取り組みは、調査に値する先進的なものであろう。日本においても、中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」などにもみられるように、SLO に対する注目が高まってきており、次周期の評価基準などを検討する際には外すことのできない要素である。

そこで、今回の調査では、アメリカの評価機関 Western Association of Schools and Colleges/Accrediting Commission for Community and Junior Colleges 及び当該評価機関が担当する地区のコミュニティ・カレッジを調査対象に設定した。SLO の基礎的な情報収集、特に評価団体の取り組み、コミュニティ・カレッジでの取り組みを調査し、評価を行う側、評価を受ける側の双方からの情報、資料を収集して、アメリカにおける SLO に関連する取り組み、状況などについて、より多面的な把握を目指すこととする。

### 2. 調査団

調査団は、本協会の理事、第三者評価委員会委員、事務局職員から 5 名を選び、構成した。調査団は、調査の企画・実施、分析、報告書の作成を担当する。

関口 修（理事）

原田 博史（第三者評価委員会副委員長）

大野 博之（第三者評価委員会委員）

川並 弘純（第三者評価委員会委員）

和賀 崇（事務局職員）

### 3. 調査日程

本調査は、次の3泊5日の日程で行った。

2009（平成21）年 1月20日（火）	出国
20日（火）	アメリカ合衆国着 ACCJC 職員と面談
21日（水）	Skyline College 訪問、面談・資料収集
22日（木）	ACCJC オフィス訪問、面談・資料収集 Santa Rosa Junior College 訪問、面談・資料収集
23日（金）	アメリカ合衆国発
24日（土）	帰国

### 4. 調査対象の概要

本調査で、対象とした3機関について、その概要をまとめておく。

#### 4-1. Accrediting Commission for Community and Junior Colleges (ACCJC)

The Western Association of Schools and Colleges（以下、WASC とする）は、公立及び私立の学校、カレッジ、ユニバーシティのアクレディテーションを行う評価機関であり、米国にある6つの地区基準協会の1つである。WASC が受け持つ西地区はカリフォルニア州、ハワイ州等のほかにもアジアにあるアメリカンスクールやインターナショナルスクールをも含む。WASC の特徴は、他の地区アクレディテーション機関と異なり、四年制大学に適用するスタンダードとは別に、短期高等教育機関に適用するスタンダードを設定しているところである。その特徴から、本協会はこれまでも度々調査研究の対象としてきた。なお、後段に詳述するが、2002年にSLOを重視したスタンダードに改正している。

WASC のアクレディテーションは3つの委員会が運営しており、Accrediting Commission for Community and Junior Colleges（以下、ACCJC とする）はその名の通り、3委員会の中の1つである。ACCJC は、2年間のプログラムを提供し、アソシエイト・ディグリー（associate degree）を授与する公立と私立の機関を評価し認定する委員会である。ACCJC はその目的として、教育や教育機関間の協同関係の継続的な改善、アクレディテーションとその候補となる条件の提示、アクレディテーション団体と教育機関との効果的な関係の促進を掲げている。教育機関は、ACCJC の会員になっており、その数は140校である。

ACCJC には、Benno 氏（President）ほか7名の常勤スタッフがおり、評価に係る諸作業、研修会の企画・実施、評価情報の収集・蓄積・分析などを行っている。スタッフの多くは、コミュニティ・カレッジの管理職の経験を有しており、コミュニティ・カレッジに精通した人材が配置されている。

## 4-2. Skyline College

Skyline College は、サンフランシスコ中心地から南に車で約 1 時間の場所にあるコミュニティ・カレッジである。学生数は、パートタイム学生、フルタイム学生を合わせ 8,000 人ほどで、中規模なコミュニティ・カレッジである。Associate in Arts (A.A.) 及び Associate in Science (A.S.) のアソシエート・ディグリーや資格に結びつく約 80 のプログラムを提供している。

## 4-3. Santa Rosa Junior College

Santa Rosa Junior College は、サンフランシスコ中心地から北に車で約 1 時間の場所にあるコミュニティ・カレッジである。1918 年に設立され、カリフォルニア州のコミュニティ・カレッジの中でも長い歴史を有する機関である。各学期 32,000 から 35,000 人ほどの学生が在籍する。四年制大学への編入プログラムのほか、職業に結びつく 140 のプログラムが提供される。A.A. 及び A.S. の学位を授与する機関である。

## 5. ACCJC における SLO

### 5-1. SLO への注目・関心の高まり

本調査の主たる目的として SLO を設定していることは記述したが、そもそも ACCJC が SLO をスタンダードに取り入れたのは、どのような背景、考えがあったのであろうか。

収集した資料における Beno 氏の記述や ACCJC のニューズレターなどによれば、SLO に着目したり、大学教員や機関の教育の効果を評価し、改善するといった動きは、ここ 20 年ほどのものであり、主に 2 つの起源があると解説される。

その 1 つは、授業あるいはコース期間の中で、教室、授業での査定がいかにより教授を改善するののかについての考えが、広く共有されたことによる。カリフォルニア大学パークレー校の高等教育研究者 Pat Cross 氏は、1980 年代から 90 年代初めにかけて、「クラスルーム・リサーチ (classroom research)」を促進した。その考え方においては、教員は時間をかけ、いくつかの方策を用いながら「授業の中で学ぶよう意図していること」を、学生が学習しているかどうかを査定する。その結果、教員が進度を遅くするか、復習をするか、教育方法を変えるか、学習を改善するほかの何らかの方策をとるかを知ることになるのである。教員はまた、総括的評価 (毎週末に行うエッセイなど) を、学生が学習した知識、技術、概念を 1 つにできているか、他の状況でも適用できているか、統合あるいは高度化した方法で SLO を活用できているかを査定するために行う。この授業に接近するアクション・リサーチは、よく好まれ、また Cross 氏によって急速に促進された。コミュニティ・カレッジの実践者たちは、「クラスルーム・リサーチ」に接し、それがよく機能するものであったことから即座に採用した。

もう 1 つの起源としては、中西部のカトリックの機関で、小規模のリベラル・アーツ・カレッジである Alverno College がある。この機関の教員は、25 年から 30 年ほど前に、リベラル・アーツ教育の SLO に焦点を当て、学生の成果と教員の教育方法が焦点であることを確かめるために、意図された SLO を明確にし、コース内外の活動を展開した。彼らの活動は、学会や会議を通じて拡がり、他の教育機関の実践者も関心を持つことになる。

さらに、15年ほど前にア krediteーション団体の1つである North Central Accrediting Commission (NCA) がスタンダードの中に SLO への言及を含めた。Alverno College のほか 1,000 機関の会員を有する NCA は、高等教育関係者の中で、SLO についての全国的な議論の促進を助長することとなった。この学習に焦点を当てることを「Alverno モデル」と呼称した。すぐに、他の地域ア krediteーション団体が、意図された SLO を明確にし、学習を保証することを教育機関に求める新しいスタンダードを採用し始めた。また、そのアプローチは、学生と教員に、よりよい学習の方法を見出させるため、教育方法と機関の構造に弾力性、融通性を促進することにもなった。1995年、教育機関が学習に焦点を当てている意識は、高等教育の組織やその日常の活動に全く異なるアプローチをすることになるという Barr 氏と Tagg 氏の論文が発表されたとき、ア krediteーション関係者は、教育的成果と教育機関の質を評価する方法を採用し始めた。ア krediteーションの新しいスタンダードを採用することにより、ア krediteーション機関は、高等教育を設計し生み出す新しいアプローチを採用するよう奨励したという。

また、同時期の社会的背景にも注意しておく必要がある。

本協会が 2005 年に行った調査において、あるコミュニティ・カレッジの学長は、「アメリカでは、連邦政府からの予算削減圧力が強く、短期大学においては、獲得した予算の成果について以前より厳しく問われるようになってきた。教育の成果を計測可能なものにするのは、容易なことではないが、政府予算の獲得のため、あるいは、社会に向けて当該大学の教育水準を客観的に明示するために、SLO が重要な意味を持つようになってきた。今回（2002年；筆者補足）の ACCJC の基準見直しは、正しくそのような時代背景をもとになされてきたものと解し、学内的にも対応するための準備が必要になっている」と述べている。

ACCJC の発行するニューズレターの記事（引用・参考資料（4））によれば、上記のように、1980年代中頃以降、SLO が教育機関の効果を評価することにおいて、中心的な焦点となってきた。この焦点への勢いは、社会から、ビジネス・リーダーから、学界から出てきたものでもあり、ア krediteーション団体が連邦教育省の認証における SLO の調査の要求へ反応したことも要因の1つにあげられている。加えて、テクノロジーの発展と遠隔教育の増加も主たる影響の1つとなった。この非伝統的な性質により、遠隔教育は「アセスメント運動 (assessment movement)」を伴う「コンピテンシー運動 (competency movement)」が高まる中、どれほどの学問的な達成が見積もられるのかを評価しなければならなかった。この時期、アセスメント運動は、専門家、アドミニストレーター、理事の事業に関わる全ての人々の再教育を求め、査定のプログラムを開発することに抵抗もあったようである。しかし、いくつかの機関では、より大きな効果とより大きな支援を教員と学生に与える組織的な変革に弾みを与える査定活動も開始されていた。そういった機関は、学生の学習の査定を、意図する結果を保持するための方法として理解し始めており、単位、ユニットやコースの修了、保有率、編入率などといった伝統的（そして間接の）尺度よりも、リサーチベースの証拠が直接の証拠を構成することも理解し始めていた。

## 5-2. SLO に重きを置いたスタンダードの改正

上述の状況の中、ACCJC は 2002 年にスタンダードを改正し、その重要な要素として

SLO を取り入れている。現在、SLO に関係のある部分に着目できるように、該当部分を着色したスタンダードも公開されている。着色箇所は、導入部 2 箇所、スタンダード I に 5 箇所、スタンダード II 29 箇所、スタンダード III 14 箇所、スタンダード IV 5 箇所、合計 55 箇所にも及び、SLO に関連する部分に着目してみると領域によって若干の偏りがあるが、4 領域全てに配置されていることが分かる。参考資料として、ACCJC のスタンダード（引用・参考資料（2））を本報告末に掲載する。

ACCJC のスタンダードは、4 つの領域から構成されており、それぞれの領域の前文に当該領域の内容が概観できる。前文を引用すると以下の通りである（翻訳、下線は文責者による）。

#### スタンダード I 機関の使命と有効性

機関は SLO を重視する使命に対する確固たる姿勢を示し、その使命を内外に伝える責務がある。機関は量的・質的データの分析や、評価し、計画を統合して、実施し、再評価するという継続的かつ系統的なサイクルの分析を行って、使命達成にとって効果があるかどうかを検証し、その有効性を高める。

#### スタンダード II 学生の学習プログラムとサービス

機関は質の高い教育プログラム、学生支援サービス、並びに図書館及び学習支援サービスを提供して、先述した SLO の達成を促進し、証明する。教育機関は学習を支援し、多様性への学生の理解と認識を高める環境を整え、そして学生のすべてが個人としても市民としても責任を果たすよう助長するとともに、知的、審美的(aesthetic)かつ個人としての発達を促す。

#### スタンダード III 資源

機関はその人的、物的、技術的及び財政的資源を効果的に活用して、前述の SLO を含む、広範囲にわたる教育目的を達成し、かつ機関の有効性を向上させる。

#### スタンダード IV リーダーシップとガバナンス

機関は、機関の持続的向上のために、組織全体へのリーダーシップの寄与を認識し、活用する。ガバナンスの役割とは、理事会及び管理責任者に課せられる責任を認識しながら、学生の学習プログラムとサービスを支援し、機関の有効性を向上させる意思決定の促進に当たることにある。

このようにいずれの領域においても SLO、「機関の有効性」といった用語が用いられており、この点からも SLO が単なる評価の対象となる一部分ではなく、評価の基底に据えられたものだということが理解できよう。

また、ニューズレターの記事（引用・参考資料（3））によれば、2002 年にスタンダードを採用したとき、ACCJC は、会員機関が「意図された SLO を明確にし、学習を査定し、査定結果を評価し、学生の成功を改善する計画や取り組みを実行する」ことについて、「8 年から 10 年」という期間を想定した。

この期間の設定から推察するに、アメリカにおいても SLO を設定、把握し、改善活動につなげる取り組みは、挑戦的なものと認識していたことがうかがえる。先述したニュー

ズレターの記事（引用・参考資料（4））にもそれは表れており、「SLO を扱う責務は明確なものであるが、それらを扱う仕事内容は明確ではない。簡単な解答はないが、高等教育界に採用されているピア・レビューの精神で、ACCJC と会員機関は、ともに、その問題を扱う方法を発見するであろう」という言葉で締めくくられている。

### 5-3. SLO 把握の試み

SLO を含んだスタンダードを決定し、その適用を進める中で、ACCJC はいくつかの取り組みを企画、実行している。先んじていえば、到達段階の設定、時期を区切った目標設定、会員機関の状態の収集、ニューズレターなどによる情報提供である。勿論、評価員や評価チームを束ねる者（Team Chair）、ALO に対するトレーニングでも何らかの対策を講じてはいると考えられるが、今回の調査ではそこまでの把握は困難であった。したがって、前段の状況をまとめ、後段の課題については、別調査を企画することとしたい。

さて、ACCJC の発行するニューズレターの記事（引用・参考資料（5））によれば、ACCJC は「教育成果を評価するためのルーブリック（Rubric for Evaluating Educational Effectiveness）」という一種の評価ツールを 2007 年に開発した。これは、会員機関や評価員が、3 つの分野（プログラム・レビュー、プランニング、SLO）の業績の到達レベルを査定するように開発したものである。このルーブリックにおいて、それぞれの分野は、4 つの異なったレベルに区分されており、当該区分に該当する業績の特徴や例が示されている。この 4 レベルには、いずれの分野にも同じ名称が設定されており、達成具合の低い方から「認識（Awareness）」、「開発（Development）」、「熟練（Proficiency）」、「持続的・継続的な質の改善（Sustainable Continuous Quality Improvement）」の 4 段階となっている。

ACCJC は、2007 年の秋までに会員機関が、プログラム・レビュー、プランニングの分野のルーブリックにおいては「持続的・継続的な質の改善」レベルに到達するよう、SLO 分野については「開発」レベルまで到達するよう求める発表をした。現在、ACCJC では、SLO 分野において、2012 年の秋までに「熟練」レベルに到達するよう求めることを決定している（なお、ACCJC は、SLO 分野については、機関の進捗状況を調査し続けており、第 4 のレベルに機関が到達する期日については、2011 年に再度設定するとしている）。

ACCJC では、このように到達すべき状態とその期日を段階的に定めており、同時に各会員機関の進捗状況について、様式を設けて把握している。

会員機関の ALO（Accreditation Liaison Officer）は、毎年 Annual Report と Annual Fiscal Report の提出が求められており、教育理念やプログラムなど、機関の管理運営の方針に大幅な変更の予定があるかどうか、遠隔教育などについてを Annual Report にまとめ、財務状態について Annual Fiscal Report にまとめて ACCJC に報告している。Annual Report の様式には、12 の大項目があり、その中に SLO に関する項目がある。さらに、それとは別に SLO 用の様式が設定されている。SLO に関する当該様式は、表形式になっており、11 ページに及ぶ。その内容は、「コースの SLO」、「資格と学位につながるプログラムの SLO」、「一般教育の SLO」、「教育的支援及び学生支援サービスの SLO」に区分され、合計 23 の質問項目が設定されており、かなり詳細にデータを収集している様子が見える。

ACCJC では、このデータを収集、分析しており、評価の方針、計画の検討などの際に参考としているが、現時点では SLO そのものを評価の対象としてはいない。これは、全ての会員機関が自身の業績を評価し、学習の容認できるレベルの目標設定、学習を改善する組織的な改善活動に取り組むよう期待されているからである。データは、例えば、ニューズレターの記事（引用・参考資料（3））によれば、2008年2月の年次会議において、SLO について 2002年に設定されたスケジュールを、当初設定した10年を超えて拡張すべきかどうかの問題を検討する際に使用されている。その際には、2007年の春に会員機関から送られてきた SLO についての Annual Report と 2007年のエクスターナル・レビューを通じて収集したデータが使用された。ちなみに、データによれば、大部分の機関は、要求された作業に着手しており、多くは「開発」のレベルにあった。いくつかの機関は、「熟練」もしくは「持続的・継続的な質の改善」の段階まで進展しており、おおよそ10機関は作業に着手していなかった。このデータを基に審議し、ACCJC は会員機関に求めるスケジュールを維持することを決定している。なお、2012年の秋の始めに評価される機関は、先述のルーブリックの第3段階である「熟練」レベルまで到達していることが望まれており、このレベルに到達しなかった場合は、スタンダードに適合していないと判断するとしている。

## 6. コミュニティ・カレッジの取り組み

ここまで ACCJC の取り組み、つまり評価する側からの SLO を取り上げてきたが、本節では評価を受ける側、コミュニティ・カレッジがどのように SLO に取り組んでいるのかについて言及する。

今回の調査にあたっては、Skyline College と Santa Rosa Junior College の2機関を訪問し、面談を行った。この2機関の概要については既述したが、さらにいえば ACCJC スタッフから SLO についてよく取り組まれているとの高評を得ている機関である。

### 6-1. Skyline College

#### (1) 面談者

Victoria Morrow : President

Christine Roumbanis : Professor of Business/CAOT, Chief of the Curriculum Committee

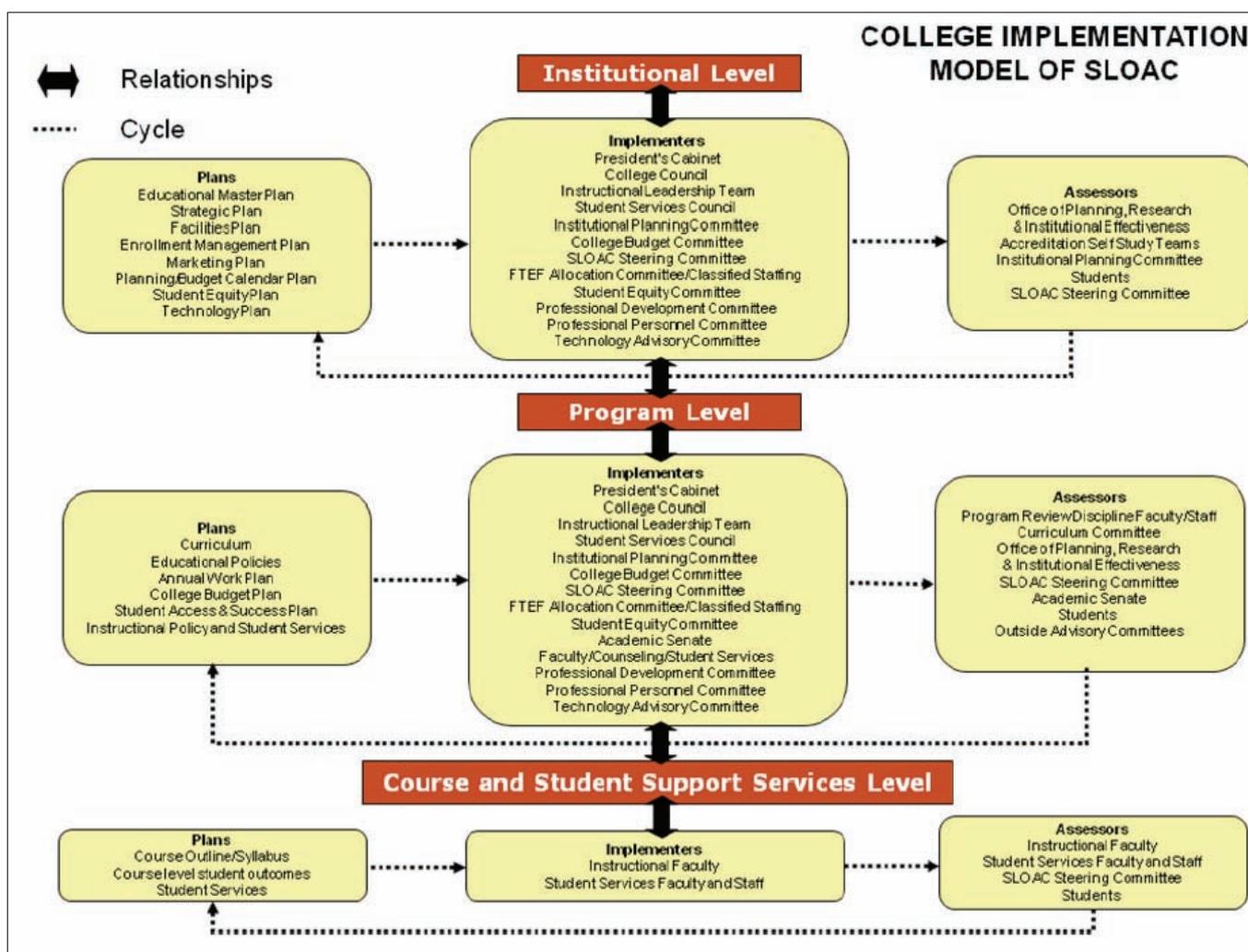
Karen Wong : Professor of English, SLO Coordinator, Chair of SLOAC Committee

#### (2) 組織

Skyline College では、SLO 関連の取り組みを行う中心的な組織として、各分野、アドミニストレーターを含めた30人弱をメンバーとする“Skyline College SLOAC Committee”を設置している。SLOAC は、“Student Learning Outcomes Assessment Cycle”の略である。この組織は、SLO の取り組みについて、トレーニングを実施し、その促進・支援活動を行う。Skyline College においては、SLO を機関全体の共同的作業により開発している。検討を行う際には、SLOAC Committee を小グループに分けることもあり、例えば SLO の定義、コース概要で示している「目標」との違いの検討、それらを教員にどのように働き

かけるかについての議論を行った。委員会の委員の役割のほか、「SLO コーディネーター」の役割も設定されている。

なお、SLO に関連する組織については、下図に代表組織が示されている。インタビューによれば、他の部門の教員や学生サービス、コンサルタントの分野の人員も引き入れたい要望があるようである。



(引用・参考資料 (9)、p.9)

### (3) 経緯及び現状

インタビューによれば、Skyline College が、SLO 関連の検討に着手したのは、2005 年のことである。当初は、教員間で議論し、最も重要と考える SLO を検討するところから始まり、例えば、英語分野では、学生の小論を例にしながら、実際にルーブリックを適用し、それをもとに表などを作成した。コアグループを作り、試作したものを実験的に使用し、教職員に示すためのサンプルのモデルを作ることにより、普及を図る方針で作業は進められた。インタビューでは、SLO とその査定の方針と目的を構築するために、委員会を作ること、SLO の査定について共通の言語、共通の目的を作り上げることが最初の仕

事であったことが述べられた。初期の段階から、対話のための十分な時間と試行錯誤の時間が必要であると認識していたが、試行を支えたものとして、当該機関には、学生の学習を支援しようとする大変強い文化があったことが語られた。2005年から試行を行い始め、2006年にコース概要にSLOを設定することを決定した。

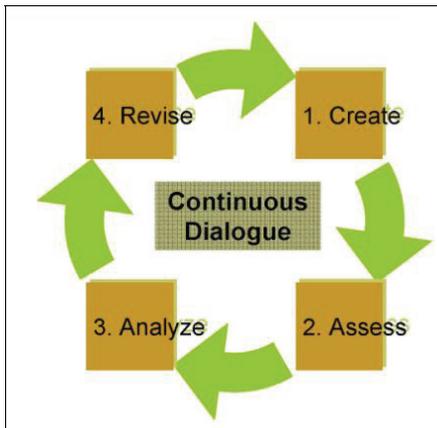
2007年に現行の査定ツールを定めたことで、SLOを設定、査定、分析する一連のサイクルに全面的に取り組むこととなった。さらに2008年には、機関全体のSLOに着手できるようになった。なお、現在コース概要のSLOを3年間で設定する計画の途上であり、理想的には、1年につき3分の1ずつ開発され、2010年までに全ての公的なコースでSLOを策定する予定である。現在のところ、教員の実験的取り組みにより15%~20%の進捗状況である。機関から年間1万ドルの資金が提供され、試験的な査定を行う教員に提供しており、12人がその対象となっている。訪問時には、7人が当該計画を実行中であった。

また、最初のセメスターの取り組みの後、1年かけて“The Skyline College SLOAC Framework”（以下、SLOAC Frameworkと記す、引用・参考資料(9)）を作成した。SLOAC Frameworkは、基本方針、基本計画などのほか、使用フォームなどがまとめられた冊子であり、さらに他機関の参考資料も多く盛り込まれている。特に、読み手に思考を促す「練習問題」ともいえるべき記述があるところが印象深い。必要な情報が1冊にまとめられ、インタビューによれば「利用しやすいもの」として利用されているとのことである。このほかにも、SLO査定の取り組みについての情報を網羅したウェブサイトも構築されており、リソースの活用がより容易になるよう工夫されている。

以下、Skyline CollegeのSLOに関する諸方針、取り組みなどについて、記述するが、これらの記述は面談により聞き取りした内容に加え、SLOAC Framework冊子の記述、関係ウェブサイトによるものであることをあらかじめ記しておく。

#### (4) 査定サイクル

Skyline CollegeのSLO査定モデルは、査定の系統的、持続的サイクルを確実なものにするため、継続的な対話を中心に展開される（次ページ図参照）。持続的査定の問いの中心にあるのは、(1) コース/プログラム/学位（学生サービス、特別プログラム/サービスなども含む）の修了時に、学生に身に付けてほしいものは何か、(2) 学生がそれを学んだということを、教職員はどのように知るのか、(3) 査定結果が満足できないものであった場合、学生の学習を助けるために何を改良しなければならないか、である。



(引用・参考資料 (9)、p.6)

SLOAC Framework によれば、Skyline College の査定サイクルは、コース／学生サービスレベル、プログラムレベル、機関レベルの3階層が想定されており、それぞれが関連付けられながら機能する。

査定サイクルは、コース／学生サービスレベルから始まる。教職員は、分野の専門家及びサービス提供者として、自身のコース概要あるいはサービス計画における SLO を設定して、その成果を教室レベル／サービスレベルで査定し、分析し、かつ修正する。学生が、期待されるアウトカムと、そのアウトカムを査定する手段の両者を認識できるように、SLO を明確に示す。査定サイクルを完了するために、教職員は教室／サービスの評価データを用いて、提供されたコース／サービスの SLO を見直し、改良する。このレベルの査定は教職員が管理し、学生を中心に据え、プログラム及び機関の SLO に関連させる。

プログラムレベルでは、SLO を設定し、査定し、分析して見直すプロセスは、教育プログラム（核となる能力及び一般教育カリキュラムを含む）と、学生サービス／支援プログラムを対象とし、教育学部／部門及び学生サービスが責任を有する。プログラム・レビューを通して、個々の教職員、学部、部門、教育の vice president 及び学生サービスの vice president が、学生の持続的な学習改善に向けて教育プログラムと学生支援サービスの見直しを行う。プログラムレベルの計画において、資源の優先順位と配分、人的資源の配分が統合される。プログラムレベルの活動はコースレベル、学生サービスの活動に関係し、かつ協働して、機関の使命及び目標の達成に直接寄与する。

機関レベルでは、SLO を設定し、査定し、分析して見直すプロセスは機関全体が共同で行う計画によって遂行される。すなわち、ガバナンス・グループが共有して実行に移し、Office of Planning、Research & Institutional Effectiveness、その他の構成員によって評価される。教職員の全てが、機関の教育の使命及び目標を支える専門家とみなされる。機関のアウトカム査定は、機関の計画、予算、評価プロセスを通じて、コース及びプログラムの SLO に結び付けられる。

#### (5) Skyline College における SLO の定義

SLOAC Framework によれば、SLO には次の3つの主要な特性がある。

- 学習者が知り、かつ、なしうるべきことについて明確に述べる。

- 動作動詞として表現され、それ自体、学習領域の一部あるいはすべてを具体化する。
- 査定可能で測定可能である。

また、SLO は、コース、プログラムないしサービスの修了時に、学生が学習して実際に提示可能となるべきことに関して明確な叙述がなされる。それは、査定可能で測定可能な知識、技術、能力あるいは態度であり、学生が1つの学習プロセスの終わりに獲得すべきものである。ここでいう学習プロセスには、カレッジでのいかなる経験（例えば、コース、学位プログラム、資格プログラム、学生サービス、特別プログラム／サービスの活用、あるいはそれらへの参加）も含まれる。

個々の SLO は、動作動詞を用いて明確に説明され（例えば、「分析する」、「比較する」、「実証する」、「作曲する」、「具象化する」など）、ブルームの学習のタクソノミー (taxonomy) のフレームワーク内で分類される。これら動作動詞のリストは、次ページ以降に掲載する。

動作動詞のリスト 1 (Appendix B: Bloom's Taxonomy: Cognitive, Psychomotor and Affective Domains)

<p style="text-align: center;"><b>Appendix B:</b> <b>Bloom's Taxonomy</b></p> <p style="text-align: center;"><b>Cognitive Domain</b></p> <p style="text-align: center;"><b>Learning Outcomes Related To Knowledge</b></p>					
Knowledge	Comprehension	Application	Analysis	Synthesis	Evaluation
Student remembers or recognizes information or specifics as communicated with little personal assimilation.	Student grasps the meaning behind the information and interprets, translates, or comprehends the information.	Student uses information to relate and apply it to a new situation with minimal instructor input.	Student discriminates, organizes, and scrutinizes assumptions in an attempt to identify evidence for a conclusion.	Student creatively applies knowledge and analysis to integrate concepts or construct an overall theory.	Student judges or evaluates information based upon standards and criteria, values and opinions.
Cite Label List Enumerate Identify Imitate Match Name Quote Recall Reproduce State Write	Convert Define Describe Discuss Estimate Explain Generalize Identify Illustrate Locate Paraphrase Restate Summarize	Apply Chart Compute Demonstrate Determine Dramatize Establish Make Manipulate Prepare Project Solve Use	Analyze Compare Contrast Correlate Diagram Dissect Differentiate Distinguish Infer Investigate Limit Outline Separate	Assemble Create Construct Design Develop Formulate Generate Hypothesize Initiate Invent Modify Reframe Synthesize	Access Appraise Conclude Critique Decide Defend Diagnose Evaluate Judge Justify Rank Recommend Support



Basic Knowledge Level
More Sophisticated Higher Level Thinking Critical Thinking

動作動詞のリスト 2 (Appendix B: Bloom's Taxonomy: Cognitive, Psychomotor and Affective Domains)

<b>Psychomotor Domain</b>					
<b>Learning Outcomes Related To Skills</b>					
<b>Observe</b>	<b>Model</b>	<b>Recognize Standards</b>	<b>Correct</b>	<b>Apply</b>	<b>Coach</b>
Students translate sensory input into physical tasks or activities.	Students are able to replicate a fundamental skill or task.	Students recognize standards or criteria important to perform a skill or task correctly.	Students use standards to evaluate their own performances and make corrections.	Students apply this skill to real life situations.	Students are able to instruct or train others to perform this skill in other situations.
Hear Identify Observe See Smell Taste Touch Watch  *Usually no outcomes or objectives written at this level.	Attempt Copy Follow Imitate Mimic Model Reenact Repeat Reproduce Show Try	Check Detect Discriminate Differentiate Distinguish Notice Perceive Recognize Select	Adapt Adjust Alter Change Correct Customize Develop Improve Manipulate Modify Practice Revise	Build Compose Construct Create Design Originate Produce	Demonstrate Exhibit Illustrate Instruct Teach Train



Basic Knowledge  
Basic Skills  
Level
More Sophisticated Skills  
Higher Level Abilities  
Critical Understanding of Performance

動作動詞のリスト3 (Appendix B: Bloom's Taxonomy: Cognitive, Psychomotor and Affective Domains)

<b>Affective Domain</b>				
<b>Learning Outcomes Related To Attitudes, Behaviors, and Values</b>				
<b>Receiving</b>	<b>Responding</b>	<b>Valuing</b>	<b>Organizing</b>	<b>Characterizing</b>
Students become aware of an attitude, behavior, or value.	Students exhibit a reaction or change as a result of exposure to an attitude, behavior, or value.	Students recognize value and display this through involvement or commitment.	Students determine a new value or behavior as important or a priority.	Students integrate consistent behavior as a naturalized value in spite of discomfort or cost. The value is recognized as a part of the person's character.
Accept Attend Describe Explain Locate Observe Realize Receive Recognize	Behave Comply Cooperate Discuss Examine Follow Model Present Respond Show Studies	Accept Adapt Balance Choose Differentiate Defend Influence Prefer Recognize Seek Value	Adapt Adjust Alter Change Customize Develop Improve Manipulate Modify Practice Revise	Authenticate Characterize Defend Display Embody Habituate Internalize Produce Represent Validate Verify

Basic Knowledge  
Basic Skills  
Level

More Sophisticated Skills  
Higher Level Abilities  
Critical Understanding of Performance

(引用・参考資料 (9)、pp.53~55)

## (6) 目標 (Objectives) と SLO の違い

SLOAC Framework においては、目標 (Objectives) と SLO の違いについて、それらがどのように関係しているのかも理解するよう求められており、その方法として2つのアプローチが示されている。

その1つは、コースの目標がインプットであるのに対して、SLO はアウトプットと理解する方法である。講師とスタッフは、学生がその SLO に達するために必要とされる個々の技術、道具、内容のいずれかを提供する (インプット)。SLO はその反対に、学生が習熟度を証明するために、上述の技術、道具、内容で成し得ることを記述する (アウトプット)。

もう一方の方法は、「巨視的」をキーワードに、SLO を明確にするものであり、「大きな絵」と比喻される。

SLO は、以下のような特徴を有すると解説される (太字部分は、原文で強調されていること)。

- 対象範囲が広く、**高次のレベル**の思考を要求する。 :
- 多くの個別スキル及び多領域の内容の**統合**を、学生に対して要求する。 :
- 学生が学んだことを適用して、何ごとか一論文、プロジェクト、ポートフォリオ、デモンストレーション、パフォーマンス、芸術作品、試験などを**生産する**ように、学生に求める。
- 学生の成果あるいはアウトカム<sup>1</sup>の精通度を測定するために制作物を**評価する**、ないし**査定する**ように、ファカルティに要求する。

これに比して、目標はより極小レベルにあり、個別の技術、道具、及び内容であり、「積み木」と比喻される。目標は個別に実践され得るし、査定され得るものであるが、大抵は全プロジェクトの一部に過ぎないとされる。

なお、目標と SLO の違いについては、以下のような例題も示されている。

以下のテーブルに記述されている違いについて考える。

Objectives	Outcome(s)
Objectives describe skills, tools, and/or content (nuts and bolts) that enable a student to fulfill the outcome(s).	Outcome(s) describe overarching product(s) that students will generate by applying the skills, tools, or content.
Objectives require the use of less sophisticated tasks such as comprehension or replication.	Outcome(s) require the use of higher level thinking such as analysis, synthesis, and evaluation in order to demonstrate students' ability to apply the skills, tools, and/or content in authentic contexts for learning.
Objectives may be impossible to assess because they can often be numerous, specific, and detailed.	Outcome(s) are assessable; they result in product(s) that can be observed as a behavior, attitude, skill, or discrete usable knowledge and can be evaluated against criteria.

(引用・参考資料 (9)、p.18)

これらを踏まえ、SLOを設定することになるが、SLOAC Frameworkでは、その注意点として次の4点を示し、またSLOの適切さを確認するためのチェックリストを開発している。チェックリストについては、下図を参照のこと。なお、文中の「あなた」は読み手（教員など）を意味している。

- 動作動詞を使う。動作動詞のリストについては Appnedix B（本報告 pp.12～14）をみよ。
- そのアウトカムは査定され、あるいはテストされうるものということを確認する。例えば、SLOにおいて態度を記述するときには注意する。それらを査定するのは難しい。その態度はあなたのコースないしサービスにおける成功にとって決定的なのかどうか、自問すること。学生が教えられた知識やスキルを所有しているのに、ある態度を備えていない場合、あなたは満足かどうか。
- 学生が理解するであろう言葉でSLOを書く。SLOは、最終的には、あなたのシラバスに含まれ、あなたが学生たちにそれらを説明することになる。明確さを確かめるために、あなたの専門分野外の同僚に対して、そのSLOの説明をして、彼／女がそれを理解したかどうかを確認する。
- いずれはあなたがそのすべてを査定しなければならないのだから、SLOはせいぜい6つくらいに収める。

## Student Learning Outcomes Checklist

SKYLINE COLLEGE		
Student Learning Outcomes Checklist		
Do the SLOs include active verbs?	Yes	No
Can the SLOs be assessed?		
Do the SLOs address the expected level of learning using Bloom's Taxonomy as a guideline? (See Appendix B.)		
Are the SLOs written as outcomes rather than as objectives? <ul style="list-style-type: none"> <li>• Language indicates an important overarching concept versus small lessons or discrete objectives.</li> <li>• Outcomes address what a student will be able to do at the completion of the course, program or service.</li> <li>• SLOs address student competency rather than content coverage.</li> </ul>		
Are the SLOs appropriate? <ul style="list-style-type: none"> <li>• They are consistent with the course outline of record.</li> <li>• They represent a fundamental result of the course.</li> <li>• If applicable, they align with other courses in a sequence.</li> <li>• They represent collegiate-level work.</li> </ul>		
Will students understand the SLOs?		
If "no" in any category, what will you revise?		

(引用・参考資料 (9)、p.20)

### (7) ワークシートの開発

Skyline College では、SLO を設定する際の手助けとなるように教員、学生サービス・スタッフに対し、それぞれにワークシートを2種類作成している。

その1つが、主要な課題あるいは活動からアプローチするものである。使用するワークシートは、教員が **Worksheet I**、学生サービスのスタッフは、**Worksheet III** である。主要な課題あるいは活動に注目し、左の欄に、コースあるいはサービスの主要課題をすべてあげ、それらの理解を示すために学生が行うこと（内容だけでなく、活動あるいは時間も含む）を記載する。付されている説明文では、「各課題の第一の目的は何か。学生は、何を、各課題の結果として生産するよう期待されているのか。それらが、あなたのアウトカムの生産であり、その明示である」と説明される。右の欄には、この課題において学生が実際に示すよう求められているものを記載する。複合的な課題が1つのSLOを共有することがあるので、SLOの数に応じて、学生が授業の修了時までには獲得するであろう主要な知識、技術、能力、態度を記述することにも注意を要する。

もう一方が、目標からアプローチするものである。使用するワークシートは、教員が **Worksheet II**、学生サービスのスタッフは、**Worksheet IV**である。SLO を既存のコース概要及びサービスに固有の目標から導き出す方法で、付されている説明文によると、「あなたの目標は、あなたが提供するであろう技術、道具、内容とは何かについて明示する。目標を『積み木』とするなら、能力を実際に示すために目標が構築するものとは何か。目標により実現される、より大きな目的にしたがって、目標を分類してみよ」と説明される。ワークシートでは、左側に目標を書き、右側に SLO を記入して整理する。

Student Learning Outcomes Worksheet I ~IV

<b>Student Learning Outcomes Worksheet I</b>	
<b>Course Name and Number:</b> _____	
Major Assignments, Projects, or Tests and their Rationale	Outcome
	Knowledge Skill/Ability or Attitude that a Student Can Demonstrate upon Completion of a Course or Program

<b>Student Learning Outcomes Worksheet II</b>	
<b>Course Name and Number:</b> _____	
Related Objectives Skills, Tools, and/or Content that Instructors Provide and their Rationale	Outcome
	Knowledge Skill/Ability or Attitude that a Student Can Demonstrate upon Completion of a Course or Program

Student Learning Outcomes Worksheet I ~IV

<b>Student Learning Outcomes WorksheetIII</b>	
<b>Course Name and Number:</b> _____	
Major Assignments, Tasks Projects and their Rationale	Outcome Knowledge Skill/Ability or Attitude that a Student Can Demonstrate upon Utilization of a Student Support Services Unit

<b>Student Learning Outcomes WorksheetIV</b>	
<b>Course Name and Number:</b> _____	
Related Objectives Skills, Tools, and/or Content that Student Services Staff Provide and their Rationale	Outcome Knowledge Skill/Ability or Attitude that a Student Can Demonstrate upon Utilization of a Student Support Services Unit

(引用・参考資料 (9)、pp.22~25)

**(8) 課題と SLO の関連付け**

上述のように SLO を設定することに加えて、異なる観点から接近するために、教員が授業に際して設定する様々な課題と SLO との関連についても、SLOAC Framework では言及されている。

SLO に関して課題を批評する際、教員はまず、その課題の妥当性、つまり「課題は SLO の達成に向けて学生を導いているか」、「どのように導いているのか」、「コース目標は (コース概要で述べられているように)、SLO を満たすための橋渡しの役目を果たすのか」について考察する必要がある。

この際、より大きな状況において教員が検討しなければならないのは、「課題が特定の授業のための SLO に関連しているかどうか」、「一連の流れにあってほかのコースにも関連しているかどうか」、「それらがプログラム、機関としての SLO と調和しているかどうか」であろう。この検討プロセスにおいて、教員は、学生を SLO に向けて導くことのない課題を削除すると同時に、包括的に SLO を特定して測定するためにブルームのタキソノミーの認知的、身体運動的及び感情的領域をより十分に表現する課題を開発することを経験するかもしれない。

(8) -① ステップ 1：主要な課題を SLO に関連付ける

Major Assignments Worksheet (下図) を利用して、主要課題によって達成されるコース内の SLO を表示する。

水平方向には、コースにおける SLO を記載する。一般的な経験則からいえば、SLO はせいぜい 6 個くらいがよい。次に、SLO を測定する主要課題を垂直方向に記載する。課題がその SLO について述べている場合、“X” 印を付して使用する。

Major Assignments Worksheet

COURSE NAME AND NUMBER:						
ASSIGNMENT	SLO1	SLO2	SLO3	SLO4	SLO5	SLO6

(引用・参考資料 (9)、p.28)

(8) -② ステップ 2：主要な課題を SLO に関連付けた後に考慮すべき問い

ステップ 1 で課題と SLO の関連付けについて整理した上で、ステップ 2 では次の諸点について考える。

- 課題は学生に SLO の精通度を実証する機会を与えているか。特に、「課題のどれが、SLO のどれを満たすことができないのか」を検討し、その課題を削除して、新たな課題に置き換える必要がある。
- あるいは反対に、SLO は課題の目的をより正確に反映させるために見直す必要があるのか。さらに検討が必要な SLO を丸で囲む。
- 課題は、学生が知識、技術／能力、態度を提示することを求めるが、それらは、教員がまさに成績評価を行っている技術／能力、態度なのか。
- 再度チェックして、あなたが作成したマトリックスが、扱うべき内容ではなく課題に焦点を当てていることを確かめる。

(8) -③ ステップ 3：関係する目標を主要な課題に関連付ける

関連している課題への焦点をしぼり、各主要課題がその完遂に必要なとする資源を特定する。そのため、次の問いは重要である。

- それらの課題を完遂するために学生が学習しなければならない、的確な技術、道具、内容（目標）とは何か。

Activity Assignments Worksheet (次ページ) を利用して、主要課題と、それに伴う授業活動がそれぞれ満たすコース内の SLO を表示する。

## Activity Assignments Worksheet

COURSE NAME AND NUMBER: _____
Brief Description of the Assignment
Which SLOs the Assignment Addresses
Objectives: Skills/Tools/Subject Materials Needed for Students to Complete the Assignment

(引用・参考資料 (9)、p.30)

### (8) ④ ステップ 4: 目標を主要課題に関連付けた後に考慮すべき問い

主要な各課題をみて、以下の問いについて考える。

- 授業内活動、宿題、課題図書及びその他の練習課題は、その課題を成功裏に修めるのに必要な資源を提供しているか。とりわけ、必要不可欠な技術、道具、内容を提供しているか。
- 授業内活動、宿題、課題図書及びその他の練習課題は、その課題が成績評価される前に、学生に対して十分な実践することを提供しているか。与えていないとすれば、置き換える必要があるものはどれか。

SLOAC Framework によれば、この「実践」という概念は、教授を高める手段としての SLO 活用にとって重要な原則の 1 つとされ、知識自体よりも重要視される。その理由は、SLO の熟練には、「学習していることを使って何ごとかをする時間」が必要であるとの認識に立っていることと、実践により学生には一種のフィードバックがもたらされ、形成的な改善が可能となり、教授と学習を向上させるからである。

### (9) コースをプログラムの SLO に関連付ける

コースの SLO をプログラムの SLO に関連付けることによって、プログラム全体の一貫性を査定することができる。そのために、以下の例のようなマトリックスを用いる。

プログラムの SLO を記述した後、それらの SLO がどこで導入され (Inroduced)、どこで実践され (Practiced)、(熟達したレベルで) どこで実演されたのか (Demonstrated) をマトリックスに記入して、分析する。その際、同時に以下の問いについても考える。

- SLO はそれぞれ十分に導入されたか。
- 学生は、SLO を熟達したレベルで証明する前に、実践する機会が十分与えられたか。
- SLO は教員の優先事項を反映しているか。反映していないならば、カリキュラムにおいてより頻繁に言及する、あるいは完全に削除する必要のある SLO はどれか。

Course	Program SLOs				
	SLO1	SLO2	SLO3	SLO4	SLO5
100	I				I
101					P
102	P		P		P
103					P
200	P		P		
229					P
230			P		D
280					
290	D		D		D

(引用・参考資料 (9) 、 p.32)

#### (10) プログラムの SLO を機関の SLO に関連付ける

次いで、プログラムの SLO を機関の SLO に関連付けることによって、教職員は、自らのプログラムが Skyline College 全体を支えているのかどうかを査定することができる。また、この関連付けによって、逆に、機関の核となる能力が教員の優先事項を反映しているかを測定する手段を得ることが可能となる。

機関の使命と SLO の結び付きは、しばしば、核となる能力によってもたらされる。核となる能力は、Skyline College が機関での経験が終わるまでに学生に獲得を求める技術、能力ないし知識である。これらの能力に含まれる典型的なものは、批判的思考、文書または口頭によるコミュニケーション能力、人間の多様性及び成果への意識と理解、個人的及び社会的責任、知的好奇心、知的誠実さと正直さ、専門的成長である。Skyline College の機関としての SLO は、これらの核となる能力を獲得するために設定される。個々のプログラムは、分野に固有の方法で、これらの SLO の獲得に貢献する。

機関レベルの SLO を定義した上で、機関の SLO がプログラムによって支えられていると分析した場合 (s) を記入し、またその反対に、機関の目標がプログラムの目標を反映していると分析される場合 (r) を記入する。その例として、以下のマトリックスが示される。

例	1	2	3	4	5	6	7
Mathematics Program	s	s/r	s/r	r	s/r	s/r	s/r
Art Program	s/r	r	r	s/r	s/r	s	s/r

(引用・参考資料 (9)、p.33)

### (11) Skyline College における SLO の査定について

SLOAC Framework によれば、査定とは、学習の質に関する適切な判定の尺度と高い基準を設定し、学習の実施がそれらの期待と基準に、どの程度合致しているのかを見極める証拠を体系的に収集し、分析し、解釈することである。そして改善するために、結果としてもたらされた情報を活用することである。これらの目標を達成するために、査定は、計画、実行、評価を要する持続的な周期的プロセスでなければならないし、また、教室、学生サービス、部門／プログラム、機関のうち、最低3つのレベルで測定されなければならない。

なお、Skyline College では、査定は第一に、学生の学習を理解し、それを踏まえた諸方策により学習を向上させるために活用されることが強調される。一方で、「査定が目的としないことは何か」という見出しを作り、「査定それ自体を目的として使用しない」、「学生の学習の査定を懲罰に用いることはない」などの基本方針のほか、把握の方法について、単独の査定様式だけで、任意にプログラム決定しない、全ての学生を直接査定することではない、査定は量的なものであるという前提には立たない、といった避けるべき事項についても丁寧に解説している。

また、後段に詳述もするが、機関の査定に採用される方法論として、常に複数の判断を求めること、査定の判定基準を明確にし、かつ周知すること、査定するのは、教員が機関全体と協議の上、重要かつ価値があると判断した技術と知識であることなどの方針が掲げられている。

#### (11) ① 学生の学習の直接的測定及び間接的測定

SLO の設定に続いては、その測定の方法を定めておかねばならない。SLOAC Framework では、SLO の把握の方法としてバランスのとれた査定を意図しており、直接的測定と間接的測定の両者が含まれることに留意するよう求めている。

直接的測定は、知識、技術、能力を提示するよう、学生に対して要求することによって、学生の学習に関する情報を収集する方法である。直接的測定は、しばしばルーブリックを用いた体系的採点システムを必要とする。

間接的測定は、学生の学習の提示よりも、その学習に関する省察を学生（あるいはその他の人々）に求めることによって、学生の学習に関する情報を収集する方法である。間接的測定には、調査、フォーカス・グループからの意見や知見の収集が含まれるのと同様、機関の記録からの適切な統計値の収集も含まれる。

SLOAC Framework には、コース、プログラム、機関、学生サービスの各段階、領域の直接的方法、間接的方法が具体的に例示されている（下表）。

Level	Direct Measure	Indirect Measure
Course	<p>Course and homework assignments</p> <p>Examinations and quizzes</p> <p>Term papers and reports</p> <p>Observations of field work, internship performance, or service learning</p> <p>Research projects</p> <p>Class discussion participation</p> <p>Case study analysis</p> <p>Rubric (rating scale) scores for writing, Oral presentations, and performances</p> <p>Portfolios of student work</p> <p>Pre-test and Post-test</p> <p>Video/Audio tape evaluation</p> <p>Other: _____</p>	<p>Course evaluations</p> <p>Test blueprints (outlines of the concepts and skills covered on tests)</p> <p>Percent of class time spent in active learning</p> <p>Number of student hours spent on service learning</p> <p>Number of student hours spent on homework</p> <p>Number of student hours spent at intellectual or cultural activities related to the course</p> <p>Number of student hours spent in contact with faculty outside the classroom</p> <p>Other: _____</p>
Program	<p>Capstone projects, theses, exhibits, or performances</p> <p>Pass rates or scores on licensure, certification, or subject area tests</p> <p>Student publications or conference presentations</p> <p>Employer and internship supervisor ratings of students' performance</p> <p>Other: _____</p>	<p>Focus group interviews</p> <p>Registration or course enrollment data</p> <p>Department or program review data</p> <p>Employer or alumni surveys</p> <p>Student perception surveys</p> <p>Proportion of upper-level courses relative to the same program at other institutions</p> <p>Job placement rates</p> <p>Number of faculty hours spent collaborating</p> <p>Internship evaluation</p> <p>Retention studies</p> <p>Transfer rates</p> <p>Graduation rate</p> <p>Course success rate</p> <p>Diversity statistics</p> <p>Other: _____</p>
Institution	<p>Performance on tests of writing, critical thinking, or general knowledge</p> <p>Rubric (grading scale) scores for class</p>	<p>Locally-developed, commercial, or national surveys of student perceptions or self-report activities (e.g., National</p>

	<p>assignments in GE, interdisciplinary core courses, or other courses required by all students</p> <p>Performance on achievement tests</p> <p>Explicit self-reflections on what students have learned as a result of required community service or other experiences</p> <p>Other: _____</p>	<p>Survey of Student Engagement)</p> <p>Transcript studies that examine patterns and trends of course selection and grading</p> <p>Annual reports including institutional benchmarks</p> <p>Focus group evaluation</p> <p>Tracking Alumni honors/awards</p> <p>Retention studies</p> <p>Study abroad rates</p> <p>Transfer rates</p> <p>Graduation rate</p> <p>Course success rate</p> <p>Diversity statistics</p> <p>Job placement statistics</p> <p>Other: _____</p>
Student Services	<p>Locally developed tests</p> <p>National standardized tests (e.g. CCSEQ, LASSI)</p> <p>National licensure exam</p> <p>Pre and post tests</p> <p>Evaluation of student work samples (portfolios, capstone projects, etc.)</p> <p>Evaluation of student performance on a case study or problem analysis</p> <p>Observation and evaluation of student behavior</p> <p>Externally reviewed internship</p> <p>Other: _____</p>	<p>Home grown or standardized surveys (mailed, online, phone)</p> <p>Focus groups</p> <p>Staff and student journals</p> <p>Academic performance after transfer</p> <p>Exit interviews</p> <p>Analysis of college or departmental records</p> <p>Usage rates</p> <p>Student Satisfaction studies</p> <p>Other: _____</p>

Adapted from: Middle States Accrediting Commission  
Assessment of Student Learning: Options and Resources

(引用・参考資料 (9)、pp.40~41)

#### (11) ー② 査定計画を開発するための指針

査定計画を開発するとき、誰を査定し、どの活動ないし査定を用いるのかを特定するだけでなく、手段と方法論の種類及び最低限容認しうるパフォーマンスを特定することが重要であるとされる。SLOAC Framework では、その開発の指針となるよう開発時と結果報告時のテンプレート（次ページ）を示し、査定計画を支援している。

### 意図される SLO

1. 学生が、コースあるいはプログラムの修了時に行うよう期待されること、及び知るよう期待されていることは何か。

### 査定アプローチ、主要課題、方法及び判定基準

1. 誰が査定されるのか（例えば、すべてのセクション、全セクションにわたる学生のサンプリング、選択されたセクションなど）、また頻度はどのくらいか。
2. 査定に使用されるのは、どの主要な活動ないし課題か（例えば、最終試験、デモンストレーションあるいはプロジェクトなど）。
3. 学生の進歩、ないし意図された SLO の達成に関するデータの収集に使用されるのは、どの測定手段及び方法論か（例えば、直接的測定ないし間接的測定、また、量的ないし質的）。
4. 期待される最低限のパフォーマンス、ないし許容される最低限のパフォーマンスは何か。

### アウトカムの結果

1. 査定の結果は何か。
2. その結果は、以前に収集された基準線ないしベンチマークのデータといかに比較されるのか。

### 分析と行動

1. 教授、学習、そして／あるいはサービスに関する情報を伝えるために、その結果はいかに使用されるのか。
2. あなた、あなたのプログラムないし機関は、その結果についてどのようにフォローアップを行うのか。
3. その結果は誰と共有されるのか。

### SLO Assessment Plan - Template

Department:

Course:

Expected SLO	Assessment Sample, Major Assignment/Activity, Assessment Instrument & Performance Criteria Approach	Term
1.	1.1 Major Assignment: Assessment method Criteria	1.1

### SLO Assessment Report – Template

Department:

Course:

Term:

Expected SLO	Outcome Results	Analysis&Action
1.	1.1	1.1

(引用・参考資料 (9) 、 pp.43～44)

## 6-2. Santa Rosa Junior College (SRJC)

### (1) 面談者

Kris Abrahamson : Dean, Liberal Arts and Sciences

Victor Cummings : Dean II, Letters, Language Arts & Academic Foundations

Craig Foster : SLO Coordinator, Chair of English Department

なお、いずれも Project LEARN Steering Committee の構成員である。

### (2) 組織

Santa Rosa Junior College (以下、SRJC と略記する) は現在、包括的な SLO 査定プログラムに取り組んでいる。その名称が “Project LEARN” であり、既述の ACCJC のスタンダードに応じてつくられた。

Project LEARN の推進に当たっては、全教員評議会 (Academic Senate) 、アドミニストレーター、学生自治会で構成される Project LEARN Steering Committee が設置され、展望や方向性、目標を定める。その下に、3 つのワーキング・グループ (c-LEARN、pro-LEARN、i-LEARN) が設けられ、コース、プログラム及び機関レベルの SLO 査定を促進している。

c-LEARN は、コースレベルの SLO に焦点を当て、それに適した査定方針と方法を開発してきており、教員、デパートメント及びプログラムがそれら自身の SLO 査定プロジェクトを開発し、実行することを助長する指導的組織として活動している。コースレベルの査定は、教員が学習を評価し、結果を分析して教育改善を行うことのできる教室で始まる。コースレベルでは、査定プロジェクトは、コース修了時に SLO が達成されているかどうかを測るために組織化される。

pro-LEARN は、プログラムレベルの SLO に焦点を当て、プログラムとデパートメントが、さらに包括的なプログラムレベルの SLO を明確にして査定するのを支援する。Project LEARN の目的とする教育プログラムは、職業修了証 (occupational certificate)、職業学位 (occupational degree)、編入の専攻 (transfer major)、あるいは明確な目標に導かれ相互に結びついたコース群と定義される。プログラムレベルの査定では、教員が協働してプログラムの SLO を特定し、査定計画を開発して、学生がプログラムを修了した結果として提示可能な SLO を評価する。

i-LEARN は、機関レベルの SLO を対象とし、機関の SLO を高め、査定する。機関レベルの目標は、「SRJC の学生であること」の結果として、「全学生が知ること、できることは何か」について同意を得るため、教職員、全地区のマネージャーから情報を引き出すことである。

なお、ワーキング・グループのメンバーは、教員とアドミニスレーターの間で均等に割り振られる。また、3 人の SLO コーディネーターが設定されており、SLO の設定や査定に関して支援を受けることができる。

### (3) 経緯及び現状

SRJC では、5 年前から当該プロジェクトに取り組んでおり、現在 2500 コースのうち 700 コースに SLO が設定されている。30%ほどのコースに SLO が設定されていることになるが、SRJC の自己分析によれば、いいシステムを有していると自負するものの、SLO が実際に設定されているコースは多くないと感じているようである。理由として、SLO を「書く」ことに集中してきた機関よりも、実際の学生の評価に重点を置いてきたからと分析している。

また、インタビューによれば、学問の自由の観点から、教員が抵抗感を持ち、賛意を得難かった状況があったという。面談者の見解によれば、委員会などが SLO を表明する、設定しようとすることを受け、「各教員が同じ内容を、同じスケジュールで、同じ方法で教えなければならないのではないかと不安に感じたのではないかとのことである。そのため、データを集める際も教員個人が分かるようにせず、個々の授業のより多くのデータを収集したいということや、後述の査定の方針を明確にするなどした。また、理解を得るために、SLO コーディネーターが一人ずつと面会し、説明、質疑応答を行うことや、デパートメントの会議にも出向き同様に説明を行うなどの方策を採ってきた。現在では、理解が得られているようであり、それは面談中の「このようなプロジェクトを（強行せずに）行えていることは大変いいことだ」という発言にも看取できる。「協同して SLO の分析に当たることがどのようなことか分かることが非常に有用」であるとの発言もあり、共通理解を持つことの重要性が強調されている。

SLO 査定を進める具体的な取り組みの 1 つとして、ワークショップの開催があげられる。各学期に 2 日間ずつ、計 4 日間が設定されており、SLO について 5 つの研修内容を実施している。なお、2 日間は公的、組織的な研修で、キャンパスの全員が参加する。教員に対しては、さらに 2 日間が設定されているが、同じ内容の研修を行うわけではなく、ほぼ毎週、異なったワークショップを開催し、教員がその中から選べるように工夫されている。

もう 1 つの具体的な取り組みとして、“Project LEARN” についての冊子 (Course and Program Student Learning Outcomes Assessment Handbook - Course and Program Level Principles and Practices) (以下、Assessment Handbook と記す、引用・参考資料 (10)) とウェブサイトが作成されている。

以下、SRJC の取り組み、“Project LEARN” について詳述するが、その記述は上記 Assessment Handbook や関連ウェブサイトによるものであることをあらかじめ記しておく。

#### (4) 査定の原則

SRJC では、査定に当たって、次の原則を掲げている。

- 教員は SLO を特定して、査定手段を定め、機関を向上させ強化するためにどのようにその結果に対処するのかを決める。
- 査定は持続的プロセスである。教員もカレッジ・サービス職員も、定期的に SLO の成果を査定する。
- 改善に資するために、査定はアクレディテーション機関の訪問後にも、またそれとの関わりとは別に、継続させる。
- 査定は機関の目を質に向けさせる。
- 査定の結果は、個々の教員あるいは職員の評価には結び付かないし、結び付けるべきではない。
- 査定は学習プロセスを分析するのであって、個々の学生、教員、コースを分析するのではない。

#### (5) Five Row Model

SRJC の開発した査定プロジェクトは、「SLO の叙述」から「フォローアップ査定」までの 5 段階の作業をモデルとして想定しており、ゆえに“Five Row Model” と呼称されている。これは、コース及びプログラムレベルの SLO の開発と報告、そしてキャンパス全体の結果査定に使用されるモデルである (次ページ)。このモデルに基づきながら、作業を行い、次ページに掲載した様式に記録していく。具体的には、第 1 段階の作業 (step1) に取り組み、その内容などを次ページに掲載した様式の Row1 に記述するような対応関係にある。

SRJC Five Row Model / SLO Assessment Form の段階的手引き

Step 1 : 対象とする学生の学習成果を叙述する	→	Row 1
↓		
Step 2 : 査定方法及び成功を示す判定基準 (criteria) を決定する	→	Row 2
↓		
Step 3 : 査定活動を実施して結果を文書化する	→	Row 3
↓		
Step 4 : 結果を活用してプログラムあるいはコースを改善する	→	Row 4
↓		
Step 5 : フォローアップ査定を実施する (オプション)	→	Row 5

(引用・参考資料 (10) 、p.6 を翻訳して作成した。)

SRJC 5-Row Learning Assessment Project Form

(ただし、以下のものは、記入方法が注記されているもので、本来は空欄である。)

<b>SRJC 5-Row Learning Assessment Project Form</b>			
<i>Use this form for both proposals AND final reports.</i>			
Department: _____		Program or Course: _____	
Team Members: _____		Team Contact Email _____	
Project purpose, goal or research question: <i>Explain how the LAP and its results will be used by the department.</i>			
1	Student Learning Outcome Statements	Date	List the SLO(s) that you assessed.
2	Assessment Method & Criteria for Success (Attach copies of instruments, rubric, etc. if available.)	Date	Explain how you assessed the SLO or how you plan to assess it: Details include number of sections, approx. # of students, type of tool (writing sample, test questions, survey, observation, etc.) and how the results were assessed (score, rubric, pre/post tests, survey results, etc.). If possible, attach samples of the tool and scoring device (i.e., rubric) if appropriate, and any other information about how the assessment was completed.
3	Assessment Results	Date	<i>(The next 2 sections will be completed after the results have been collected and analyzed.)</i> Explain your results and conclusions. You can attach data if useful, or just summarize. Describe anything you learned through the assessment (e.g., student strengths, weaknesses; unexpected results; flaws in the study; instructor observations, etc.).
4	Changes/Improvements Implemented	Date	Explain what changes your department or individual instructors might or will make to address the assessment results. You might also decide to re-assess in a different way or change the SLO. Be specific about plans to make changes and forms for follow-up assessment.
5	Results of Follow-Up Assessment	Date	This information may not be available after the first reporting, but it is always in a department's best interest to have follow up to see if changes made a difference (part of the ongoing cycle of teaching and assessment). While a follow-up report is not currently required by C-Learn, the department should keep an ongoing record of follow-up assessment, results, and changes in teaching.
<i>All reports should be sent to Victor Cummings, the dean that supervises C-Learn.</i>			

( [http://www2.santarosa.edu/media/project\\_learn/Five%20Row%20Learning%20Assessment%20Project%20Form%20Explained.pdf](http://www2.santarosa.edu/media/project_learn/Five%20Row%20Learning%20Assessment%20Project%20Form%20Explained.pdf) )

これら各作業段階の内容について、Assessment Handbook をもとにまとめる。なお、この Five Row Model は、コース及びプログラムレベルに使用されるものであるから、その両者の留意事項が記載されている。

#### (5) ① Step 1 : 対象とする学生のコースあるいはプログラムの SLO を叙述する

1 つの SLO は、学生がそのコースにおいて獲得すべき知識、技術、能力、あるいは価値を述べたものである。SLO はしばしば多様な目標を包含し、直接の査定を可能とするものであり、教室外での、あるいは将来の教育的コンテキストにおける学習への適用を予測する。通常、1 コースには 1～5 個の SLO がある。

プログラムレベル：学部内の、あるいはプログラム内の教員は、特定のコース群、例えば修了証、アソシエート・ディグリー、あるいは編入で要求されるコース群を修了する学生に期待される SLO について議論する。査定をするためには、3～5 程度のアウトカムを選定すべきである。

コースレベル：教員は、コースレベルの SLO 査定に共同で取り組み、コースの SLO について検討する。既存のコース概要記録 (course outlines of record) に SLO がなければ、まさに今がそれらを書くタイミングである。査定プロジェクトのために、それらを検討して 1 つないし 2 つを選定する。

両レベル：SLO Assessment Form の Row1 に SLO を記入する。選定された SLO には、それぞれ別のページを使用する。

なお、この段階の注意事項として、「測定可能な SLO を書く技術を取得するには時間がかかる」と述べられており、SLO を書くにあたって以下の 5 つの具体的な注意事項が付されている。

- プログラムないしコース修了時に「学生ができるようになること」に焦点をあてる。育成を期待する知識、技術、能力あるいは価値を、学生がどのように実際に示すのかを熟考する。
- 動作動詞を使用する。動作動詞は観察可能で測定可能な一定の態度を明確にする。SLO を決定するときには、コースで要求される最高レベルの思考を反映する動詞を使用する。例えば「学生は庭にふさわしい植物を選ぶことができるだろう」と書かれた SLO は、批判的思考のプロセスを反映すると「学生は、さまざまな土壌と光の条件に対する適合性に照らして植物を評価し、選定することができるだろう」と表現される。この SLO は判定基準も表現し、能力も測定している（動作動詞のリストは、次ページに掲載する）。
- 同じ専門分野及びその他の専門分野の教員と SLO を共有する。プログラムレベルの SLO に焦点を合わせるとき、SLO がプログラム全体にとって重要であるという合意に達することが大切である。学科全体で共有することもまた、ステートメントの意味に目を向けるのに役立つ。コースレベルの SLO に焦点を当てるときは、

コースにとって包括的な SLO を表しているのはどの SLO なのかについて、意見が一致することが重要である。

- 学生と SLO を共有する。学生は、自分たちに何を期待されているのかを明確に理解する必要がある。専門分野特有の言語に不慣れな彼らに SLO を理解させることは、SLO を明確にすることにもつながる。
- 経験から学んで修正する。実際に査定を始めると、何かしらの不備が SLO それ自身において特定されるだろう。査定プロジェクトを終えた後、その SLO の見直しが必要であることに気づくかもしれない。

### 動作動詞リスト

VIII. Active Verbs list					
Curriculum Writer's Handbook: ACTION VERBS					
Adapted from Bloom's Taxonomy of Educational Objectives, 1956 (1st ed.) and other sources.					
Knowledge	Comprehension	Application	CRITICAL THINKING		
			Analysis	Synthesis	Evaluation
Arrange	Account for	Add	Analyze	Arrange	Accept
Choose	Alter	Adopt	Appraise	Assemble	Appraise
Cite	Annotate	Apply	Arrange	Blend	Assess
Count	Calculate	Calculate	Audit	Build	Award
Define	Choose	Capitalize	Break down	Categorize	Censure
Describe	Cite examples of	Change	Calculate	Collect	Choose
Draw	Comment	Choose	Categorize	Combine	Classify
Duplicate	Compute	Classify	Check	Compile	Compare
Find	Convert	Complete	Combine	Compose	Conclude
Group	Defend	Compute	Compare	Conceive	Contrast
Identify	Define	Construct	Contrast	Construct	Criticize
Label	Demonstrate	Demonstrate	Criticize	Create	Critique
List	Describe	Develop	Debate	Design	Decide
Locate	Differentiate	Discover	Deduce	Develop	Decree
Match	Discriminate	Divide	Design	Devise	Defend
Memorize	Discuss	Dramatize	Detect	Drive	Determine
Name	Distinguish	Draw	Develop	Effect	Estimate
Outline	Estimate	Employ	Diagram	Explain	Evaluate
Pick	Expand	Examine	Differentiate	Form	Grade
Point to	Explain	Exercise	Discriminate	Formulate	Interpret
Quote	Expound	Generalize	Dissect	Generate	Judge
Read	Express	Graph	Distinguish	Group	Justify
Recall	Extend	Illustrate	Evaluate	Hypothesize	Measure
Recite	Extrapolate	Interpret	Examine	Integrate	Prioritize
Recognize	Generalize	Interpolate	Experiment	Make	Rank
Record	Give examples	Interview	Identify	Make up	Rate
Relate	Identify	Make use of	Illustrate	Manage	Recommend
Repeat	Illustrate	Manipulate	Include	Modify	Reject
Reproduce	Indicate	Modify	Infer	Order	Revise
Say	Infer	Operate	Inspect	Organize	Rule on
Select	Interpret	Organize	Inventory	Originate	Score
Show	Locate	Perform	Look into	Outline	Select
Sort	Paraphrase	Practice	Outline	Plan	Settle
Spell	Predict	Predict	Point out	Predict	Summarize
State	Project	Prepare	Put into list	Prepare	Support
Summarize	Propose	Produce	Question	Prescribe	Test
Tally	Qualify	Put in action	Reason	Produce	Validate
Tell	Rearrange	Put to use	Relate	Propose	Value
Underline	Recognize	Relate	Screen	Rearrange	Weigh
Write	Report	Schedule	Search	Reconstruct	
	Restate	Shop	Section	Relate	
	Review	Show	Select	Reorganize	
	Rewrite	Sketch	Separate	Restructure	
	Select	Solve	Sift	Revise	
	Spell out	Subtract	Simplify	Rewrite	

			CRITICAL THINKING		
Knowledge	Comprehension	Application	Analysis	Synthesis	Evaluation
	Submit Summarize  Tell Transform Translate	Translate Try  Use Utilize	Solve Study  Subdivide Summarize Survey Take apart Test Test for Utilize	Set up Show relationship Specify Structure Summarize Synthesize Transform Write Yield	

(引用・参考資料 (10) 、 pp.30~31)

(5) ② Step 2 : 各プログラムないし各コースの SLO の査定方法及び成功を示す判定基準を決定する

SLO を設定した後、それらをどのように査定し、成功を示すためにどのような判定基準を使うのかを決定する。査定には、直接的方法と間接的方法があり、直接的な査定方法は学生に対して知識と技術の証明を求め、期待される SLO の成果を直接測定するデータの提供を求める。間接的な査定方法が求めるのは、観察可能で直接的な証拠とは別の情報源から、学生の実際の技術、能力、知識及び価値を推論することである。間接的な方法だけで十分な証拠が提供されるとは考えられないが、両者とも有効である。多くの場合、既存の査定手段を使ったり、修正したりする。多くの人がすでに下記のいくつかの査定方法を活用している。

査定の直接的方法の例 :

- ① キャップストーン・コース (Capstone Course) 評価 : キャップストーン・コースでは、1 プログラムにおける学習の全段階に関連する知識、コンセプト及び技術を統合する。この査定方法がユニークなのは、コースそれ自体が学生の教授と学習を査定するための測定手段になることである。これらのコースにおける学生の活動成果評価は、SLO を査定する手段として活用される。単独のキャップストーン・コースでは実行できず、また、単独では望ましくないアカデミック・ユニットに対しては、学部はコースの小グループを指定してもよい。その小グループにおいて、専攻を修了する際の能力が測定されることになる。
- ② 収集したポートフォリオ : 教員は、さまざまなクラスから学生の活動成果のサンプルを集め、その「集めたもの」を用いて特定のプログラムの SLO を査定する。
- ③ 商業的に作成された、あるいは標準化されたテスト : 商業的に作成された、あるいは標準化されたテストは、制御された条件下で学生の能力を測定するために使用される。テストは特定の学習分野において学生が獲得した学習レベルを見極めるために、全国で展開され測定される。例えば、多肢選択式の全国统一テストは、ほかのプログラムや全国データと比較して、プログラムの強みと弱みを見いだす際に広く用いられ、学部を支援する。
- ④ 課題ないし試験に組み込まれる質問 : プログラムの SLO に関係する問いは、コ

ースの課題ないし試験に組み込むことができる。例えば、「リサーチ方法」のセクション全てが、プログラムの SLO に関係する問いあるいは一連の質問を含み得る。教員はいつものとおり試験を採点して、その後、分析のためにプログラムの SLO に関連する問題を取り出す。その結果はまとめて報告される。

- ⑤ **局所的に展開される最終試験：**教員は、プログラムの SLO に関連して、卒業を迎える学生用の客観的な試験を作成することができる。期待される成績は、結果を得る前に明確しておいた方がよい。
- ⑥ **テスト前／テスト後の評価：**テスト前／テスト後の査定は、アカデミック・ユニットによって活用される方法であり、このアカデミック・ユニットでは、局所的に展開されるテスト及び試験が、コースないしアカデミック・プログラムの開始時と終了時に実施される。これらのテスト結果によって、教員は、所定の期間を通じて学生の進行具合と学習をモニターすることができる。その結果はしばしば、技術と知識が不足し、かつ、その不足が最も頻繁に現われる箇所を見定めるのに役立つ。
- ⑦ **学生のプレゼンテーション：**パフォーマンスや芸術作品プロジェクトのような、振る舞いに対する観察も、査定のために用いることができる。これらのプレゼンテーションないしパフォーマンスは、コメントを使って、あるいはルーブリックのような構造化されたフォーマットで評価され得る。
- ⑧ **ルーブリックによる採点：**ルーブリックは、エッセイ、ポートフォリオ、独演（唱）会、口頭試問などのような、いかなる作品ないしパフォーマンスの採点にも使用可能である。レベル間の区別のために用いられる判定基準を明確にし、詳細な採点法が開発され、活用される。一般的に、2 人の評価者が各作品を批評し、3 番目の評価者が相違を解決するために設定される。
- ⑨ **ビデオテープとオーディオテープによる評価：**ビデオテープとオーディオテープは、学生の技術と知識についての一連のテスト前／テスト後査定として教員が活用してきた。演劇、音楽、芸術、コミュニケーションのような分野では、その他の査定方法の活用が困難であったが、ビデオテープとオーディオテープを査定手段として活用することに大きな成果をあげた。

#### 間接的方法の例：

- ① **卒業生調査：**卒業生の調査は、専門職への学生の準備、プログラムの満足度及び科目の妥当性についてデータを生み出す査定ツールとして、有益である。卒業生調査は、学部拡大ないし強化が必要なプログラム領域を浮き彫りにする多様な情報をもたらす。
- ② **雇用者調査：**雇用者調査は、ほかの査定形式では生み出し得ない、カリキュラム、プログラム及び学生についての情報を提供し得る。学部がこの調査に伝統的に求めてきたものは、卒業生の能力と技術に関しての雇用者の満足度レベルである。雇用者はまた、絶えず進展する労働市場での学生の成功に言及することで、プログラムの特性も査定する。
- ③ **外部評価者：**アカデミック・プログラムのピア・レビューは、科目配列、コー

スの開発と提供、教員の有効性を査定する方法として広く受け入れられている。外部評価者の活用は、学生の成果が学部の目標と目的に適切に関連しているのかどうかを分析する方法として有益である。

- ④ **学生の出口インタビュー／調査：**フィードバックを得るために、機関を卒業する学生に対してインタビューないし調査を行う。取得したデータから、プログラムの強みと弱みをとらえることができ、関連するコンセプト、理論ないし技術を査定しうる。

様式の Row 2 には、記載された各 SLO に対して使用する特定の査定方法を記述する。具体的には、査定が誰に対して、いつ実施されるのか、その結果は誰によって、どのように判定されるのか、そして、参加者グループにはどの程度の成果が予想されるのか、というのが記すべき内容となる。

#### (5) -③ Step 3 : 査定活動を実行して文書化する

査定活動の実行は、おそらく最も難しく、かつ多大な時間を要する過程である。プログラム及び機関にとって入手可能なリソース（時間、テクノロジー、そして予算）に基づいて、合理的な査定技法を必ず選択することが求められる。

様式の Row3 に各査定方法の結果を記述する。査定結果は Row2 に記載された方法から直接導き出され、SLO がどの程度達せられたかを明らかにするべきであり、また、その査定の最も重要な結果について読み手に伝えるのに十分な詳細さを備えているべきである。

#### (5) -④ Step4 : プログラムあるいはコース改善のための査定結果を活用する

査定結果が集められたら、教員は、プログラムないしコースが成功する領域に関して、また、改善がなされ得る領域に関して、その結果が明らかにしていることについて議論する。また、どのような行動を取るべきかを決定する。

様式の Row4 には、結果をどのように、誰と共有するのかについて正確に述べ、計画され、実行された改善について記し、そして誰が実施とフォローアップの責任者なのかを明記する。行動する必要がないこともありうるが、行動は、通常、実質的に詳述されるべきものである（例えば、カリキュラムへの変更がなされたコース番号を記載する）。

#### (5) -⑤ Step5 : フォローアップ査定を実施して、プログラムあるいはコース改善の有効性を見極める（このステップはオプション）

カリキュラムの変更は最初の査定を機に行われるが、それらの有効性を検証するために、続けて、2 回目の同じ査定を行ってもよい。機関や教職員の目標が学生の学習向上にあるなら、変化がプラスの影響をもたらしたのを見極めなければならない。そこで、同じあるいは同等の学生集団に対して、同じ方法で査定する必要がある。

先述した通り、フォローアップ査定の結果については、査定プロジェクトチームのメンバー、その他の学部のメンバー及びその他の機関関係者によって詳細に分析され、広く議論されるべきである。

SLO 査定は持続的なプロセスである。このフォローアップ査定の結果を集め、その結

果を最初の査定と比較する。カリキュラムと査定方法それ自体の開発及び計画の観点から、何が機能し、そして何がまだ改善し得るかについて考える。

## 7. 調査のまとめ

本節では、本調査の成果をまとめつつ、そこで得た示唆、今後の課題などについて考察したい。

評価機関 ACCJC の SLO への取り組みは、2002 年のスタンダード改定時に大きく動き出した。ACCJC の取り組みは、必ずしもこの年から始まったわけではないが、大きな基点として位置付けることができよう。その背後には、高等教育研究における蓄積、Alverno College の方法論の共有化、連邦教育省の評価機関への要求と様々なベクトルが存在しており、これらが合成され、ACCJC のスタンダード改正へと結びついた。

スタンダード改正時から ACCJC では、会員機関に SLO への取り組みについて、周知し、理解を求め、いくつかの支援を行ってきた。到達段階（4 段階）の設定、時期を区切った目標設定、会員機関の状態の収集、ニュースレターなどによる情報提供である。これらの取り組みの特徴として注目しなければならないのは、その長期的かつ系統的な計画であろう。「プログラム・レビュー」、「プランニング」、「SLO」の 3 分野と、そのそれぞれに「認識」、「開発」、「熟練」、「持続的・継続的な質の改善」という 4 つのレベルを設定したルーブリックを作成し、いつまでに、どのレベルに達するかを、長期的な視野に立って設定している。その期限も 2012 年まで（ACCJC の評価においては、10 年に 1 度は評価を受けることになっているので、2002 年から 2012 年までに 1 度は改正スタンダードの下、評価を受けていることになる）と比較的長い。それだけの時間をかけながら、その本旨を理解し、実践するからこそ、定着が見込めるということであろう。また逆に、アクレディテーションの長い歴史、経験を有しているにも関わらず、これだけの時間を費やさなければならないのであるから、SLO を把握し、改善につなげる行動が容易ではないことも推察される。

もう 1 点特徴をあげるならば、会員機関の状況把握における緻密さであろう。本調査の課題である SLO に限定しても、会員機関の ALO が提出する Annual Report などから、SLO の取り組みの進捗状況を数値的に、同時にルーブリックにおける位置を把握しながら方策を検討しており、緻密な状況把握に基づく評価機関の支援の在り方を考えさせられる。また、本報告中では言及しなかったが、これまで紙媒体を使用していた Annual Report は、近年中にインターネットのウェブサイトを利用した収集方法に移行することである。より円滑に情報を収集、蓄積し、より深い分析を行うためには、新しい技術の活用も視野に入れねばならないと省察される。

なお、今回の調査においては、SLO に関する取り組みについての基礎的な情報収集を目的としたことから計画に含めることができなかったが、ACCJC が行う評価員や ALO に対するトレーニングも研究対象として興味深く、今後の課題の 1 つとしたい。

また、評価を受ける側として、ACCJC の会員機関を 2 校調査できたが、共通してみられた取り組みとして、①専門委員会の組織、②SLO 検討のためのツール開発、③学内の共通理解の促進があげられる。

既述の通り、SLO は各授業ばかりでなく、課程、機関の各レベルで策定されるものであるから、全学的な委員会組織をつくり、諸策を講じることとなる。委員会の構成員も、各学部・学科、教育・学生サービス関連部門、管理運営関連部門、さらにはアクレディテーションのための委員会などから選ばれ、さらに Skyline College の組織関係図 (p.8) にみるように、他の委員会などとも連携しながら推進を図ることになる。それでもなお、SRJC の SLO コーディネーターのように、個別に説明する必要があることや、両機関とも個々の教員の評価に結び付かないことを特に示していることなど、共通理解を促進するには、かなりの困難があることが推察される。両機関の関係者とも、共通理解することが最優先の課題と指摘しており、そのためのウェブサイト、冊子などを入念に作成している。加えて、共通で使用できる様式類、使用する動詞の例示など、教員が共通理解を有しながら、かつ敷居を低くしながら SLO の設定、査定に取り組む工夫をしている。これらツールの開発状況まで明らかにはできなかったが、その開発の経緯にも多くの示唆が含まれていることが予想され、今後の研究対象の1つと考えるべきであろう。

さらに、両機関とも、そして ACCJC も SLO を慎重に扱っていることにも注目しておきたい。SLO の査定によって得られるデータは、あくまで機関の成果の一部、SLO の一部、改善に取り組むための1つのデータという位置付けあるいは姿勢を維持している。

なお、コミュニティ・カレッジの2機関の取り組みについて比較してみると、Skyline College は SLO の設定に力を入れ、どのように SLO を定めるか、課題と関連付けるか、従前の「目標」との差異は何かについて、詳細に資料にまとめている。一方、SRJC は SLO を設定することよりも、どのように評価、把握するかに重きを置いた取り組みとなっていた。このように取り組みの重点に差が出ているのは、コミュニティ・カレッジは自らの状況に合わせて適当な方法を採用していることの表れとも理解できる。

本調査は、あくまでアメリカの大学評価における SLO の基礎的な情報、状況の把握を試みたに過ぎない。今後、取り組みを推進する委員会組織や SLO コーディネーターの具体的な役割、機関全体の SLO 把握とそれを踏まえた改善活動、評価機関における SLO の扱い方、ルーブリック開発の経緯・議論の内容、SLO 査定とその機関改善への利用による効果といった課題も想定され、SLO についての本質的な理解をより深めていく必要があるだろう。

## 8. 引用・参考資料及びウェブサイト

- (1) Barr, R. and Tagg J. (1995) From Teaching to Learning: a new paradigm for undergraduate education, *Change*, 27, pp. 13-25.

(ACCJC)

- (2) Accreditation Standards Annotated for Continuous Quality Improvement and SLOs (Jan 06)
- (3) Commission Sets Timeline on Student Learning Outcomes Implementation, ACCJC Newsletter Spring 2008
- (4) On Student Learning Outcomes, ACCJC Newsletter January 2002
- (5) Student Learning Outcomes: Proficiency by 2012, ACCJC Newsletter Summer 2008

(Skyline College)

- (6) Official Course Outline Of Record – Guidelines for Preparing Course Outlines
- (7) SKYLINE COLLEGE PROGRAM REVIEW SELF STUDY
- (8) Skyline College Official Course Outline
- (9) The Skyline College SLOAC Framework: An implementation Guide for the Student Learning Outcomes and Assessment Cycle (Beta version)

(Santa Rosa Junior College)

- (10) Course and Program Student Learning Outcomes Assessment Handbook – Course and Program Level Principles and Practices

#### ウェブサイト

- (11) ACCJC, <<http://www.accjc.org/>> (2009年3月31日)
- (12) Skyline College, <<http://www.skylinecollege.edu/>> (2009年3月31日)
- (13) Skyline College, SLOAC, <<http://www.skylinecollege.edu/facstaff/govcommittees/sloac/index.html>> (2009年3月31日)
- (14) Skyline College, College Accreditation, <<http://www.skylinecollege.edu/future/aboutskyline/accreditation.html>> (2009年3月31日)
- (15) Santa Rosa Junior College, <<http://www.santarosa.edu/index.shtml>> (2009年3月31日)
- (16) Santa Rosa Junior College, Project LEARN, <<http://www2.santarosa.edu/pages/project-learn.php>> (2009年3月31日)
- (17) Santa Rosa Junior College, Accreditation, <<https://www.santarosa.edu/accred/>> (2009年3月31日)

#### 9. 文責

本報告は、調査団員である和賀及び櫻井一江（評価研究室研究員）が執筆しており、文責はこの2人にある。

# Accreditation Standards Annotated for Continuous Quality Improvement and SLOs (Jan 06)

Blue type references assessment, research, planning and continuous quality improvement.

Violet type references responsibilities of the governing board.

Yellow highlights reference focus on teaching (instruction) and learning, and SLOs.

## Introduction to the Accreditation Standards

---

### Shaping the Dialogue

The primary purpose of an ACCJC-accredited institution is to foster learning in its students. An effective institution ensures that its resources and processes support student learning, continuously assesses that learning, and pursues institutional excellence and improvement. An effective institution maintains an ongoing, self-reflective dialogue about its quality and improvement.

An institution-wide dialogue must be at the heart of the self-evaluation process for the college community to gain a comprehensive perspective of the institution. Although the standards are presented in four parts, they work together to facilitate this dialogue on the institution's effectiveness and on ways in which it may improve. The self study provides the Commission with the institution's assessment of itself as a whole.

The institutional mission provides the impetus for achieving student learning and other goals that the institution endeavors to accomplish. The institution provides the means for students to learn, assesses how well learning is occurring, and strives to improve that learning through ongoing, systematic, and integrated planning (Standard I). Instructional programs, student support services, and library and learning support services facilitate the achievement of the institution's stated student learning outcomes (Standard II). Human, physical, technology, and financial resources enable these programs and services to function and improve (Standard III). Ethical and effective leadership throughout the organization guides the accomplishment of the mission and supports institutional effectiveness and improvement (Standard IV).

A college-wide dialogue that integrates the elements of the Standards provides the complete view of the institution that is needed to verify integrity and to promote quality and improvement.

## Standard I: Institutional Mission and Effectiveness

---

The institution demonstrates strong commitment to a mission that emphasizes achievement of student learning and to communicating the mission internally and externally. The institution uses analyses of quantitative and qualitative data and analysis in an ongoing and systematic cycle of evaluation, integrated planning, implementation, and re-evaluation to verify and improve the effectiveness by which the mission is accomplished.

### A. Mission

The institution has a statement of mission that defines the institution's broad educational purposes, its intended student population, and its commitment to achieving student learning.

1. The institution establishes student learning programs and services aligned with its purposes, its character, and its student population.
2. The mission statement is approved by the governing board and published.
3. Using the institution's governance and decision-making processes, the institution reviews its mission statement on a regular basis and revises it as necessary.
4. The institution's mission is central to institutional planning and decision making.

## Standard I: Institutional Mission and Effectiveness

---

### B. Improving Institutional Effectiveness

The institution demonstrates a conscious effort to produce and support student learning, measures that learning, assesses how well learning is occurring, and makes changes to improve student learning. The institution also organizes its key processes and allocates its resources to effectively support student learning. The institution demonstrates its effectiveness by providing 1) evidence of the achievement of student learning outcomes and 2) evidence of institution and program performance. The institution uses ongoing and systematic evaluation and planning to refine its key processes and improve student learning.

1. The institution maintains an ongoing, collegial, self-reflective dialogue about the continuous improvement of student learning and institutional processes.
2. The institution sets goals to improve its effectiveness consistent with its stated purposes. The institution articulates its goals and states the objectives derived from them in measurable terms so that the degree to which they are achieved can be determined and widely discussed. The institutional members understand these goals and work collaboratively toward their achievement.
3. The institution assesses progress toward achieving its stated goals and makes decisions regarding the improvement of institutional effectiveness in an ongoing and systematic cycle of evaluation, integrated planning, resource allocation, implementation, and re-evaluation. Evaluation is based on analyses of both quantitative and qualitative data.
4. The institution provides evidence that the planning process is broad-based, offers opportunities for input by appropriate constituencies, allocates necessary resources, and leads to improvement of institutional effectiveness.

## **Standard I: Institutional Mission and Effectiveness**

---

5. The institution uses documented assessment results to communicate matters of quality assurance to appropriate constituencies.
6. The institution assures the effectiveness of its ongoing planning and resource allocation processes by systematically reviewing and modifying, as appropriate, all parts of the cycle, including institutional and other research efforts.
7. The institution assesses its evaluation mechanisms through a systematic review of their effectiveness in improving instructional programs, student support services, and library and other learning support services.

## Standard II: Student Learning Programs and Services

---

The institution offers high-quality instructional programs, student support services, and library and learning support services that facilitate and demonstrate the achievement of stated student learning outcomes. The institution provides an environment that supports learning, enhances student understanding and appreciation of diversity, and encourages personal and civic responsibility as well as intellectual, aesthetic, and personal development for all of its students.

### A. Instructional Programs

The institution offers high-quality instructional programs in recognized and emerging fields of study that culminate in identified student outcomes leading to degrees, certificates, employment, or transfer to other higher education institutions or programs consistent with its mission. Instructional programs are systematically assessed in order to assure currency, improve teaching and learning strategies, and achieve stated student learning outcomes. The provisions of this standard are broadly applicable to all instructional activities offered in the name of the institution.

1. The institution demonstrates that all instructional programs, regardless of location or means of delivery, address and meet the mission of the institution and uphold its integrity.<sup>1</sup>
  - a. The institution identifies and seeks to meet the varied educational needs of its students through programs consistent with their educational preparation and the diversity, demographics, and economy of its communities. The institution relies upon research and analysis to identify student learning needs and to assess progress toward achieving stated learning outcomes.
  - b. The institution utilizes delivery systems and modes of instruction compatible with the objectives of the curriculum and appropriate to the current and future needs of its students.<sup>1</sup>
  - c. The institution identifies student learning outcomes for courses, programs, certificates, and degrees; assesses student achievement of those outcomes; and uses assessment results to make improvements.

## Standard II: Student Learning Programs and Services

---

2. The institution assures the quality and improvement of all instructional courses and programs offered in the name of the institution, including collegiate, developmental, and pre-collegiate courses and programs, continuing and community education, study abroad, short-term training courses and programs, programs for international students, and contract or other special programs, regardless of type of credit awarded, delivery mode, or location.<sup>1, 2</sup>
  - a. The institution uses established procedures to design, identify learning outcomes for, approve, administer, deliver, and evaluate courses and programs. The institution recognizes the central role of its faculty for establishing quality and improving instructional courses and programs.
  - b. The institution relies on faculty expertise and the assistance of advisory committees when appropriate to identify competency levels and measurable student learning outcomes for courses, certificates, programs including general and vocational education, and degrees. The institution regularly assesses student progress towards achieving those outcomes.
  - c. High-quality instruction and appropriate breadth, depth, rigor, sequencing, time to completion, and synthesis of learning characterize all programs.
  - d. The institution uses delivery modes and teaching methodologies that reflect the diverse needs and learning styles of its students.<sup>1</sup>
  - e. The institution evaluates all courses and programs through an on-going systematic review of their relevance, appropriateness, achievement of learning outcomes, currency, and future needs and plans.

## Standard II: Student Learning Programs and Services

---

- f. The institution engages in ongoing, systematic evaluation and integrated planning to assure currency and measure achievement of its stated student learning outcomes for courses, certificates, programs including general and vocational education, and degrees. The institution systematically strives to improve those outcomes and makes the results available to appropriate constituencies.
  - g. If an institution uses departmental course and/or program examinations, it validates their effectiveness in measuring student learning and minimizes test biases.
  - h. The institution awards credit based on student achievement of the course's stated learning outcomes. Units of credit awarded are consistent with institutional policies that reflect generally accepted norms or equivalencies in higher education.
  - i. The institution awards degrees and certificates based on student achievement of a program's stated learning outcomes.
3. The institution requires of all academic and vocational degree programs a component of general education based on a carefully considered philosophy that is clearly stated in its catalog. The institution, relying on the expertise of its faculty, determines the appropriateness of each course for inclusion in the general education curriculum by examining the stated learning outcomes for the course.

General education has comprehensive learning outcomes for the students who complete it, including the following:

- a. An understanding of the basic content and methodology of the major areas of knowledge: areas include the humanities and fine arts, the natural sciences, and the social sciences.
- b. A capability to be a productive individual and life long learner: skills include oral and written communication, information competency, computer literacy, scientific and quantitative reasoning, critical analysis/logical thinking, and the ability to acquire knowledge through a variety of means.

## **Standard II: Student Learning Programs and Services**

---

- c. A recognition of what it means to be an ethical human being and effective citizen: qualities include an appreciation of ethical principles; civility and interpersonal skills; respect for cultural diversity; historical and aesthetic sensitivity; and the willingness to assume civic, political, and social responsibilities locally, nationally, and globally.
4. All degree programs include focused study in at least one area of inquiry or in an established interdisciplinary core.
5. Students completing vocational and occupational certificates and degrees demonstrate technical and professional competencies that meet employment and other applicable standards and are prepared for external licensure and certification.
6. The institution assures that students and prospective students receive clear and accurate information about educational courses and programs and transfer policies. The institution describes its degrees and certificates in terms of their purpose, content, course requirements, and expected student learning outcomes. In every class section students receive a course syllabus that specifies learning objectives consistent with those in the institution's officially approved course outline.
  - a. The institution makes available to its students clearly stated transfer-of-credit policies in order to facilitate the mobility of students without penalty. In accepting transfer credits to fulfill degree requirements, the institution certifies that the expected learning outcomes for transferred courses are comparable to the learning outcomes of its own courses. Where patterns of student enrollment between institutions are identified, the institution develops articulation agreements as appropriate to its mission.
  - b. When programs are eliminated or program requirements are significantly changed, the institution makes appropriate arrangements so that enrolled students may complete their education in a timely manner with a minimum of disruption.<sup>3</sup>

## Standard II: Student Learning Programs and Services

---

- c. The institution represents itself clearly, accurately, and consistently to prospective and current students, the public, and its personnel through its catalogs, statements, and publications, including those presented in electronic formats. It regularly reviews institutional policies, procedures, and publications to assure integrity in all representations about its mission, programs, and services.
7. In order to assure the academic integrity of the teaching-learning process, the institution uses and makes public governing board-adopted policies on academic freedom and responsibility, student academic honesty, and specific institutional beliefs or worldviews. These policies make clear the institution's commitment to the free pursuit and dissemination of knowledge.
  - a. Faculty distinguish between personal conviction and professionally accepted views in a discipline. They present data and information fairly and objectively.
  - b. The institution establishes and publishes clear expectations concerning student academic honesty and the consequences for dishonesty.
  - c. Institutions that require conformity to specific codes of conduct of staff, faculty, administrators, or students, or that seek to instill specific beliefs or worldviews, give clear prior notice of such policies, including statements in the catalog and/or appropriate faculty or student handbooks.
8. Institutions offering curricula in foreign locations to students other than U.S. nationals operate in conformity with standards and applicable Commission policies.<sup>2</sup>

## Standard II: Student Learning Programs and Services

---

### B. Student Support Services

The institution recruits and admits diverse students who are able to benefit from its programs, consistent with its mission.

Student support services address the identified needs of students and enhance a supportive learning environment. The entire student pathway through the institutional experience is characterized by a concern for student access, progress, learning, and success. The institution systematically assesses student support services using student learning outcomes, faculty and staff input, and other appropriate measures in order to improve the effectiveness of these services.

1. The institution assures the quality of student support services and demonstrates that these services, regardless of location or means of delivery, support student learning and enhance achievement of the mission of the institution.<sup>1, 2</sup>
2. The institution provides a catalog for its constituencies with precise, accurate, and current information concerning the following:
  - a. General Information
    - Official Name, Address(es), Telephone Number(s), and Web Site Address of the Institution
    - Educational Mission
    - Course, Program, and Degree Offerings
    - Academic Calendar and Program Length
    - Academic Freedom Statement
    - Available Student Financial Aid
    - Available Learning Resources
    - Names and Degrees of Administrators and Faculty
    - Names of Governing Board Members
  - b. Requirements
    - Admissions
    - Student Fees and Other Financial Obligations
    - Degree, Certificates, Graduation and Transfer

## Standard II: Student Learning Programs and Services

---

- c. Major Policies Affecting Students
  - Academic Regulations, including Academic Honesty
  - Nondiscrimination
  - Acceptance of Transfer Credits
  - Grievance and Complaint Procedures
  - Sexual Harassment
  - Refund of Fees
- d. Locations or publications where other policies may be found

**3. The institution researches and identifies the learning support needs of its student population and provides appropriate services and programs to address those needs.**

- a. The institution assures equitable access to all of its students by providing appropriate, comprehensive, and reliable services to students regardless of service location or delivery method.<sup>1</sup>
- b. The institution provides an environment that encourages personal and civic responsibility, as well as intellectual, aesthetic, and personal development for all of its students.
- c. The institution designs, maintains, and evaluates counseling and/or academic advising programs to support student development and success and prepares faculty and other personnel responsible for the advising function.
- d. The institution designs and maintains appropriate programs, practices, and services that support and enhance student understanding and appreciation of diversity.
- e. The institution regularly evaluates admissions and placement instruments and practices to validate their effectiveness while minimizing biases.

## Standard II: Student Learning Programs and Services

---

- f. The institution maintains student records permanently, securely, and confidentially, with provision for secure backup of all files, regardless of the form in which those files are maintained. The institution publishes and follows established policies for release of student records.
- 4. The institution evaluates student support services to assure their adequacy in meeting identified student needs. Evaluation of these services provides evidence that they contribute to the achievement of student learning outcomes. The institution uses the results of these evaluations as the basis for improvement.

### C. Library and Learning Support Services

**Library and other learning support services for students are sufficient to support the institution's instructional programs** and intellectual, aesthetic, and cultural activities in whatever format and wherever they are offered. Such services include library services and collections, tutoring, learning centers, computer laboratories, and learning technology development and training. The institution provides access and training to students so that library and other learning support services may be used effectively and efficiently. **The institution systematically assesses these services using student learning outcomes, faculty input, and other appropriate measures in order to improve the effectiveness of the services.**

## Standard II: Student Learning Programs and Services

---

1. The institution supports the quality of its instructional programs by providing library and other learning support services that are sufficient in quantity, currency, depth, and variety to facilitate educational offerings, regardless of location or means of delivery.<sup>1</sup>
  - a. Relying on appropriate expertise of faculty, including librarians and other learning support services professionals, the institution selects and maintains educational equipment and materials to support student learning and enhance the achievement of the mission of the institution.
  - b. The institution provides ongoing instruction for users of library and other learning support services so that students are able to develop skills in information competency.
  - c. The institution provides students and personnel responsible for student learning programs and services adequate access to the library and other learning support services, regardless of their location or means of delivery.<sup>1</sup>
  - d. The institution provides effective maintenance and security for its library and other learning support services.
  - e. When the institution relies on or collaborates with other institutions or other sources for library and other learning support services for its instructional programs, it documents that formal agreements exist and that such resources and services are adequate for the institution's intended purposes, are easily accessible, and utilized. The performance of these services is evaluated on a regular basis. The institution takes responsibility for and assures the reliability of all services provided either directly or through contractual arrangement.
2. The institution evaluates library and other learning support services to assure their adequacy in meeting identified student needs. Evaluation of these services provides evidence that they contribute to the achievement of student learning outcomes. The institution uses the results of these evaluations as the basis for improvement.

## Standard III: Resources

---

**The institution effectively uses its human, physical, technology, and financial resources to achieve its broad educational purposes, including stated student learning outcomes, and to improve institutional effectiveness.**

### A. Human Resources

The institution employs qualified personnel to support student learning programs and services wherever offered and by whatever means delivered, **and to improve institutional effectiveness.** Personnel are treated equitably, are evaluated regularly and systematically, and **are provided opportunities for professional development.** Consistent with its mission, the institution demonstrates its commitment to the significant educational role played by persons of diverse backgrounds by making positive efforts to encourage such diversity. **Human resource planning is integrated with institutional planning.**

1. The institution assures the integrity and quality of its programs and services by employing personnel who are qualified by appropriate education, training, and experience to provide and support these programs and services.
  - a. Criteria, qualifications, and procedures for selection of personnel are clearly and publicly stated. Job descriptions are directly related to institutional mission and goals and accurately reflect position duties, responsibilities, and authority. Criteria for selection of faculty include knowledge of the subject matter or service to be performed (as determined by individuals with discipline expertise), effective teaching, scholarly activities, and potential to contribute to the mission of the institution. Institutional faculty play a significant role in selection of new faculty. Degrees held by faculty and administrators are from institutions accredited by recognized U.S. accrediting agencies. Degrees from non-U.S. institutions are recognized only if equivalence has been established.<sup>4</sup>

## Standard III: Resources

---

- b. The institution assures the effectiveness of its human resources by evaluating all personnel systematically and at stated intervals. The institution establishes written criteria for evaluating all personnel, including performance of assigned duties and participation in institutional responsibilities and other activities appropriate to their expertise. Evaluation processes seek to assess effectiveness of personnel and encourage improvement. Actions taken following evaluations are formal, timely, and documented.
  - c. Faculty and others directly responsible for student progress toward achieving stated student learning outcomes have, as a component of their evaluation, effectiveness in producing those learning outcomes.
  - d. The institution upholds a written code of professional ethics for all of its personnel.
2. The institution maintains a sufficient number of qualified faculty with full-time responsibility to the institution. The institution has a sufficient number of staff and administrators with appropriate preparation and experience to provide the administrative services necessary to support the institution's mission and purposes.
3. The institution systematically develops personnel policies and procedures that are available for information and review. Such policies and procedures are equitably and consistently administered.
- a. The institution establishes and adheres to written policies ensuring fairness in all employment procedures.
  - b. The institution makes provision for the security and confidentiality of personnel records. Each employee has access to his/her personnel records in accordance with law.

## Standard III: Resources

---

4. The institution demonstrates through policies and practices an appropriate understanding of and concern for issues of equity and diversity.
  - a. The institution creates and maintains appropriate programs, practices, and services that support its diverse personnel.
  - b. The institution regularly assesses its record in employment equity and diversity consistent with its mission.
  - c. The institution subscribes to, advocates, and demonstrates integrity in the treatment of its administration, faculty, staff and students.
5. The institution provides all personnel with appropriate opportunities for continued professional development, consistent with the institutional mission and based on identified teaching and learning needs.
  - a. The institution plans professional development activities to meet the needs of its personnel.
  - b. With the assistance of the participants, the institution systematically evaluates professional development programs and uses the results of these evaluations as the basis for improvement.
6. Human resource planning is integrated with institutional planning. The institution systematically assesses the effective use of human resources and uses the results of the evaluation as the basis for improvement.

## Standard III: Resources

---

### B. Physical Resources

**Physical resources, which include facilities, equipment, land, and other assets, support student learning programs and services and improve institutional effectiveness. Physical resource planning is integrated with institutional planning.**

1. The institution provides safe and sufficient physical resources that support and assure the integrity and quality of its programs and services, regardless of location or means of delivery.
  - a. The institution plans, builds, maintains, and upgrades or replaces its physical resources in a manner that assures effective utilization and the continuing quality necessary to support its programs and services.
  - b. The institution assures that physical resources at all locations where it offers courses, programs, and services are constructed and maintained to assure access, safety, security, and a healthful learning and working environment.
2. To assure the feasibility and effectiveness of physical resources in supporting institutional programs and services, the institution plans and evaluates its facilities and equipment on a regular basis, taking utilization and other relevant data into account.
  - a. Long-range capital plans support institutional improvement goals and reflect projections of the total cost of ownership of new facilities and equipment.
  - b. Physical resource planning is integrated with institutional planning. The institution systematically assesses the effective use of physical resources and uses the results of the evaluation as the basis for improvement.

## Standard III: Resources

---

### C. Technology Resources

**Technology resources are used to support student learning programs and services and to improve institutional effectiveness. Technology planning is integrated with institutional planning.**

1. The institution assures that any technology support it provides is designed to meet the needs of learning, teaching, college-wide communications, research, and operational systems.
  - a. Technology services, professional support, facilities, hardware, and software are designed to enhance the operation and effectiveness of the institution.
  - b. The institution provides quality training in the effective application of its information technology to students and personnel.
  - c. The institution systematically plans, acquires, maintains, and upgrades or replaces technology infrastructure and equipment to meet institutional needs.
  - d. The distribution and utilization of technology resources support the development, maintenance, and enhancement of its programs and services.
2. Technology planning is integrated with institutional planning. The institution systematically assesses the effective use of technology resources and uses the results of evaluation as the basis for improvement.

## Standard III: Resources

---

### D. Financial Resources

Financial resources are sufficient to support student learning programs and services and to improve institutional effectiveness. The distribution of resources supports the development, maintenance, and enhancement of programs and services. The institution plans and manages its financial affairs with integrity and in a manner that ensures financial stability. The level of financial resources provides a reasonable expectation of both short-term and long-term financial solvency. Financial resources planning is integrated with institutional planning.

1. The institution relies upon its mission and goals as the foundation for financial planning.
  - a. Financial planning is integrated with and supports all institutional planning.
  - b. Institutional planning reflects realistic assessment of financial resource availability, development of financial resources, partnerships, and expenditure requirements.
  - c. When making short-range financial plans, the institution considers its long-range financial priorities to assure financial stability. The institution clearly identifies and plans for payment of liabilities and future obligations.
  - d. The institution clearly defines and follows its guidelines and processes for financial planning and budget development, with all constituencies having appropriate opportunities to participate in the development of institutional plans and budgets.

## Standard III: Resources

---

2. To assure the financial integrity of the institution and responsible use of financial resources, the financial management system has appropriate control mechanisms and widely disseminates dependable and timely information for sound financial decision making.
  - a. Financial documents, including the budget and independent audit, reflect appropriate allocation and use of financial resources to support student learning programs and services. Institutional responses to external audit findings are comprehensive, timely, and communicated appropriately.
  - b. Appropriate financial information is provided throughout the institution.
  - c. The institution has sufficient cash flow and reserves to maintain stability, strategies for appropriate risk management, and realistic plans to meet financial emergencies and unforeseen occurrences.
  - d. The institution practices effective oversight of finances, including management of financial aid, grants, externally funded programs, contractual relationships, auxiliary organizations or foundations, and institutional investments and assets.
  - e. All financial resources, including those from auxiliary activities, fund-raising efforts, and grants are used with integrity in a manner consistent with the mission and goals of the institution.
  - f. Contractual agreements with external entities are consistent with the mission and goals of the institution, governed by institutional policies, and contain appropriate provisions to maintain the integrity of the institution.<sup>5</sup>
  - g. The institution regularly evaluates its financial management processes, and the results of the evaluation are used to improve financial management systems.

## Standard III: Resources

---

3. The institution systematically assesses the effective use of financial resources and uses the results of the evaluation as the basis for improvement.

## Standard IV: Leadership and Governance

---

**T**he institution recognizes and utilizes the contributions of leadership throughout the organization for **continuous improvement of the institution**. **Governance roles are designed to facilitate decisions that support student learning programs and services and improve institutional effectiveness**, while acknowledging the designated responsibilities of the governing board and the chief administrator.

### A. Decision-Making Roles and Processes

**The institution recognizes that ethical and effective leadership throughout the organization enables the institution to identify institutional values, set and achieve goals, learn, and improve.**

1. Institutional leaders create an environment for empowerment, innovation, and institutional excellence. They encourage staff, faculty, administrators, and students, no matter what their official titles, to take initiative in improving the practices, programs, and services in which they are involved. When ideas for improvement have policy or significant institution-wide implications, systematic participative processes are used to assure effective discussion, planning, and implementation.
2. The institution establishes and implements a written policy providing for faculty, staff, administrator, and student participation in decision-making processes. **The policy specifies the manner in which individuals bring forward ideas from their constituencies and work together on appropriate policy, planning, and special-purpose bodies.**
  - a. Faculty and administrators have a substantive and clearly defined role in institutional governance and exercise a substantial voice in institutional policies, planning, and budget that relate to their areas of responsibility and expertise. Students and staff also have established mechanisms or organizations for providing input into institutional decisions.
  - b. The institution relies on faculty, its academic senate or other appropriate faculty structures, the curriculum committee, and academic administrators **for recommendations about student learning programs and services.**

---

*Standard IVA—Decision-Making Roles and Processes*

## Standard IV: Leadership and Governance

---

3. Through established governance structures, processes, and practices, the governing board, administrators, faculty, staff, and students work together for the good of the institution. These processes facilitate discussion of ideas and effective communication among the institution's constituencies.
4. The institution advocates and demonstrates honesty and integrity in its relationships with external agencies. It agrees to comply with Accrediting Commission standards, policies, and guidelines, and Commission requirements for public disclosure, self study and other reports, team visits, and prior approval of substantive changes. The institution moves expeditiously to respond to recommendations made by the Commission.
5. The role of leadership and the institution's governance and decision-making structures and processes are regularly evaluated to assure their integrity and effectiveness. The institution widely communicates the results of these evaluations and uses them as the basis for improvement.

## Standard IV: Leadership and Governance

---

### B. Board and Administrative Organization

**In addition to the leadership of individuals and constituencies, institutions recognize the designated responsibilities of the governing board for setting policies and of the chief administrator for the effective operation of the institution. Multi-college districts/systems clearly define the organizational roles of the district/system and the colleges.<sup>6</sup>**

1. The institution has a governing board that is responsible for establishing policies to assure the quality, integrity, and effectiveness of the student learning programs and services and the financial stability of the institution. The governing board adheres to a clearly defined policy for selecting and evaluating the chief administrator for the college or the district/system.
  - a. The governing board is an independent policy-making body that reflects the public interest in board activities and decisions. Once the board reaches a decision, it acts as a whole. It advocates for and defends the institution and protects it from undue influence or pressure.
  - b. The governing board establishes policies consistent with the mission statement to ensure the quality, integrity, and improvement of student learning programs and services and the resources necessary to support them.
  - c. The governing board has ultimate responsibility for educational quality, legal matters, and financial integrity.
  - d. The institution or the governing board publishes the board bylaws and policies specifying the board's size, duties, responsibilities, structure, and operating procedures.

## Standard IV: Leadership and Governance

---

- e. The governing board acts in a manner consistent with its policies and bylaws. The board regularly evaluates its policies and practices and revises them as necessary.
- f. The governing board has a program for board development and new member orientation. It has a mechanism for providing for continuity of board membership and staggered terms of office.
- g. The governing board's self-evaluation processes for assessing board performance are clearly defined, implemented, and published in its policies or bylaws.
- h. The governing board has a code of ethics that includes a clearly defined policy for dealing with behavior that violates its code.
- i. The governing board is informed about and involved in the accreditation process.
- j. The governing board has the responsibility for selecting and evaluating the district/system chief administrator (most often known as the chancellor) in a multi-college district/system or the college chief administrator (most often known as the president) in the case of a single college. The governing board delegates full responsibility and authority to him/her to implement and administer board policies without board interference and holds him/her accountable for the operation of the district/system or college, respectively.

In multi-college districts/systems, the governing board establishes a clearly defined policy for selecting and evaluating the presidents of the colleges.

## Standard IV: Leadership and Governance

---

2. The president has primary responsibility for the quality of the institution he/she leads. He/she provides effective leadership in planning, organizing, budgeting, selecting and developing personnel, and assessing institutional effectiveness.
  - a. The president plans, oversees, and evaluates an administrative structure organized and staffed to reflect the institution's purposes, size, and complexity. He/she delegates authority to administrators and others consistent with their responsibilities, as appropriate.
  - b. The president guides institutional improvement of the teaching and learning environment by the following:
    - establishing a collegial process that sets values, goals, and priorities;
    - ensuring that evaluation and planning rely on high quality research and analysis on external and internal conditions;
    - ensuring that educational planning is integrated with resource planning and distribution to achieve student learning outcomes; and
    - establishing procedures to evaluate overall institutional planning and implementation efforts.
  - c. The president assures the implementation of statutes, regulations, and governing board policies and assures that institutional practices are consistent with institutional mission and policies.
  - d. The president effectively controls budget and expenditures.
  - e. The president works and communicates effectively with the communities served by the institution.

## Standard IV: Leadership and Governance

---

3. In multi-college districts or systems, the district/system provides primary leadership in setting and communicating expectations of educational excellence and integrity throughout the district/system and assures support for the effective operation of the colleges. It establishes clearly defined roles of authority and responsibility between the colleges and the district/system and acts as the liaison between the colleges and the governing board.<sup>7</sup>
  - a. The district/system clearly delineates and communicates the operational responsibilities and functions of the district/system from those of the colleges and consistently adheres to this delineation in practice.
  - b. The district/system provides effective services that support the colleges in their missions and functions.
  - c. The district/system provides fair distribution of resources that are adequate to support the effective operations of the colleges.
  - d. The district/system effectively controls its expenditures.
  - e. The chancellor gives full responsibility and authority to the presidents of the colleges to implement and administer delegated district/system policies without his/her interference and holds them accountable for the operation of the colleges.
  - f. The district/system acts as the liaison between the colleges and the governing board. The district/system and the colleges use effective methods of communication, and they exchange information in a timely manner.
  - g. The district/system regularly evaluates district/system role delineation and governance and decision-making structures and processes to assure their integrity and effectiveness in assisting the colleges in meeting educational goals. The district/system widely communicates the results of these evaluations and uses them as the basis for improvement.

## **Policies Referenced in the Standards**

---

<sup>1</sup>Policy on Distance Learning, Including Electronically-Mediated Learning

<sup>2</sup>Principles of Good Practice in Overseas International Education Programs for Non-U.S. Nationals

<sup>3</sup>Policy Statement on Considerations when Closing a Postsecondary Educational Institution

<sup>4</sup>Joint Policy Statement on Transfer and Award of Academic Credit

<sup>5</sup>Contractual Relationships with Non-Regionally Accredited Organizations

<sup>6</sup>The Governing Board

<sup>7</sup>Policy and Procedures for the Evaluation of Institutions in Multi-College/Multi-Unit Districts or Systems

# ACCJC Standards Glossary

---

**Assessment—**

Methods that an institution employs to gather evidence and evaluate quality.

**Collegial—**

Participative and mutually respectful

**Dialogue—**

Self-reflective exchanges engaged in by the college community, characterized by a free exchange of ideas without the purpose of defending or deciding on a course of action.

**Evidence of Institution and Program Performance—**

Quantitative and qualitative data which an institution as a whole uses to determine the extent to which it attains the performance goals it establishes for itself.

**Information Competency—**

Capability to access, evaluate, and use information in fulfillment of coursework and independent study.

**Ongoing—**

Addressed regularly as part of the business of the college rather than in response to periodic external requirements.

**Qualitative Data**

Data relating to, or involving quality or kind, which cannot be represented numerically, such as portfolios of work, narrative description and evaluation of a performance, learner description and analysis of a learning experience.

**Quantitative Data —**

Data which can be represented numerically

**Student Learning Outcomes—**

Knowledge, skills, abilities, and attitudes that a student has attained at the end (or as a result) of his or her engagement in a particular set of collegiate experiences.

**Total Cost of Ownership**

In addition to the initial cost of a purchase, all long-term and indirect costs resulting from that purchase.



# イギリスにおけるファンデーション・ディグリーの展開と アウトカム評価に関する調査研究報告

吉本 圭一・長尾 由希子

## 1. 調査研究の目的と概要

### 1) 調査研究の目的

本調査研究においては、短期大学士課程の質的向上およびそのための制度的枠組みを検討することを目的として、イングランド（およびウェールズ・ノーザンアイランド）で 2001 年に導入された新学位であるファンデーション・ディグリー（**foundation degree** 以下 **Fd** と略記）の展開について、またスコットランドにおける大学とカレッジとの接続充実に向けて展開する資格枠組みについて、渡英し関係各機関を訪問、インタビュー調査を行った。特に、本調査における調査対象とする学位・資格レベルとして、イングランドの **Fd** と、イングランド・スコットランドにおける高等国家ディプロマ・高等国家サーティフィケート（**Higher National Diploma, Higher National Certificate**: 以下それぞれ **HND**、**HNC** と略記）とに焦点をあてた。

### 2) 調査研究担当者

- ・ 短期大学基準協会調査研究委員会委員：吉本 圭一（九州大学大学院教授）
- ・ 研究協力者：長尾 由希子（東京大学大学院博士課程）

### 3) 訪問機関・面談者一覧

日時		訪問先		訪問相手
3/16月	11:00-13:00	<b>A</b>	FDF (Foundation Degree Forward)	Derek Longhurst Susan J Hayday
	15:00-17:00	<b>B</b>	CHERI (Centre for Higher Education Research and Information The Open University)	Brenda Little Maki Kimura
3/17火	12:30-16:00	<b>C</b>	the City and Islington College	Derek Puddick Trevor Hunter ほか
3/19木	10:00-11:00	<b>D</b>	Glasgow Caledonian University	Jim Gallacher
	11:00-12:00	<b>E</b>	Glasgow Caledonian University	Ruth Whittaker David Whyte
	13:00-15:00	<b>F</b>	SCQF Partnership (The Scottish Credit and Qualifications Framework Partnership)	Margaret Cameron Mike Hewett
	16:30-18:00	<b>G</b>	the University of Edinburgh	David Raffe
3/20金	10:30-13:30	<b>H</b>	Aberdeen College	Rob Wallen
	14:00-15:00	<b>I</b>	Robert Gordon University	John Harper

調査期間は 2009 年 3 月 15 日（日）～3 月 22 日（日）である。訪問期間中の前半（3 月 16、17 日）にはイングランド（A～C）を、移動を挟み後半（3 月 19、20 日）にはスコットランド（D～I）を訪問した。イングランド・スコットランドいずれも、訪問先一覧の通り、まずは制度開発に関わった機

関・関係者へのインタビュー調査を行い、次に具体的な事例調査として個別の大学やカレッジを訪問した。

以下に、前半のイングランド調査および後半のスコットランド調査それぞれについて、訪問日ごと・訪問機関ごとに調査結果の概要をまとめた。

## 2. 調査結果の概要（1）－前半：イングランド

### A) FDf (Foundation Degree Forward : ファンデーション・ディグリー振興協会)

- ・ 訪問日 2009年3月16日(月) 11:00-13:00
- ・ 訪問先 FDF ロンドンオフィス
- ・ 面談相手 Derek Longhurst (Chief Executive : 所長)  
Susan J. Hayday (Director of Workplace Learning Strategy : 職場学習戦略ディレクター)
- ・ 訪問先の特徴  
Fdの振興および質の保証に努める協会であり、職業能力開発 (workforce development)、ビジネス改善 (business improvement)、知識経済 (the knowledge economy) の需要に応え、高等教育と雇用者のパートナーシップを促進・発展させることを使命とする機関であり、高等教育財政評議会 (the Higher Education Funding Council for England = HEFCE) が運営資金を拠出している。
- ・ 《主な論点》 Fdの特徴および展開と課題について

#### 1) Fdの展開の現状

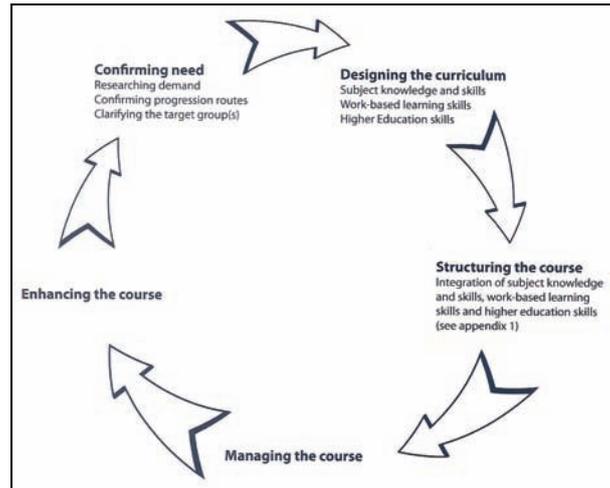
2001年の導入以降、Fdのコースに在籍する学生は拡大し続けている。Fdコースを履修する学生数は1年間で1万人以上増加し、2008年度には87,339人に達しており、政府の目標値(2010年までに100,000人)に近づいている。一方で、依然として一部の大学でしかFdが流通していないという偏在の問題もある。

#### 2) Fdのもつ6つの特徴

(Quality Assurance Agency for Higher Education, 2004, “*Foundation Degree qualification benchmark*” <http://www.qaa.ac.uk/reviews/foundationDegree/benchmark/FDQB.pdf>を参照)。

##### ① 企業とのパートナーシップ (partnership with employer)

大学・カレッジと雇用者の三者が、プログラム開発や人材ニーズについて話し合った上でコースやカリキュラムの設計を行い、運営している(下図参照)。Fdは雇用者とのパートナーシップに基づいた、アカデミックな学位 (degree) である。企業のニーズに即したスキルや知識を身につけた学生を育成するため、雇用者の参加 (employer involvement) が不可欠である。



FDF 『Work-based Access to Higher Education』 2008、p.6 より

## ② 職場学習 (work-based learning =WBL)

職場で学ぶ知識やスキルに基づいた学習である。徒弟制 (apprenticeship) の環境で学生をトレーニングするので、優秀な Fd 学生は、アカデミックな学位保持者よりも雇用者に好まれる傾向にある。

## ③ フレキシビリティ (flexibility)

Fd コースの学生の典型的なプロフィールは、18-21 歳の若い男性で、パートタイムで働きながら会社の支援で勉強している者である。他には 25-50 歳など幅広い年齢層の男女がいる。フルタイムの Fd 学生でカレッジから大学へ進学することを求める者も多いが、カレッジの多数を占めるパートタイムの学生は、スキルの再向上やキャリアの再構築・模索のために通う被雇用者である。

こうしたパートタイムの学生に合わせるため、遠隔学習や夜間学習など柔軟な時間割編成を始めた「フレキシビリティ」が学習提供方法として重要となってくる。

## ④ カレッジが発展させる地域コミュニティにおける高等教育への接近可能性 (local accessibility development by college)

大学進学率の上昇につれ、地方地域に在住で大学進学機会が限られている者にも高等教育進学機会を与える必要性が高まった。そこで、相対的に地方に多く立地するカレッジを中心として、高等教育進学へのアクセシビリティを高める必要性があった。イギリスにおいては、伝統的にアカデミックな教育は高い評価を受け、職業教育 (vocational education) は劣位の選択肢として見なされてきた。そのため職業教育を受ける学生はコンプレックスを抱くことになっていた。この構造を変えるための政策的な戦略として Fd が必要であった。Fd は、知識のヒエラルキー構造を変えようとするものであり、学生に自信を与えることができる。

また、地域コミュニティの必要とする人材を供給すること、学習者が“稼ぎつつ学ぶ (earn and learn)”ことを可能にするものである (QAahe 前掲、p.5)。

## ⑤ 大学が認証・授与する Fd (validated by university)

Fd を授与する権限をもつのは、ほとんど大学である。一部の大規模なカレッジや継続教育機関 (Further Educational Institutions) が挑戦的な試みとして Fd 授与権をもつが、あくまでも例外的な存在である。また、Longhurst 教授の見解としては、必ずしもそうした方向は容易でもなく、望ましくもないということであった。

Fd の学位としての質を保証し、学位の質に最終的な責任をもつのは大学である。この点が HND/HNC や、アメリカのコミュニティ・カレッジの準学士号 (associate degree) などとは大きく異なる点である。

⑥ 高等教育プログラムとしての接続 (articulation)

生涯学習の一環として、どのようなスタート地点からも高等教育を受けることが可能になるよう、Fd では他の資格体系との接続を重視している。

3) Fd の資格と他の職業資格の関係

Fd は、職業資格である NVQ (National Vocational Qualification) 等とは、履修のための資格要件、目標とする能力要件が異なる (下図)。NVQ は、一般に取得者は高いレベルの学業的背景を持たず、また特定のスキルや職業に絞った狭い領域の資格のみを扱う。それに対し、Fd は GCSE (General Certificate of Secondary Education) の A レベル取得者などが履修するコースであり、成績は NVQ よりも高い。また、広い領域の職業を網羅していることに加え、アカデミックな要素をもっているクロス・ディシプリナリーなものである。

他方、HND/HNC は Fd ほど職業にもとづく学習 (work-based) をしておらず、それほど雇用者のニーズに見合っていなかったため、イングランド政府はもはやそれに力点を置いておらず、供給も徐々に Fd に代替されつつある。

国際資格 枠組み	全国資格枠組み (NQF)		高等教育資格枠組 み (FHEQ)		欧州高等教育 のための資格 枠組み
レベル 5	レベル 8	特定領域の第一人者, トップの実務家 (BTEC Advanced Professional Diploma, Certificate, Award / City & Guild Fellowship)	D / 8	博士	第二学修サイクル
	レベル 7	上級専門家, 上級管理者 (BTEC Advanced Professional Diploma, Certificate, Award / City & Guild Membership / NVQ)	M / 7	修士	第二学修サイクル
レベル 4	レベル 6	知的専門職, 専門管理者 (BTEC Advanced Professional Diploma, Certificate, Award / City & Guild Graduateship)	H / 6	第 1 学位	第一学修サイクル
	レベル 5	高等技術者, 高等管理者 (BTEC Professional Diploma, Certificate, Award / NVQ)	I / 5	ディプロマ (Foundation degrees 等)	(国際学修サイ クル)
	レベル 4	技術・専門職, 従業員管理・指導 (BTEC Professional Diploma, Certificate, Award / City & Guilds Licentiate / NVQ / Key Skills)	C / 4	サーティフィケート (HNC)	
レベル 3	レベル 3	後期中等教育段階 (GCE・A レベル / NVQ / BTEC Diploma / Key Skills)	ディプロマ 上級		
レベル 2	レベル 2	義務教育修了段階 (GCSE (A* ~ C 評価) / NVQ / Key Skills)	中級		
レベル 1	レベル 1	GCSE (D ~ G 評価) / NVQ / Key Skills	基礎		
入門レベル	入門レベル	Entry Level Certificate (1 ~ 3 段階)			

#### 4) カレッジと大学の役割分担

Fd プログラムにかかるカレッジと大学の役割分担はいろいろなケースがあるが、一般に、大学ではアカデミックなコースを、カレッジでは職業的なコースを教えるという分担するケースが多い（もちろん、カレッジでアカデミックなものも職業的なものもともに教えられるが）。それは基本的にはカレッジが大学よりも小規模で（全国で 8 つ大規模カレッジが例外としてあるが）、いくつかの特定の職業専門的な知識はカレッジで集中して教えるほうが適切なためである。しかし、例えば健康社会福祉（health and social care）コースなどは人・金・モノの面でスケールが大きくなるため、大学を中心に教える方がよいなど、領域ごとに大学とカレッジの適切な役割分担が必要である。

各科目の教育内容の妥当性については、QAA のカリキュラム基準（code of practice）に基づいて、大学がカレッジの提供するコースを含めてコース全体の認定（validation）をする。そのため、あくまでも Fd の質に最終的な責任をもつのは大学である。

Fd コースの教育スタッフは、アカデミックなプログラムも職業的なプログラムも教えることができる必要がある。そこで、Fd に関連する教育スタッフを対象とした能力開発プログラムがある。該当分野の職場の職業人が大学・カレッジに教えに来たり、教育スタッフも職場に研修に行ったりして、相互に学習する。このような取り組みは、職業的なものを Fd における“degree（学位）”にまで高めるために必要な取り組みである。

#### 5) Fd コースの運営財源（fund）と課題

Fd コースは HEFCE と企業とによる共同での資金拠出（co-funding）で運営されている。企業は、例えばジャガーが自動車整備プログラムを支援するなど、特定のコースプログラムに運営資金を拠出する。その場合には、したがって大企業に偏りがちである。

コースプログラムの開発には、全国に 25 ある産業部門別技能協議会（sector skills councils）や地域開発局（regional development agencies）が関わる。カレッジは、より地方の地元中小企業のために、短期間の教育・訓練課程を用意したいと考えており、地元企業も必ずしもすべての企業が高等教育のコースを欲しているわけではない。このため、高等教育の学位プログラムのひとつとしての Fd に関する資金確保の問題を生じる場合があり、Fd の普及は必ずしも容易ではない。しかし、学生の教育費は極力低額に抑えるように、関係各機関で努力をしている。

### B) CHERI (Centre for Higher Education Research and Information, The Open University : 公開大学・高等教育調査研究情報センター)

- ・ 訪問日 2009年3月16日（月）15:00-17:00
- ・ 訪問先 CHERI ロンドンオフィス
- ・ 面談相手 Brenda Little (Principal Policy Analyst : 主任政策アナリスト)  
Maki Kimura (Research Fellow : 研究員)
- ・ 訪問先の特徴  
公開大学 (Open University=OU) の附属研究施設であり、高等教育政策について、教育と社会の関連や国際的な観点などから、様々な調査研究を行っている部署である。
- ・ 《主な論点》 同センターが FDF から受託した Fd に関する委託調査 (Fd 学生のプロフィールと雇用・訓練環境が主なテーマ。CHERI, 2008, “Report to Foundation Degree Forward

on the Impact of Foundation Degrees on Students and the Workplace”=  
<http://www.open.ac.uk/cheri/documents/CHERILSNreport.pdf>) に即し、Fd の制度・政策的展開全般について

## 1) Fd の展開と政策的転換に関して

CHERI で、FDF からの委託により 2 年前にレポートした。

Fd の展開について重要なポイントとして、対象領域と目的において制度展開途上で、大きな政策的な転換があったことが指摘できる。

初期の Fd は、政府の支援により、公的セクター、特に教育 (education) 部門と健康 (health) 部門を中心に開発・運営資金が投下されていた。それは、例えば幼児教育や学習支援 (learning support) などの現場でより多くの職業資格保有の教員 (qualified teacher) や助産師等の需要があったという背景があり、既に就業している労働者の能力開発やスキルアップ、資格認定を図ることが目的であったためである。

しかし、これらの潜在的学習者は、パートタイムなどで既に就業している者であり、また、Fd を取得しても特段の待遇改善につながらなかったため、こうした需要掘り起こしに向けた政策的誘導はほぼ失敗に終わった。

そこで、「ゴール・ポストがシフト」した。つまり、比較的新興の産業、例えばジャーナリズムやマルチメディアなど、若い学生層 (伝統的な大学入学資格は備えていない層) を惹きつけるような、クリエイティブな領域で Fd のコース開発が促進されることになった。そして、若い人が高等教育に参入するルートを多様化し、機会を拡大する、機会拡大政策 (widening participation) としての政策的位置づけがより重視されることになった。

## 2) Fd と雇用者のつながりについて

CHERI で Fd 取得者の調査をした結果、Fd 履修後の教育訓練先の雇用者とのつながりは必ずしもそれほど強いわけではないと見える。Fd をもっていれば必ず職に就けるというわけでもなく、雇用者も Fd の質を評価したうえで採用しているかは不明である。つまり、新しい労働市場への参入路として Fd がどれだけ活用されているかは、未知数である。

Fd コース修了後の先のキャリア展望について、一部の領域や大企業について、例えば TESCO など特にコース開発を共同して進めている場合には、極めて親和的であると思われる。しかし、公的セクター、特に教育部門 (education) と健康部門 (health) では、当初の需要予測とは異なり、登録有資格実務者 (registered licensed practitioner) になることは困難で、準実務者 (associate practitioner) などの中間レベルの職に就くなどの道が考えられる。

仮に日本で現役就業者へのリカレント学習による能力開発を想定する場合には、必ずしも雇用者に歓迎されるとは限らない。むしろ、他社へ転職するのではないかと警戒されたり阻害されたりするという可能性が考えられる。しかし、イギリスの労働市場においては、このような懸念は一般的には杞憂にすぎないようである。“総社会コスト (social total cost)” という考えがあり、個人の利益 (personal benefit) になることが長期的には社会全体のためになるとの認識が広く根づいており、Fd コース就学が容易であるかどうかは、職場での個別的な人間関係などの小さな問題に左右されているようである。

### 3) Fdの特徴と他の職業資格

「NVQの方がより明確な資格体系であり、Fdは曖昧でアカデミックと職業の狭間で宙づりになっている」という懸念もあるが、これは的を射ていない。Fdの明確さ等はいくまでも領域次第である。例えば看護(Nurse)や救急救命(Ambulance)などのコメディカルな領域では、国民保健サービス(National Health Service = NHS)がFdの枠組みに賛同しており、極めて明確である。

Fdコースも、初期にはHND/HNCの再ラベル化に過ぎない面もあった。事実、多くの大学が既に有していたHND/HNCコースをFdコースに再編成して対応した。そのために迅速で低コストな対応が可能になったという側面もある。しかし、職場学習(workplace learning)とアカデミックな学習の統合という点にFdの特徴がある。したがって、現在でもHND/HNCとFdに共通要素があることは事実であるが、両者は力点が異なるわけである。

ただし、Fdのプログラム内容を、あまりに特殊な狭い領域に特化したプログラムにしたり、個別企業に焦点化し過ぎたプログラムにすると、スキルの転用可能性という点で問題が起こるだけでなく、企業の業績に左右されたり、当該セクターの人材需要が減少した場合など、安定的な教育提供という面でもリスクがないわけではない。

### 4) 政府支出財源(fund)面からみたFdと他の資格

Fdはマーケットで必要とされる人材養成を目的にしているのだから、例えば政府がエンジニアを重点的に養成したいという政策をとる場合には、Fdのエンジニアコースには重点的に運営資金助成がされる。

このように政府が財政支出で差をつけて政策誘導を目指す傾向は、近年顕著になってきた。2008年に、イングランド政府はELQ政策(=the equivalent or lower qualification policy)を導入した。これは、既に所持している学位や資格と同等あるいはより低い教育プログラムを履修登録しようとする学生にかかる教育費用に関しては、政府は教育資金拠出をしないというものである。したがって中等教育終了後にFdを履修して進学する学生に関しては、大学は政府から教育資金を得ることができるが(<http://www.hefce.ac.uk/FAQ/elq.htm#q8>にもELQの例外として明記されており、政府としてFdを継続振興する意思のあらわれと見られている)、逆の場合や同レベルの異なる分野の資格をとって再スキルアップを図ろうとする者などにとっては、教育費負担の面で不利になる。また、教育機関としても、再スキルアップ層をターゲットに考える場合、学位取得者の生涯学習に寄与してきた公開大学(OU)なども資金面で厳しくなると思われる。

### 5) Fdと公開大学(オープン・ユニバーシティ=OU)について

公開大学でもFdのコースを提供してきたが、主な学生マーケットは、Fdとは異なるマーケットであると考えている。マーケティングの主要ターゲットとして、Fdは若くフルタイムで大学生活を楽しみたい、また大学に進学したいという動機を強く持った学習者を想定している。これに対し、公開大学は仮に若い学生であっても自家を離れたくない学習者であり、むしろ大多数は学位を既に取得した社会人学習者を想定しているためである。しかし、上述のELQ政策と公的資金の問題を考えると、Fdがさらに拡大した場合は、Fdは公開大学にとって脅威になるかもしれないと考えている。

### C) City and Islington College (シティ・アンド・イスリントンカレッジ=CANDI)

- ・ 訪問日 2009年3月17日(火) 12:30-16:00
- ・ 訪問先 Applied Science Centre (応用科学センター)
- ・ 面談相手 Derek Puddick (Director of Centre for Applied Sciences : 応用科学センター長)  
Trevor Hunter (Head of Department Applied Optics : 応用光学部長)  
ほか2名  
Susan J. Hayday (FDF から同行)

#### ・ 訪問先の特徴

CANDI は、1993年に4つの機関 (North London College, City and East London College, Islington Sixth Form Centre and Islington Adult Education Institute) が統合して発足した新しいカレッジである。20,000人以上の学生を有するイングランドで最も大規模な継続教育カレッジ (further education colleges) の1つであり、中退経験者 (school leavers) や若者、成人などを対象とした訓練コースなどを提供している。2005年から6400万ポンドという継続教育史上最大とされる投資をして新たなセンターを建築中であり、このカレッジが成功し拡大路線にあることがうかがえる。同カレッジは Islington キャンパスに5つのセンター (Centre for Health, Social and Child Care, Centre for Lifelong Learning, Centre for Business, Arts and Technology, City and Islington Sixth Form College, Centre for Applied Sciences) を有し、そのうちの1つが今回の訪問先、応用科学センターである。

応用科学センターは、光学 (optics)、犯罪科学 (crime scene and forensic)、医学 (medical science)、スポーツ科学 (sports science)、健康科学 (health science) の5つの専門分野からなっている。今回は特に光学 (optics) とその一部の検眼処方 (ophthalmic dispensing。現在は日本語で完全に一致するものがないが、検眼技能士と仮訳) と、犯罪科学 (crime scene and forensic) の2領域について話を伺った。犯罪科学 (crime scene and forensic) はやや特殊な領域ではあるが、警視庁 (Metropolitan Police) との協力で開発されたコースであり、このコースを修めると、犯罪現場捜査官 (Scene of Crime Officer) になるなどの就職先がある。

- ・ 《主な論点》 Fd コースを含む多様なプログラムを提供するカレッジの現場について

#### 1) 同センターの Fd コースの展開について

##### ① 応用科学分野でのカレッジ進学拡大

かつて応用科学といえばほぼ全員が大学に通っていた。しかしこのカレッジでは過去7年間で300人以上の学生が増加し、今日では同センターだけで1,000人以上になる。Fd コースはさらに拡大傾向にあり、今後は環境保護関連や聴覚学 (audiology) などの大きな需要が見込まれる領域で Fd コースを新たに設ける予定である。特に聴覚学 (audiology) の展開のためには、現在ある光学 (optics) の Fd コースがよい参考になると考えている。

##### ② Fd コースと学位授与大学

CANDI は Fd に関して現在下記のコースを提供しており (下記表を参考)、CANDI の Fd コースは QAA により「良 (good practice)」として認可されている。なお、CANDI の Fd コースを修めた学生に対する Fd の授与は、分野に応じて Queen Mary, University of London、London Metropolitan

University、City University London の3機関が行っている。

Category Name	Region	Course Title	Validating Institution	Delivering Institution
Science	LO	Crime Scene and Forensic Investigation	Queen Mary, University of London	City and Islington College
Performing Arts and Music	LO	Dance	London Metropolitan University	City and Islington College
Media	LO	Digital Media Design	London Metropolitan University	City and Islington College
Education	LO	Early Years (Sector Endorsed)	London Metropolitan University	City and Islington College
Education	LO	Education Primary Pathway	London Metropolitan University	City and Islington College
Art and Design	LO	Fashion and Textiles	London Metropolitan University	City and Islington College
Health	LO	Ophthalmic Dispensing	City University London	City and Islington College
Sport	LO	Personal Training and Fitness Consultancy	London Metropolitan University	City and Islington College
Art and Design	LO	Photography	London Metropolitan University	City and Islington College
Education	LO	Playwork	London Metropolitan University	City and Islington College
Public Services	LO	Public Service Management	City University	City and Islington College
Community and Social Studies	LO	Working with Young People and Young People's Services	City University	City and Islington College

参考：CANDI の提供している Fd コース一覧

(FDF のコース検索ページより。表中の Region の LO はロンドンを指す)

( [http://www.fdf.ac.uk/courses/?keyword=&category\\_select=&region\\_select=&course\\_title=&validating=&delivering=City+and+Islington&submit=Search](http://www.fdf.ac.uk/courses/?keyword=&category_select=&region_select=&course_title=&validating=&delivering=City+and+Islington&submit=Search) )

専攻領域	提供地域	コース名	認証機関	コース提供機関
科学	ロンドン	犯罪科学	Queen Mary, University of London	City and Islington College
演劇・芸能	ロンドン	ダンス	London Metropolitan University	City and Islington College
メディア	ロンドン	デジタル・メディアデザイン	London Metropolitan University	City and Islington College
教育	ロンドン	幼児教育(認可コース)	London Metropolitan University	City and Islington College
教育	ロンドン	初等支援教育	London Metropolitan University	City and Islington College
芸術	ロンドン	被服	London Metropolitan University	City and Islington College
健康科学	ロンドン	検眼処方	City University London	City and Islington College
スポーツ	ロンドン	フィットネス指導員	London Metropolitan University	City and Islington College
芸術	ロンドン	写真	London Metropolitan University	City and Islington College
教育	ロンドン	遊戯指導	London Metropolitan University	City and Islington College
公共サービス	ロンドン	公共サービスマネジメント	City University	City and Islington College
社会調査	ロンドン	若年者支援	City University	City and Islington College

## 2) Fd コース履修学生のプロフィールと入学要件

### ① フルタイム学生中心のプロファイル

フルタイム学生がおおよそ 90%、その他には既に別の学位等を取得した成人などが 5% ぐらい。海外からの学生もいるが、非常に稀で富裕層が多い。

### ② 入学要件

UCAS (Universities and Colleges Admissions Service) ポイントでは、光学 (optics) でおよそ 180、犯罪科学 (forensics) で 240、スポーツ科学 (sports science) で 120 ぐらいの程度。アカデミックな方が高くなっている。これは大学の威信構造やマーケットを反映している部分がある。

より詳細には、検眼処方 (ophthalmic dispensing) の Fd コースでは適切な科目 (e.g. 数学または科学 (any pure science)) で 180 UCAS ポイントであることに加え、GCSE については、数学または物理、国語 (English)、科学関連で 1 科目、およびその他 2 科目で grade C 以上であることが求められる (<http://www.candi.ac.uk/courses/factsheet.asp?coursechoice=AS1H01A08>)。フルタイムの犯罪科学 (crime scene and forensic) の Fd コースでは、180 UCAS ポイント (うち少なくとも 2 科目で A2 レベルをパスしていること) に加え、関連する GCSE (国語 (English) と数学を含む) で A レベルの grade C 以上であること、また GCSE で A レベルの科学 (GCSE level science) が望ましい (<http://www.candi.ac.uk/courses/factsheet.asp?coursechoice=AS2H01A08>)。

### ③ 成人学習者のための学習経験の認定

21 歳以上の成人学生は UCAS ポイントだけでなく個々人の試験や資格などの学習経歴や、職場や生活における実務経験などの背景を勘案する。前者の例が APL (the Accreditation of Prior Learning)、後者が APEL (the Accreditation of Prior Experiential Learning) である。

## 3) 同センターの Fd コースの具体的なコース運営について

### ① 多様なコース・履修モデル

同カレッジには Fd に限らず HND/HNC や NVQ などの学生も、またフルタイムの学生もパートタイムの学生も存在し、年齢も多様で、同一センター内に様々なレベルとタイプの学生を抱えている。しかし、コースのレベルガイドや標準履修スタイルの情報などを周知したり、どのレベルでも通用する授業と個別レベルごとの講義を設定したりしている。



Quick Facts		START	08 SEPTEMBER 2008
COURSE CODE	AS2H01A08	DAYS/TIME	"3-4 DAYS A WEEK AT CITY AND ISLINGTON AND 1 DAY A WEEK AT QUEEN MARY, UNIVERSITY OF LONDON"
COURSE LEVEL	LEVEL 5	AVAILABILITY	NEXT COURSE STARTS SEPTEMBER 2008
COURSE LENGTH	2 YEARS		

標準履修スタイルの案内 (フルタイムの場合) : 犯罪科学 (crime scene and forensic) の Fd コース

HP (<http://www.candi.ac.uk/courses/factsheetPrintable.asp?coursechoice=AS2H01A08&strgroup=>) より

たとえば犯罪科学 (crime scene and forensic) の Fd コースを修めるには、フルタイムで 3-4 日間／週 CANDI での学習と、1 日間／週 Queen Mary, University of London での学習を 2 年間続ける、パートタイムの場合は週あたり学習日数が異なり、3 年間の履修、という設計が目安になっている。

さらに Fd では、職場での学習が必要要件である。2 年間のうち合計 32 日間の職場学習 (work-based learning) が求められる。したがって、履修段階でもカレッジ・大学・職場の連携が必要になる。このために職場学習チューター (work-based learning tutor) を雇い、このチューターが実習内容や施設設備をチェックし交渉などを行う。

また検眼処方 (ophthalmic dispensing) や犯罪科学 (crime scene and forensic) のコースは非常に特殊で専門性の高い領域であるため、教員も高い専門性をもっている必要がある。そこで、職場から専門家、例えば犯罪現場捜査官 (Scene of Crime Officer) などを教員として招聘することもある。カレッジの施設設備としても、ラボもあり、現場シミュレーションや訓練ができるような設備を用意している。

なお、例えば同じ光学 (ophthalmic) 関連のコースでも、入学要件などが異なり、Fd 以外に多様なレベルのコースが展開している (下記参照)。履修レベルや社会人の再トレーニングなど、目的により分かれている。

***** Ophthalmic Dispensing Foundation Degree (Full-Time) Level 5 AS1H01A08 Level:5 Day/Time: 4 days a week
***** Diploma in Ophthalmic Dispensing Diploma AS1001A08 Level:3 Day/Time: 4 days a week
***** Ophthalmic Dispensing Diploma (Part-Time Day Release) Level 3 AS1010A08 Level:3 Day/Time: Tue or Wed 9am-7.30pm
***** Ophthalmic Dispensing Diploma (Distance learning) Level 3 AS1024A08 Level:X Day/Time: MATERIALS STUDIED AT HOME BUT COLLEGE ATTENDANCE FOR 1 WEEK PER TERM
=====
BTEC First Diploma in Science AS2202A08 Level:1 Day/Time: 4 days per week

光学 (ophthalmic) 関連コース

HP([http://www.candi.ac.uk/courses/course\\_search.asp?txtsearch=ophthalmic&simple=go&Action=GO](http://www.candi.ac.uk/courses/course_search.asp?txtsearch=ophthalmic&simple=go&Action=GO))より

#### 4) Fd コースプログラムの開発・構成について

##### ① コース開発におけるカレッジ・大学・企業の関与

検眼処方 (ophthalmic dispensing) の Fd コースについては、CANDI でもそれまでに関連するディプロマ (diploma) のコースを提供していたし、City University London も BSc の検眼 (optometric) コースをもっていたので、Fd コースからの接続可能性が明らかであった。そこでこの Fd の基本モジュール (module) を編成し、それに企業の関与する部分を組み込んで、カレッジ、大学、企業の三者で作り上げた。

##### ② コース運営段階での協議・連携

こうした関連諸機関との間では、いま特に緊張はなく、良い関係にある。例えば光学 (optics) の

コースについて言えば、プログラムの主任者 (director) が City University におり、またカレッジは運営責任者 (プログラム・マネージャー) をもっている。教育スタッフは、大学に 4-5 人、カレッジから 10 人で構成される。授業では、およそ 85% をカレッジの教員がカレッジで教え、残る 15% を大学からのスタッフが教えている。毎月会合も行っており、委員会も設け、個々の学生、授業などあらゆることについて話し合うなどしている。Fd の授与 (validation) 権は大学にあるが、コースプログラムの質を確かなものにするのは、大学とカレッジの共同作業である。

プログラムの内容はまた、一般光学協議会 (general optical council) のような業界団体の基準に適合するように配慮している。このような業界 (umbrella bodies) は複数あり、公益保護や専門職の質の保証、各レベルの訓練などのためにある。業界 (umbrella bodies) は技能レベルを数値で評価検討する 25 の産業部門別技能協議会 (sector skills council) とは別である。関係者で互いにプログラムを開発する中で、信頼関係も形成される。

### ③ 教育スタッフの資質・条件

カレッジの Fd コースの教員は講師 (lecturer) のみである。大学では研究能力のポートフォリオ (research portfolio) に基づいて教授以下の職階ヒエラルキーが形成されているが、カレッジではそのような体系はとっていない。カレッジとして教員に望むことは、有資格教員 (qualified teacher) であること、たとえば光学では有資格検眼士 (qualified optician) であることである。他方、大学では、教授らは必ずしも有資格教員 (qualified teacher、有資格検眼士 qualified optician など) ではない場合が多い。カレッジ教員の学位は多様であり、第一学位 (first degree) のみの教員もおり、稀だが第二学位 (second degree)、PhD 保有の教員も含んでいる。しかし、職業的な専門教育においては、カレッジは、大学よりも小規模でハイレベルな授業を行うことができると自負している。

## 5) Fd コースの学生・卒業生の質的水準の評価

### ① カレッジの教育目標

カレッジは Fd コースを担う身として、学習方法 (スタディ・スキル) を教育したり、学生を総合的に支援したりして、カレッジの学生を独力で学習できる優秀な“学生”にする必要があると考えている。

### ② 学習成果の評価法

学生の学習成果については、Fd コースでは、コースワークや実技などテストや課題 (assignment) は存在するが、一律に共通の最終試験のようなものは存在しない。Fd コースには実技的な要素や理論的な要素などがあり、一律に最終試験のようなものを課すのは不適切である。光学 (Optics) に関していえば、一般光学協議会 (general optic council) などの認可した、より公的な外部試験を判定に利用したりもする。例えば、コースで成績下位の学生でも、外部試験の成績が良い場合は、授業成績に考慮するなどの対応を行う。そして、プログラム主任者やプログラム運営責任者、スタッフが同席し、評価委員会 (assessment board) ですべての学生について、評価を行い、大学に Fd コースの学生として推薦し送り出すに相応しいかを話し合う。この評価 (assessment) については基準も存在しており、厳密な (rigorous) プロセスである。

### ③ 編入学後の学業成績

カレッジの教育の質の高さを示す例として、CANDI のデータによれば、Fd の検眼処方 (ophthalmic dispensing) コースを経て検眼 (optometric) の名誉学士 (honours degree) を得た学生の成績は、一般の A レベル大学生と同じであったという話が挙げられた。

### 6) Fd コースの運営資金 (fund) について

イギリスでは 16-18 歳の学生については政府から運営資金が出ている。それ以上の年齢の学生については政府 HEFCE が Fd 授与の母体である大学に運営資金を配布するので (したがって Fd 学位授与権をもっている少数のカレッジは政府から直接に運営資金を配布される)、カレッジと大学で毎年話し合っ大学から配分される (契約は Fd なので 2 年間)。概ね 10-25% ぐらいを得る。この割合は学校によって異なる。後は学生からの学費で賄う。

## 調査結果の概要（２）－後半：スコットランド

### D) Glasgow Caledonian University (グラスゴー・カレドニアン大学=GCU)

- ・ 訪問日 2009年3月19日(木) 10:00-11:00
- ・ 訪問先 Centre for Research in Lifelong Learning (生涯学習研究センター=CRL)
- ・ 面談相手 Jim Gallacher (名誉教授)
- ・ 訪問先の特徴  
1993年に Glasgow Poly と the Queen's College の統合により発足した新しい大学であり、16,000人以上の学生がおり、90の学部レベル、40の大学院レベルのプログラムを提供している。地元および国内外の企業からの評価も上昇しており、近年では Microsoft、Bovis Lend Lease (Scotland)、CISCO Systems や Scottish Enterprise とプログラム開発や設備などで連携している。Fd に関しては、地域の中核的な存在になっている（後の Ruth Whittaker 氏らのインタビューで触れる）。
- ・ 《主な論点》 イングランドとスコットランドにおける職業関連の準学位 (work-related sub-degree) について比較し、異同について理解を深める。なお、このインタビューは、同氏が他で共同発表したパワーポイント資料 (Jim Gallacher & Robert Ingram, 2009, "Work related & Work Based Learning in HNs and Foundation Degrees in England: A 'home international' comparison") を参照しつつ行われた。

#### 1) 準学位 (work-related sub-degree) が発展した背景

##### ①社会的な課題

イギリスで職業関連の準学位 (work-related sub-degree) が発展したのは、主に以下の2つの異なる課題に対応するためであった。

1. 高等教育への進学機会を拡大する (widening participation)
2. 失業者対策 (労働者のエンプロイアビリティの向上)

##### ②スコットランド・イングランドそれぞれの政策的対応

上記の課題に対し、従来の HND/HNC を通して解決を図るか (スコットランド)、新たに Fd を導入するか (イングランド)、政策的な対応は下図のように異なっている。

#### 職業関連の準学位制度に関する政策的背景の違い

##### 1) イングランド

- ① HND/HNC は雇用者の支持を失い衰退
- ② Fd の導入によるラディカルな政策的転換
- ③ 大学が準学位 (sub-degree) を認可する役割を担っている

##### 2) スコットランド

- ① HND/HNC は現存・維持=HND/HNC を現代化 (modernisation) しようという方針
- ② Fd は導入する必要性がないとの認識

## 2) イングランドの Fd とスコットランドの HND/HNC における参加者のプロフィール比較

### ① イングランドの Fd 学生のプロフィール

イングランドの Fd はパートタイム学生の方が多い。2007 年度で 40%がパートタイム学生。カレッジで教えられるのが 56%で高等教育機関で教えられるのが 44%。

### ② スコットランドの HND/HNC 学生のプロフィール

スコットランドの HND/HNC はフルタイム学生が多く、パートタイム学生が少ない(特に HND)。HNC は 97%がカレッジで教えられ、そのうち 6 割近くがフルタイム学生。HND ではおよそ 8 割がカレッジで教えられ、そのうち 9 割がフルタイム学生である。

## 3) HND/HNC と Fd における職場学習・職業関連学習 (work-based learning/ work-related learning =WBL/WRL)

職場学習 (work-based learning) とは、インターンシップに代表されるように、実際に職場に出向いて行われる教育的活動のことを指す。職業関連学習 (work-related learning) とは、必ずしも実際の職場に出向いて行われるわけではないが、職業につながるような学習活動のことである。

全体として、スコットランドの HND/HNC よりもイングランドの Fd の方が WBL/WRL を強調している。全体として、WRL の方が WBL より適切だと考えられていることが明らかになった。大まかに言って WBL は職場に行き行う実践的な学習で、例えばインターンシップなどである。

WBL/WRL における雇用主の役割は、プログラムの開発、提供、サポート、評価の 4 つの領域にある。職業領域ごとに文化や実践には非常に大きな違いがある。企業の参加を促すのは難しい。

雇用者の参加が HND/HNC と Fd いずれにおいても部分的なものであるにせよ、政策的な支援や地域産業への焦点化がなされているために、Fd の方が雇用者の参加の度合いが大きい。

## 4) 学生による WBL/WRL 経験の評価

学生が WBL/WRL で得るものは、教室の座学とは異なるタイプの学習、教室での授業と WBL/WRL の統合、実生活の経験、最初の一步として職場や産業に足を踏み入れるなどの経験である。

イングランドの Fd 学生もスコットランドの HND/HNC 学生も、知識やスキルなどの理解のために WBL/WRL が重要だと考えているが、イングランドの Fd 学生の 79%に対し、スコットランドの HND/HNC 学生では 45%しかプログラムの中で WBL/WRL を評価していない。なぜなら、スコットランドの HND/HNC では学生にその機会や場所・施設などが不足していて十分に与えられていないからである。Fd は政策により WBL/WRL の重要性が明確になっているが、スコットランドではそうではない。

## 5) スコットランドの HND/HNC 学生とイングランドの Fd 学生の進路比較

イングランドの Fd 学生は、学位取得につながる高等教育進学がスコットランドよりも多い。イングランドの Fd 学生は 54%が名誉学士 (honours degree) をとるために高等教育機関に進学している。イングランドの Fd システムには大学進学が埋め込まれているが、スコットランドの HND/HNC ではそうではないという政策的背景の違いがあるためである。HND/HNC 学生にとってはスムーズな移行のためのアレンジメントが課題となる。しかし、Fd 学生も HND/HNC 学生も、大半は何らかのかたちでさらなる学習を続けていることには変わりがない。

Fd 学生も HND/HNC 学生もかなりの数の学生が、学習内容と関係のない職に就いている。

#### 6) 全体として

- ・ イングランドとスコットランドでは政策的方向性は異なるが (divergent)、しかし現実に個々のローカルなレベルで見れば類似した現象がみられる (integrate)。スコットランドの HND/HNC においては、WBL/WRL の充実が望まれる。

#### E) Glasgow Caledonian University (グラスゴー・カレドニアン大学=GCU)

- ・ 訪問日 2009年3月19日(木) 11:00-12:00
- ・ 訪問先 Centre for Research in Lifelong Learning (生涯学習研究センター=CRLL)
- ・ 面談相手  
Ruth Wittaker (Deputy Director Centre for Research in Lifelong Learning  
: CRLL 副センター長)  
David Whyte (Project Development Officer : strategic change project の推進委員)
- ・ 訪問先の特徴 訪問先 D)に同じ
- ・ 《主な論点》 Fd に基づいたトランジションをスムーズにするための具体的な局面について

#### 1) 組織・体制

##### ① スコットランドにおける準学位と学位のハブ機関としての GCU の位置づけ

スコットランド財政会議 (Scottish Funding Council) は HND/HNC コースから学位への接続をスムーズにするための拠点 (ハブ) 機能が重要だと考えている。そこで、GCU (CRLL) は、HND/HNC コースから学位への接続 (articulation) を促進するため、Greater Glasgow エリア内の広範な大学やカレッジ (新興大学や職業志向の強い大学が中心。20日に訪問するアバディーン・カレッジは、このうちの1校) とのパートナーシップを統制する主導的な役割を担っている (funding, articulation, スムーズな移行の進行など、量的なまた質的なコントロールを行う)。このプロジェクト (Greater Glasgow Articulation Partnership) のために SFC は 2008 年度に GCU に 900,000 ポンドと、スコットランドの大学において最高額の運営資金を拠出した。

##### ② GCU における HNC/HND 保持者の受け入れ

GCU はスコットランド全体のアーティキュレーションの 90%を扱っている。そのうち 35%はカレッジからフルタイム学生として入学してくる。この際のエントリー要件は特に厳しくない。例えば下記のように、専門領域に応じて必須科目などが異なっている。

なお、GCU は HNC/HND 保持者を多く受け入れているが、自身での HNC/HND プログラムはもうほぼ提供していない。

AWARD	PROGRAMME TITLE	GOING RATE	ESSENTIAL SUBJECTS	UCAS CODE	PAGE
School of the Built & Natural Environment					
BSc/BEng(Hons)	Building Services Engineering	Higher BCC A-Level CC	Science (H); Maths (H)	K242	22
BSc(Hons)	Building Surveying	270 UCAS points	English (S); Maths (S)	K230	23
BSc(Hons)	Construction Management	270 UCAS points A-Level BBC	English (S); Maths (S)	K251	24
BSc(Hons)	Environmental Civil Engineering	Higher BBBB A-Level BCC	See Programme Entry Page	H200	25
BSc(Hons)	Environmental Management & Planning	270 UCAS points	English (S); Maths (S)	FN82	26
BSc(Hons)	Fire Risk Engineering	Higher BBBC A-Level BBC	English (S); Maths (S)	H121	27
BSc(Hons)	Interior Design	HND Interior Design with merits	Maths (S)	W250	28
BSc(Hons)	Property Management & Valuation	270 UCAS points	English (S); Maths (S)	N232	29
BSc(Hons)	Quantity Surveying	270 UCAS points	English (S); Maths (S)	K240	30

GCU “Undergraduate Prospectus 2009 Entry”, p.7 より抜粋

(<http://www.caledonian.ac.uk/study/downloads/2009%20GCU%20U-GRAD%20PROSPECTUS.pdf>)

### ③ 戦略的変革プロジェクト (strategic change project) の紹介

2つの大学(GCU& University of Strathclyde)と4つのカレッジ(Glasgow Metropolitan College、Central College、Glasgow College of National Studies、Stow College)によってグラスゴウの中心に包括的で透明性の高い高等教育 (tertiary education) のシステムを作ることが目的で、SFC が資金を拠出したプロジェクトである。GCU の学生経験プロジェクト (Student Experience Project) と連携するなどの複数の試みを行い、大学とカレッジの連携と学生のより効果的な学習などについて、実態調査も行う。2008年度にはこの4つのカレッジ (city-center college) から GCU に 512 人の学生が入ったが、そのうち 447 人が HND/HNC 保持者であった。

このプロジェクトの主な障壁としては、これらの機関間は関心やマーケットでコンフリクトがあり、また景気変動などによる労働市場の需給構造の変化もあることを認識している。2 セクターが異なる関心をもっている場合はグループミーティングを設け、プログラムのコントロールなどを行う。

### 2) カレッジから GCU への接続について

#### ① スタッフおよびプログラムにおける配慮

たとえばスタッフのシェアリング、コースの運営、プログラム設計などが接続 (articulation) の諸側面で、これらを GCU と複数カレッジ間で調整している (※スコットランドではイングランドと異なり、カレッジが高等教育において重要な役割を果たしている)。

また、カレッジ出身の HNC/HND 学生がギャップを感じずにスムーズに大学生活に移行できるよう、編入初年次のプログラム (ブリッジ・プログラム) などを工夫している。「on track program」とよばれる、作文スキルなどの学習やアカデミックなトピックについての支援のプログラムも設けている。

#### ② HNC/HND 学生のメンター

カレッジの小規模授業や施設に慣れた HNC/HND 学生が大学で独立した学習者 (independent learner) になれるよう支援する必要がある。例えば図書館の場所・使い方、特に試験では葛藤があるため、アカデミックな学習や環境に対応できるよう支援する。そのようなメカニズムがいくつかある。例えば、早めに学生に意見を聞き、講師にそれをフィードバックするなどといったこともする。また、入学前に学習導入指導を行ったり、カレッジから来た HNC/HND 学生に対してメンタリング (mentoring) を行ったりするチームも組織している。このメンターは、同じ経験をもつ学生、

HNC/HND 学生出身で GCU の第二ないし第三学位 (second or third degree) 課程にいる学生が担当する。

### ③ HNC/HND 学生に対する支援姿勢

HND/HNC は社会的な低階層などからの参入が多く、課題を抱えているが、編入初年次に経験するギャップを乗り越えられれば、むしろ優秀な成績を残す者もいるようである。自信や能力・知識を補うことができるように支援が必要である。そのために職業的な内容かどうかに限らず、編入 1 年目に様々な科目を教えるなどしている。編入初年次に中退する HNC/HND 学生の率は高く、正確な数ではないが印象としては 20% ぐらいである。したがって、カリキュラムや文化のギャップを埋めることが必要である。

## F) The Scottish Credit and Qualifications Framework Partnership (SCQF-Partnership 社)

- ・ 訪問日 2009 年 3 月 19 日 (木) 13:00-15:00
- ・ 訪問先 グラスゴー市内のレストランにてランチミーティング
- ・ 面談相手

Margaret Cameron (Manager : マネージャー)

Mike Hewett (European and International Officer : ヨーロッパ・国際部門担当者)

- ・ 面談相手企業の特徴  
スコットランドには数多くの資格枠組みがある (下表参照)。したがって、他の資格との互換性や接続を検討し、その情報を与えることで学習者や企業に資するように活動を行っているのが SCQF-Partnership 社の取り組みである。会社自体は 7 人からなる小規模なものであるという。1 人のチーフエグゼクティブオフィサー、2 人のマネージャー、1 人のクオリティ担当者、1 人のコミュニケーション&マーケティング担当、残る 3 人はヨーロッパ&インターナショナル担当者である。
- ・ <<主な論点>> SCQF の枠組み全般と他の資格枠組みについて

OTHER LEARNING PROGRAMMES AND QUALIFICATIONS			
SCQF Levels	Learning Programme	Title	Credit Points
6	ASDAN <sup>1</sup>	Certificate of Personal Effectiveness Level 3	15
5	Youthlink <sup>2</sup>	Training for Advocates	2
5	City and Guilds <sup>3</sup>	Certificate in Retail Principles	34
5	ASDAN <sup>1</sup>	Certificate of Personal Effectiveness Level 2	12
4	ASDAN <sup>1</sup>	Certificate of Personal Effectiveness Level 1	12
4	Youth Scotland <sup>4</sup>	Youth Achievement Award Bronze	7
5	Youth Scotland <sup>4</sup>	Youth Achievement Award Silver	11
6	Youth Scotland <sup>4</sup>	Youth Achievement Award Gold	14
7	Youth Scotland <sup>4</sup>	Youth Achievement Award Platinum	16

1 Credit rated by SQA 2 Credit rated by Adam Smith College 3 Credit rated by SQA 4 Credit rated by SQA

### SCQF-Partnership 社のパンフレット

『Achievement counts :A students' guide to credits and qualifications』 p.4 より

1) SCQF の枠組みについて

SCQF Levels	SQA Qualifications		Qualifications of Higher Education Institutions	Scottish Vocational Qualifications
12			DOCTORATES	
11			MASTERS POST GRADUATE DIPLOMA POST GRADUATE CERTIFICATE	*SVQ5
10			HONOURS DEGREES GRADUATE DIPLOMA	
9			PROFESSIONAL DEVELOPMENT AWARDS ORDINARY DEGREE GRADUATE CERTIFICATE	*SVQ4
8		HIGHER NATIONAL DIPLOMA	DIPLOMA OF HIGHER EDUCATION	
7	ADVANCED HIGHER CREDIT POINTS 32	HIGHER NATIONAL CERTIFICATE	CERTIFICATE OF HIGHER EDUCATION	*SVQ3
6	HIGHER 24			
5	INTERMEDIATE 2 CREDIT STANDARD GRADE 24			*SVQ2
4	INTERMEDIATE 1 GENERAL STANDARD GRADE 24	NATIONAL CERTIFICATES	NATIONAL PROGRESSION AWARDS	*SVQ1
3	ACCESS 3 FOUNDATION STANDARD GRADE 24			
2	ACCESS 2 18			
1	ACCESS 1			

TABLE NOTES

1 The numbers highlighted in the table above are SCQF credit points, which show how much work is involved in achieving each qualification.

2 The new Skills for Work courses are National Courses available as Access, Intermediate and Higher Qualifications (SCQF levels 3 – 6).

3 \*Ongoing work to credit rate SVQs shows that SVQ units range from SCQF level 4 to level 12. SVQs at 3 and 4 can be placed at different SCQF levels.

SCQF-Partnership 社のパンフレット

『Scotland's framework for Lifelong Learning :A guide for learners, providers and employers』 p.3 より

SCQFに おけるレベル	SQAの資格枠組み		高等教育機関の資格	スコットランドの職業資格
12			博士	
11			修士 卒業後ディプロマ 卒業後サーティフィケート	SVQ 第5レベル
10			名誉学位 卒業資格ディプロマ	
9			専門職能力開発 一般学位 卒業資格サーティフィケート	SVQ 第4レベル
8	クレジット ポイント	高等国家ディプロマ	高等教育ディプロマ	
7	上級段階 32	高等国家サーティフィケート	高等教育サーティフィケート	SVQ 第3レベル
6	高等段階 24			
5	中級 第2段階 クレジット標準段階 24			SVQ 第2レベル
4	中級 第1段階 標準段階 24	国家サーティフィケート	国家開発	SVQ 第1レベル
3	初級 第3段階 基礎水準 24			
2	初級 第2段階 18			
1	初級 第1段階			

対訳表

① レベル策定基準

カリキュラムそのものの質などをチェック・保証する団体は外部にあり（HMIE（Her Majesty's Inspectorate of Education）など）、SCQFは全体的な層化をいくつかの分類基準により行う。その基準として、資格の入り口と出口に特に焦点化し、レベルやクレジット・ポイントという考え方をを用いて（現在ではSQA（Scottish Qualifications Authority）もポイント制になった）、レベル分類を行っている。

レベル分類においては、年齢や習得年限は問題ではない。主に下表の5点における要求水準によって、SQAやSVQ（Scottish Vocational Qualifications）、アカデミックな資格が12段階のレベルに整理されている（SCQF-Partnership “The Scottish Credit and Qualifications Framework Handbook” p.iiiより）。

したがって、SCQFでは学習成果が枠組みにより保証されていると認識されている。枠組みは学習者と企業の間を取り持つのに役立つほか、学習者に学習や資格、キャリアパスの展望を与えるのに役立っている。また、企業に対してSCQFの枠組みを宣伝するなどを行っている。

知識・理解（主に専門領域に基づく）	knowledge and understanding mainly subject-based
実践（応用的な知識・理解）	practice (applied knowledge and understanding)
一般的認知力（評価、批判的分析力など）	generic cognitive skills ,e.g. evaluation, critical analysis
コミュニケーション・計算能力・ITスキル	communication, numeracy and IT skills
自律性・アカウンタビリティ・他者との協働	autonomy, accountability and working with others

例えば、HNCやHNDについては、要求される知識や認知、スキルなどの観点から、以下のようにそれぞれレベル7、8に分類されている。

SCQF Level 7 (SHE level 1) (Cert HE, HNC, Advanced Higher are examples of qualifications on this level)

NB These descriptors set out the characteristic generic outcomes of each level. They are intended to provide a general, shared understanding of each level and to allow broad comparisons to be made between qualifications and learning at different levels. They are not intended to give precise or comprehensive statements, and there is no expectation that every qualification or programme should have all of the characteristics. The descriptors have been developed through a series of consultations and are offered as a first working guide which will be revised in the light of feedback on their use.

Knowledge and understanding	Practice: Applied knowledge and understanding	Generic cognitive skills	Communication, ICT and numeracy skills	Autonomy, accountability and working with others
Characteristic outcomes of learning at each level include the ability to:				
<p>Demonstrate and/or work with:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• a broad knowledge of the subject/discipline in general</li> <li>• knowledge that is embedded in the main theories, concepts and principles</li> <li>• an awareness of the evolving/ changing nature of knowledge and understanding</li> <li>• an understanding of the difference between explanations based in evidence and/or research and other forms of explanation, and of the importance of this difference</li> </ul>	<p>Use some of the basic and routine professional skills, techniques, practices and/or materials associated with a subject/discipline.</p> <p>Practise these in both routine and non-routine contexts.</p>	<p>Present and evaluate arguments, information and ideas which are routine to the subject/discipline.</p> <p>Use a range of approaches to addressing defined and/or routine problems and issues within familiar contexts.</p>	<p>Use a wide range of routine skills and some advanced skills associated with the subject/discipline — for example:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• convey complex ideas in well-structured and coherent form</li> <li>• use a range of forms of communication effectively in both familiar and new contexts</li> <li>• use standard applications to process and obtain a variety of information and data</li> <li>• use a range of numerical and graphical skills in combination</li> <li>• use numerical and graphical data to measure progress and achieve goals/targets</li> </ul>	<p>Exercise some initiative and independence in carrying out defined activities at a professional level.</p> <p>Take supervision in less familiar areas of work.</p> <p>Take some managerial responsibility for the work of others within a defined and supervised structure.</p> <p>Manage limited resources within defined areas of work.</p> <p>Take the lead in implementing agreed plans in familiar or defined contexts.</p> <p>Take account of own and others' roles and responsibilities in carrying out and evaluating tasks.</p> <p>Work with others in support of current professional practice under guidance.</p>

HNCについて

SCQF-Partnership “The Scottish Credit and Qualifications Framework Handbook”p.42

**SCQF Level 8 (SHE level 2) (Dip HE, HND, SVQ 4 are examples of qualifications on this level)**

**NB** These descriptors set out the characteristic generic outcomes of each level. They are intended to provide a general, shared understanding of each level and to allow broad comparisons to be made between qualifications and learning at different levels. They are not intended to give precise or comprehensive statements, and there is no expectation that every qualification or programme should have all of the characteristics. The descriptors have been developed through a series of consultations and are offered as a first working guide which will be revised in the light of feedback on their use.

Knowledge and understanding	Practice: Applied knowledge and understanding	Generic cognitive skills	Communication, ICT and numeracy skills	Autonomy, accountability and working with others
Characteristic outcomes of learning at each level include the ability to:				
Demonstrate and/or work with: <ul style="list-style-type: none"> <li>a broad knowledge of the scope, defining features, and main areas of a subject/discipline</li> <li>detailed knowledge in some areas</li> <li>understanding of a limited range of core theories, principles and concepts</li> <li>limited knowledge and understanding of some major current issues and specialisms</li> <li>an outline knowledge and understanding of research and equivalent scholarly/academic processes</li> </ul>	Use a range of routine skills, techniques, practices and/or materials associated with a subject/discipline, a few of which are advanced or complex.  Carry out routine lines of enquiry, development or investigation into professional level problems and issues.  Adapt routine practices within accepted standards.	Undertake critical analysis, evaluation and/or synthesis of ideas, concepts, information and issues which are within the common understandings of the subject/discipline.  Use a range of approaches to formulate evidence-based solutions/responses to defined and/or routine problems/issues.  Critically evaluate evidence-based solutions/responses to defined and/or routine problems/issues.	Use a range of routine skills and some advanced and specialised skills associated with a subject/discipline — for example: <ul style="list-style-type: none"> <li>convey complex information to a range of audiences and for a range of purposes</li> <li>use a range of standard applications to process and obtain data</li> <li>use and evaluate numerical and graphical data to measure progress and achieve goals/targets</li> </ul>	Exercise autonomy and initiative in some activities at a professional level.  Take significant managerial or supervisory responsibility for the work of others in defined areas of work.  Manage resources within defined areas of work.  Take the lead on planning in familiar or defined contexts.  Take continuing account of own and others' roles, responsibilities and contributions in carrying out and evaluating tasks.  Work in support of current professional practice under guidance.  Deal with ethical and professional issues in accordance with current professional and/or ethical codes or practices under guidance.

HND について

SCQF-Partnership “The Scottish Credit and Qualifications Framework Handbook”p.43

2) その他

① ボローニャプロセスやコペンハーゲンプロセスとの関連

ヨーロッパにおける枠組みとの関連から言うと、各国各地域で連携して枠組みをつくるわけではない。例えばアイルランドも異なる枠組みを持っているが、互いに枠組みの結果を持ち寄り、参照し合って検討している。

## ② 課題

- ・ 2ヶ月ほど前あるいは2008年11月に、イングランドで新しい制度的枠組みが始まったためもあり、SVQのレベル5がNVQのレベル5に対応しているとはいえない。
- ・ 政府からの資金援助は不十分である。5つのパートナーシップが資金を拠出しているが不足しており、課題である。

## G) The University of Edinburgh (エディンバラ大学)

- ・ 訪問日 2009年3月19日(木) 16:30-18:00
- ・ 訪問先 Moray House School of Education (教育学スクール)
- ・ 面談相手  
David Raffe (Professor of Sociology of Education and a member of the Centre for Educational Sociology 教育社会学センター教授)
- ・ 訪問先の特徴  
1582年に設立された歴史ある大学であり、Gordon Brown 首相らの著名人を輩出している、スコットランドの一流大学 (leading university) である。今回の訪問は、準学位 (sub-degree) も含む中等後教育における職業的移行を研究対象としている David Raffe 教授に、準学位 (sub-degree) の展開と質の評価、よりよいアーティキュレーションのための方策に関する意見を聞くことを目的としている。
- ・ 《主な論点》 Fd や準学位 (sub-degree) の導入をめぐる国際的なプロセスとスコットランドの動向から検討する、よりよいアーティキュレーションの在り方について

### 1) スコットランドの資格枠組みについて

#### ① 職業的な枠組みとアカデミックな枠組みの対応

スコットランドの資格枠組みの特徴は、職業セクター (vocational sector) と高等教育セクターという異質なユニット間を架橋するアーティキュレーションの仕組みを整備して1つの枠組み内におさめていることである。他の国では、職業セクターと高等教育セクターはしばしばそれぞれの中だけで完結したかたちをとっている。

SCQFは職業的な枠組みとアカデミックな枠組み双方を含んでいる(統合している)が、OECDの枠組みも同じように双方含んでいる。ボローニャプロセスとコペンハーゲンプロセスを経て、生涯学習のために統合の方向に向かっているが、異質なものであると思われる。オーストラリアの事例も統合の方向に向かっている。

なお、スコットランドの資格枠組みは統合されているとはいっても、HNC/HNDを積極的に認めている大学と、そうではない大学(多くは歴史のある有名大学)に分かれている。

#### ② 改革の背景

1993年のアクション・プランに始まり、SCOTCAT (Scottish Credit Accumulation and Transfer) systemなどの連携でこんにちのSCQFシステムにいたるまでスコットランドは真剣に資格枠組みに関する改革を行ってきた。この改革の背景として強調されてきたのは、人々が職業教育と高等教育、インフォーマルな学習とフォーマルな学習、それらを相互に架橋する支援である。

### ③ 資格枠組みの機能をどのようにとらえるか

異なるタイプの枠組みがどう使われているか、どのような目的で使われているのか、何が人々を促進するのか、人々が何をそれに期待するのか（インセンティブを備えているかどうか）という観点での分析が重要である。職業教育と高等教育の枠組みを統合するという点についていえば、資格体系を整えるだけではなく、実際にそれがうまく機能するような仕組みも整備する必要がある。そのために他の政策、インセンティブ、学習者の利益などに配慮する必要がある、自動的に機能することはない。

## 2) イングランドの Fd などについて

### ① 成功の背景について

イングランドの Fd の発展について、やはり政策的誘導の力が大きかったように思われる。雇用者をどこまで巻き込めるかがカギだが難しい。限られた専門的なセクターでは可能かもしれない。

また、Fd の展開にせよ、イギリスの労働市場や雇用者と政府の関係性などの特殊性による部分がある上、特定の領域・特定の雇用者ではうまくいき、あるいはいかないといったことがある。

### ② 発展と課題について

かつてはイングランドでも GNVQ (General National Vocational Qualification) をはじめとする複数の資格体系が併存していた。しかし、GNVQ はよりジェネラルであり、アカデミック寄りに傾いていったために、雇用者にとっての魅力を失って現実的に衰退していった。そして資格体系は現在では1つになり、1つのシステム内で多様性を保持するようになった。こんにちのイングランドでは、アカデミックなトラックと専門的に特化した一部のトラックの間で中間的なトラック (middle track) が失われてしまったと考えられる。

## H) Aberdeen College (アバディーン・カレッジ)

- ・ 訪問日 2009年3月20日(金) 10:30-13:30 (インタビューおよび校内見学)
- ・ 訪問先 Gallowgate Centre (ギャロウゲイト・センターキャンパス)
- ・ 面談相手  
Rob Wallen (Director of Learning & Teaching : 学習教授ディレクター)
- ・ 訪問先の特徴  
アバディーン・カレッジは1991年に Aberdeen College of Commerce、Aberdeen Technical College、Clinterty Agricultural College の合併により発足した。こんにちでは30,000人以上の学生を抱え3,800以上もの多岐に渡るプログラムを提供する、スコットランドで最大規模の Further Education および Higher Education 機関である(学生数ではFEが8割超)。全体としてはかなり大規模なカレッジであるが、教育的効果のために個々のクラスサイズは総じて出来る限り小規模にするよう配慮がなされている。訪問先のギャロウゲイト・センターは、アバディーン・カレッジの4つのキャンパスのうち、最大のキャンパスである。
- ・ <<主な論点>> HND/HNC コースのプログラムを数多く提供するカレッジにおける 2+2 degree プログラムの展開について

## 1) 展開するプログラムの多様性と学生の構成について

### ① 学生のレベル

SCQF のレベルでいうと、レベル 3~8 の間のカリキュラムを提供している（レベル 8 は HND。このレベルの学生が大学にトランスファーできる）。

### ② 学生のプロフィール

学生の内訳は、①フルタイム学生が 4,361 人（年齢構成の内訳：18 歳未満 1,705 人、18-25 歳 1,948 人、26-40 歳 544 人、40 歳以上 164 人）、②パートタイム学生が 14,580 人、③イブニング・コース（パートタイム）の学生が 3,332 人。②のパートタイム学生のうち、ビルダーやメカニックとして働いている 287 人は「集中学習・研修（block release）」という仕組みで通っている。「集中学習・研修」とは、例えば 6 週間集中的にカレッジに通い、その後数カ月働き、またカレッジに戻るといったようなサイクルで通学することであり、個別の雇用主により通学・勤務の期間は異なる。

## 2) 大学への編入学の状況

### ① 大学ごとに異なる受け入れ状況

たとえば 2007 年度にはロバート・ゴードン大学（RGU）には 269 人（内訳：フルタイム 218 人、パートタイム 54 人）、アバディーン大学（University of Aberdeen）には 18 人進学している。特に RGU とは 2+2 Degree システム（次項にて詳述）を提携しており、密接な連携体制をとっている。RGU はオープンであり、積極的な受け入れを行ってくれる。しかし、アバディーン大学は古典的な大学であるため、要求水準が高く、受け入れ状況が厳しい。また、HND/HNC 出身学生を何年次に編入学させるかといった条件も、個別の大学・専攻間で調整・交渉が行われる。

全体として、他大学との編入学状況については、伝統的な大学ほど編入学や条件面で厳しい傾向にある。そもそも当該大学で関連する専攻をおいていない場合には交渉のしようがないが、それ以外に関しては、受け入れを行ってくれるように随時交渉している。

### ② HND 学生に必要な支援

どの学生も、専門的な知識があつて入学してくるわけではない。また、大学進学できなかったために自信を失っている学生が多い。こうした学生が、学習スキルと自信を身につけながら学習を進めていくことができる制度が重要である。

そのため、学生の関心・コースごとに、段階的・発展的な学習が可能となるよう、わかりやすいフローが提示されている（下記表参照）。たとえば、エンジニアコースは下記の通りになっており、2 年間の HND コースを経ると、RGU であれば、メカニカル・エンジニアの学士（BSc (Eng) with Honours Mechanical Engineering）コースの 3 年次や、海洋工学エンジニアの学士（BEng (Hons)/Mechanical and Offshore Engineering）コースの 3 年次（ただし条件つき year3(conditions apply)）に編入学できる。また、ダンディ大学（Dundee University）との場合、土木エンジニアの学士（BEng Civil Engineering）コースの 2 年次や、メカニカル・エンジニアの学士（BEng Mechanical Engineering）コースの 2 年次あるいは場合により 3 年次（year2 Consideration may be given to year3）に編入学することができる。編入学の年次をはじめ、こうした細部に関する交渉は、個別の大学との間でなされる。

ANIMAL CARE & ANIMAL NURSING			
For course information and contact details go to pages 20-23			
↓ Entry Option Introductory Level →	↓ Entry Option Non-advanced →	↓ Entry Option Advanced Level →	↓ UNLINK Degree/Professional Qualification
Introduction to Animal Care & Husbandry 1 year	Animal Care 1 year	HNC Animal Care 1 year <b>7</b>	Professional Qualifications Veterinary Nurse Training Scheme
Introduction to Animal Care & Husbandry 1 year	Animal Care 1 year	HND Animal Care 2 years <b>6</b>	SAC (Scottish Agricultural College) BA/BA (Hons) Rural Business Management (Aberdeen & Edinburgh, year 3) year 4 of degree specialist streams offered in Agriculture, Animal, Equine, Food and Leisure, degree awarded by University of Glasgow
Introduction to Animal Care & Husbandry 1 year	Animal Care 1 year	HNC Animal Nursing 1 year <b>7</b>	Professional Qualifications Veterinary Nurse Training Scheme

動物ケアおよび動物看護コースの進学パターンに関するガイド

Aberdeen College “The Ultimate Guide 09/10”,p.110 より

AUTOMOTIVE, CONSTRUCTION & ENGINEERING			
3: Engineering			
For course information and contact details go to pages 28-33			
↓ Entry Option Introductory Level →	↓ Entry Option Non-advanced →	↓ Entry Option Advanced Level →	↓ UNLINK Degree/Professional Qualification
SVQ Performing Engineering Operations Level 2 (Mechanical) 1 year <b>6</b>	National Certificate in Engineering (Mechanical) 1 year <b>6</b>	HND Mechanical Engineering 2 years <b>6</b> <b>2plus2</b>	<p>The Robert Gordon University BSc (Eng) with Honours Mechanical Engineering year 3 BEng (Hons)/ Mechanical and Offshore Engineering year 3 (conditions apply)</p> <p>University of Aberdeen BEng Mechanical and Electrical year 3 BEng Mechanical with Computer Aided Engineering year 3 BEng Mechanical with Control year 3 BEng Mechanical with European Studies year 3 BEng Mechanical with Management year 3 BEng Mechanical with Materials year 3 BEng Mechanical year 3 BEng Civil and Environmental year 3 BEng Civil and Structural year 3 BEng with European Studies year 3 BEng with Management year 3 BEng Civil year 3</p> <p>Dundee University BEng Civil Engineering year 2 BEng Electronic &amp; Electrical Engineering year 2 BEng Mechanical Engineering year 2. Consideration may be given to year 3. On successful completion of year 3 of all the above courses, students will be given the opportunity to enter an Honours year.</p> <p>Napier University BEng (Hons) Electronic &amp; Computer Engineering (into year 2 or 3)</p> <p>Glasgow Caledonian University BSc/BSc (Hons) Computer Aided Mechanical Engineering year 3</p> <p>University of the West of Scotland BEng (Hons) Mechanical Engineering year 2-3 BEng (Hons) Design with Product Development year 2-3 BEng (Hons) Product Design &amp; Development year 2-3 BEng (Hons) Motorsport Design Engineering year 2-3 BSc (Hons) Computer Aided Design year 3 BSc Quality year 3 Entry (Depending on modular content of HND) BEng (Hons) Engineering Management year 2-3</p> <p>The Open University An HND can give up to 240 credit transfer points towards a general (un-named) BA/BSc Degree. Alternatively it may give a more limited amount of credit transfer towards the BSc (Hons) Technology.</p> <p>Professional organisations/institutes Institution of Incorporated Engineers</p>
SVQ Performing Engineering Operations Level 2 (Electrical) 1 year <b>6</b>	National Certificate in Electrical Engineering Practice 1 year <b>6</b>	HNC Computer Aided Drafting & Design (CADD) 1 year <b>7</b>	
SVQ Performing Engineering Operations Level 2 (Mechanical) 1 year <b>6</b>	National Certificate in Engineering Practice (Mechanical Option) 1 year <b>6</b>	HNC Computer Aided Drafting & Design (CADD) 1 year <b>7</b>	

エンジニアコースの進学パターンに関するガイド

※表中の「2plus2」はRGU との間で提携しているコースを意味する。

Aberdeen College “The Ultimate Guide 09/10”,p.115 より

### 3) 2+2 Degree システム

#### ① 制度的背景

アバディーン・カレッジは、複数の大学と編入学に関して提携を結んでいるが、特に RGU との間

では 2002 年から「2+2 Degree」システムとして包括的な制度を整備している。2+2 Degree システムとは、アバディーン・カレッジで 2 年間 HND コースを履修し、さらに 2 年間で RGU で学んで学位を取得する（通常は RGU の 3 年次に編入学する）仕組みのことである。現在のところ、以下のコースで提供している（<http://www.abcol.ac.uk/courses/2plus2.cfm> より）。

会計学HND	HND Accounting
管理情報マネジメントHND	HND Administration & Information
広告・広報活動HND	HND Advertising & Public Relations
応用科学HND	HND Applied Science
アート&デザインHND（整備中）	HND Art & Design - Under development
ビジネス・アドミニストレーションHND	HND Business Administration
メディア・コミュニケーションHND	HND Communication with Media
コンピュータグラフィック・デザイン製造HND（整備中）	HND Computer Graphic Design & Production - Under development
コンピュータ（ソフトウェア開発）HND（整備中）	HND Computing (Software Development) - Under development
コンピュータ（テクニカルサポート）HND（整備中）	HND Computing (Technical Support) - Under development
エンジニアリング（電気）HND	HND Engineering (Electrical)
エンジニアリング（電子工学）HND	HND Engineering (Electronic)
エンジニアリング（機械工学）HND	HND Engineering (Mechanical)
ホスピタリティ・マネジメントHND	HND Hospitality Management
法律サービスHND	HND Legal Services
マルチメディア・デザイン製造HND（整備中）	HND Multimedia Design & Production - Under development
写真撮影・映像HND（整備中）	HND Professional Photography & Imaging - Under development
社会科学HND	HND Social Sciences
観光旅行HND	HND Travel with Tourism

### ② 2+2 Degree システムの発展

2+2 Degree システムは 2002 年度に 64 人の学生の参加から始まったが、年々増加し、2007 年度には 218 人になった（フルタイム学生）。なお、2+2 Degree システムとの名称ではないが、HNC を履修した学生が RGU の 2 年次に進学する体制も整備されている。こちらは 2007 年度にフルタイム 51 人、パートタイム 54 人である。これらの実績から、2006 年度にはアバディーン・カレッジは RGU との間で覚書を交わし、RGU の準カレッジ（Associate College）の地位を得た。これにより、両校で戦略的な計画策定やカリキュラム計画、定期的な会合（最低でも月 1 回）の機会を持ち、スタッフや学習法・教授法・教材などの共有と向上に取り組んでいる。

### ③ RGU との連携

カレッジは、大学に対してともすれば格下の存在とみられやすい。しかし、RGU は対等なパートナーシップのもとに連携体制をとっているという。アバディーン・カレッジから RGU に進学する学生の専攻に応じて新しく学位を授与するコースを設けてくれたこともあるという（たとえばフォトグラフィ）。

また、アバディーン・カレッジから RGU へのスムーズな移行のために、HND 学生は RGU の準学生（associate student）になることができ、RGU の図書館などを使うことができるようにする、ライティングや数学などについて補習コース（extra course）を設けるなど、事前に準備段階としての工夫を行っている。すべての学生が順調に進学するわけではないが、HND 学生とそれ以外の（通常

の) 学生とで進学状況に大きな差はない。

#### 4) 予算・学費等について

##### ① 資金源について

アバディーン・カレッジは大規模校であり、予算は年間およそ 43 百万ポンド。後述するようにカレッジが訓練施設などから得る収益もあるが、主に政府からの運営資金（昨年度は約 30 百万ポンド）で運営している。

その他には、かつてはオイルやガスなどの企業が学生の訓練施設を提供していたが、現在その施設はカレッジに払い下げられている。このカレッジ・カンパニーは昨年度約 5.8 百万ポンド稼ぎだした。そのうち利益は約 10% (0.5 百万ポンド) で、カレッジの収益となる。

また、学生の実習の場を兼ね、低価格のレストランや美容院などが併設されており、近隣の一般市民に対して開放されている。同施設から得られる売上も、カレッジの収益となる。

##### ② 学費

プログラム・コースにより学費は異なる。なお、すでに定年退職している人・失業中の人・身体障害者・一定以下の世帯収入の場合などは、学費は無料となる（政府の保障）。こうした各種の優遇制度があるため、大半の人は学費の心配をする必要がない。イングランドでは失業者であっても学位所有者であれば学費を支払う必要があるが、スコットランドでは異なる。この点でイングランドの方がより厳しいといえる。

#### 5) スタッフについて

##### ① 人数構成

教育スタッフと事務スタッフを合わせておよそ 500 人が働いている。

##### ② 教育スタッフの要件について

学位は教育スタッフの要件に含んでいない。そのため、スタッフ全員が必ずしも高いアカデミックな学位を有しているわけではない。例えば SVQ のレベル 3 の者もいるが、そのような者には、研修担当学士 (BA in professional development) を取得させてからレクチャーとして招聘する場合がある。博士号学位保持者は少ない。

##### ③ 教育スタッフのカテゴリーについて

教育スタッフのカテゴリーは、大学（教授・准教授・講師等）とは異なり、レクチャー（約 200 人）とインストラクター（約 50 人）の 2 カテゴリーからのみ成る。レクチャーは相対的に研究色が濃く (research oriented)、インストラクターは教材の開発・指導などプラクティカルなことがらを担当している。レクチャーの方により多くの給料を支払っている。

#### 6) 様々なタイプの学生を含む授業運営のために

- ・ 教師が楽しく熱心に教えることができ、エンターテイメント性も持ち合わせていることが、学生のモチベーションを高め楽しく学習させるために、重要であると考えている。
- ・ 教材の工夫が重要である。特に ICT は学生のモチベーションを高めるために有効である。たとえ

ば、学生には全員にノートパソコンを支給しており、Web上に講義・実習などの教材をおき、どこからでもアクセスできるようにしている。ICT関連を担当するスタッフは、3人のフルタイム事務員とティーチング・スタッフであり、プログラムは外注している。

- ・ カレッジ自体は大規模であるが、少人数教育が重要であると考え、クラスサイズを20人程度に保つよう努力している。また、一方的な講義形式よりも、インタラクティブな授業運営を意識している。

## 7) 卒業後の進路

### ① 就職について

アバディーンにおいて、かつて主要産業であった漁業は現在では衰退している。現在の主要な地域産業は石油産業であり、学生の重要な就職先となっている。

### ② 進学について

HNDコースの学生がHND取得後に、さらに2+2 Degreeシステムなど学位取得のために大学に進学するかどうかは、専攻によって状況が異なっている。これは職業的要素の強い専攻とそうではないアカデミックな専攻のHNDコースがあり、学位を取得した方がよりよい給料が得られる職業とそうではない職業があるためである。例えば、TV、美容、調理関係は大学に進学しないでHNDのままです職する傾向がある。これに対して、社会科学の場合はそれだけでは職に就くことができないので、大学進学するケースが多い。

## 1) Robert Gordon University (ロバート・ゴードン大学=RGU)

- ・ 訪問日 2009年3月20日(金) 14:00-15:00
- ・ 訪問先 Robert Gordon University (ロバート・ゴードン大学=RGU)
- ・ 面談相手  
John Harper (senior vice-principle and deputy vice-chancellor : 副学長兼総長代理)
- ・ 訪問先の特徴  
大学の起源自体はさかのぼるとかなり古いですが、ロバート・ゴードン大学としてとしては、Robert Gordon's College、Robert Gordon Institute of Technologyなどを経て1992年にスタートした。約6,800人のフルタイムの学部生と約2,200人のパートタイムの学部生、約4,200人の大学院生(フルタイム・パートタイム計)が籍をおく。『The Times Good University Guide 2009』でRGUは「the best modern university in the UK」と称された。すべてのプログラムは産業と密接にリンクして開発されており、学生に「アカデミックな学習と実地経験の効果的なコンビネーション (an effective combination of academic study and practical experience)」を提供している。その結果が、98%以上という高い就職率にあらわれているとされる。
- ・ 《主な論点》 大学側からみたHND/HNCコースのカレッジ出身学生の受け入れについて

## 1) カレッジからの (HND/HNC コースからの) 接続について

### ① 評価の算定について

SQA や SCQF の枠組みをベースとして評価するが、単なるレベルやクレジット・ポイントだけで評価することはない。実際問題としてどのような専攻を学んできたのかということが重要であると考えている。このような葛藤は、特にマスターレベルで顕著である。例えばエンジニアの名誉学士 (honours degree) 取得者がビジネスのマスターコースにスムーズに接続するのは難しい。そこで、自動的・機械的な接続はせず、個々のケースに応じて調整をすることが重要であると考えている。

一般の人がよく混同するのが、クレジット・ポイントの単純な合算である。A という分野で HND (120 ポイント) を修め、次に B という分野で HND (120 ポイント) を修めると、合算するとクレジット・ポイントで 240 だが、これを単純に Bachelor 学位取得者と同レベルとして評価することはできない。

### ② HND/HNC 学生の成績について

カレッジから大学に移行する際に初年時のギャップをうまく乗り越えた者は、(GCU が強調していたほど多いわけではないが)、中にはよい成績を修める者もいる。

### ③ 成績評価の課題について

SQA、HND/HNC などは短期的で個別の能力 (competency) をもとにカリキュラムが構成されており、それが学習成果としてみなされている。しかし、高等教育はよりアウトカム・ベースであり、長期的・総体的に評価する必要があると考える。例えば、自動車整備を例にすると、HND/HNC では個別局面で用いられる 1 つ 1 つの技術が細分化されて教えられ評価されるが、包括的な“エンジン全体の整備の力”として評価されない。SCQF は全体として、よりアウトカム・ベースな在り方に移行すべきであると思われる。

### ④ 成績評価における“モジュール”について

1 つのモジュールにつき RGU では 15 のクレジットを設定し、最大 5 つの学習成果 (learning outcome) で評価している (この構成は大学により異なる)。これにより、とすれば断片的な理解とインプットのみになりがちな学習の全体性を担保している。

各モジュールでそれぞれに修了要件があり、一律に論文や試験を課す、ということはない。プロジェクト課題を課す専攻もあれば、そうではない評価方法を課すものもある。

### ⑤ 協力関係にあるカレッジについて

近距離にあるカレッジとの間で提携しているが、それは地元で働き学ぶ HND/HNC 学生の移動にとって現実的であるためである。特にアバディーン・カレッジとは密接な関係にあり、提携を 2+2 Degree として公式化している。アバディーン・カレッジ以外にはアングス・カレッジ (Angus College)、バンフ&バッチャン・カレッジ (Banff & Buchan College) などとも Degree Link の制度を締結している。

## 2) 企業との関係性について

企業は欲しい人材について要望を出しアドバイスはくれるが、テクニカルなプログラムの設計など

については実質的に発言をすることはない。例えば 120 ポイントに相当するレベルの資格は何かといったことは認識していない。その点で現在の枠組みでは本当に企業が参加しているとは言えない。

### 3) “リバーズ・アーティキュレーション”について

“リバーズ・アーティキュレーション (reverse articulation)”とは、ここまでで述べてきたような、HND/HNC (カレッジで授与される短期間、より低位の資格) から degree (大学で授与されるより長期間、上位の学位) への移行と逆の接続を意味する。つまり、大学の学位取得コースからカレッジの HND/HNC コースへ移行することを意味する。大学の教育になじめない 1 年生、中退者などが、カレッジで HND/HNC コースを学ぶことが想定されている。

この仕組みは個々の学生に資するものであるが、いまだ RGU とアバディーン・カレッジが試行的なケースであり、また“リバーズ・アーティキュレーション”という表現はネガティブな意味合いを帯びているので別の用語を用いること、SQA の資格体系との調整なども QAA で検討中である (The Quality Assurance Agency for Higher Education, 2009/ Degree to Higher National Articulation: Final Report; pp.9-15=<http://www.sacca.ac.uk/documents/QAA%20276%20Degree%20to%20HNA%20Final%20report.pdf> )。



オーストラリアにおける短期高等教育の評価に関する調査研究  
—オーストラリア資格枠組 (AQF) と准士学位プログラム—

館 昭・和栗 百恵

はじめに

財団法人短期大学基準協会では 2008 年度文部科学省の大学評価研究委託事業として「短期大学機関別評価における学生の学習成果及び達成度評価の評価基準、評価方法の実証的調査・開発」を実施した。調査研究委員会ではこの中で海外の短期高等教育に関する調査研究として「イギリス及びオーストラリアにおける短期高等教育の評価に関する調査研究（達成度評価を中心として）」を担当し、短期課程学位重視の国際動向を踏まえ、特にイギリスで 2001 年に導入されたファンデーション・ディグリー及びオーストラリアで 2004 年に公式化したアソシエート・ディグリーの展開とそこにおけるアウトカム評価に関する資料収集、調査研究を行った。

これはその内の、オーストラリアに関する調査結果である。本調査では、公刊本やネット検索で得られる資料等による文献研究の他、関係機関に対する訪問調査を実地した。訪問調査は 2009 年 3 月 24 日～27 日に実施し、訪問先及び面談者は以下の通りである。

- オーストラリア資格枠組カOUNシル事務局  
(Australian Qualifications Framework (AQF) Council Secretariat)  
Ann Doolette            Executive Director  
Diane Booker            Principal Policy Officer
- 南オーストラリア州継続教育雇用科学技術省  
(Department of Further Education, Employment, Science & Technology (DFEEST),  
Government of South Australia)  
Richard Symonds      Director, Higher Education Directorate  
Irina Ferouleva        Senior Project Officer, Quality Directorate
- 南オーストラリア大学  
(University of South Australia (UniSA))  
Allan Tabor    Deputy Director, Academic Services, Student and Academic Services
- アデレード中央美術学校  
(Adelaide Central School of Art (ACSA))  
Ingrid Kellenbach    Chief Executive Officer  
Rob Gutteridge        Head of Drawing  
Chris Orchard         Associate Professor  
Sally Dukic    Academic Administrator

これらの面談は、主として、AQF カOUNシルの Executive Director である Ms Ann

Doolette のコーディネートのもとで、Executive Assistant の Ms Sharon Grandison のご尽力に拠って実現したものであり、記して感謝の意を表するものである。

なお、この報告では、「associate degree」の訳語として「准士」を当てている。日本の短期大学士に当たるものではあるが日本のように短期大学という特定の学校種が授与するものではないこと、また旧来の訳語である「準学士」は日本の制度では学位ではない上に「associate」は「associate bachelor」ではないこと、日本では「准教授」の職位が生まれこれが「associate professor」に対応することから、associate の訳語として「准」の語が相応しい状況になってきているからである。また、「graduate」の訳語としては、文字通りの「卒業」から敷衍して「卒後」を当てている。これは、多くの国と同様にオーストラリアでも「大学」と別組織としての「大学院」は存在しておらず、「graduate」は学位プログラムのレベルを示すにすぎないものだからである。

## 1 オーストラリアの高等教育制度

オーストラリアの公式名称は、The Commonwealth of Australia で、立憲君主制下における議会制民主主義政体を取る。1901年に6つの独立のイギリス植民地が同意によって合体し、それぞれを州 (state) とする国家 (nation) を形成した。この合体による連邦政府 (The Commonwealth Government) は全州に及ぶ権力を持つが、その権力範囲はオーストラリア憲法 51 条によって規定されており、それ以外の権力は州に残されている。州はニューサウスウェールズ、クイーンズランド、南オーストラリア、タスマニア、ビクトリア、西オーストラリアの6州であり、この他に中央政府の直轄地であるオーストラリア首都テリトリー、中央政府の領地ではあるが自治権を持つノーザンテリトリーの2つのテリトリー (territories) がある。(AG 2009a)

オーストラリア憲法 51 条の規定する連邦政府の権力範囲には、本稿で課題とする教育権は含まれておらず、連邦政府は各州の教育に対する直接の権限を持たない。しかし、現実には全国レベルでの教育政策の展開が必要とされ、連邦政府は財政支出を梃子に教育への関与を行ってきた。この状況を、スマートは、以下のように叙述している。(Smart 1992, 31)

憲法上では教育は各州の責任とされるが、第2次大戦後、連邦政府は学校 (schools) と高等教育 (higher education) の両者への財政と政策形成面の関与を強めてきている。事実、1973年には、社会主義のホイットラム労働党政府は、かつては分担していた高等教育 (大学と上級教育カレッジ [CAEs]) に対する財政的責任を完全に州から取り上げ、同時に授業料を無償とし、第三段階学習 (tertiary study) に取り組む労働者階級学生の割合の増加も明確な目標とした。これによって、1973年以来オーストラリアは、大学と CAE に対する財政と管理の分離というある意味で変則的な状態になっている。第三段階機関は州の議会法によって設立され、州の大臣がその福祉と管理にテクニカルに責任を負っているのに、今や実質上は連邦政府がその資本的及び経常的な財政のすべてを提供しているのである。

ちなみに、上記の叙述に出てくる CAE は 1964 年に高等教育の二元化 (binary division) の政策のもとで設立された非大学高等教育機関であるが、1988 年の二元システムの解消に

よって、1990年代初頭までにすべて大学となっている。また、1980年代後半からの高等教育の民営化（privatization）の流れの中で、海外からの留学生からのフルコストの料金の徴収、自国学生に対しても控えめな授業料の徴収という形で授業料が復活しており、また1986年には初の私立大学の設立が認可され、大学が公立のみの時代は終わっている。

そして、現在では、2003年の連邦の高等教育支援法（Higher Education Support Act 2003, HESA）によって、オーストラリアの高等教育セクターは、高等教育提供者（higher education providers）と総称され、大学（university）、大学以外の自己適格認定機関（self-accrediting entities）、非自己適格認定機関（non self-accrediting entities）の3種の機関から成る。

オーストラリアには、現在、大学は39校あり、その内37校が公立機関で、2校が私立である。また、海外（アメリカ）大学のオーストラリア分校が1校ある。大学以外の自己適格認定高等教育機関は4校、州及びテリトリーの適格認定を受けている非自己認定高等教育機関は150校以上あり、後述のオーストラリア資格枠組登録（AQF Register）にリストアップされている。（DEEWR 2009a）この中には、複数の州及びテリトリーに登録されているものもあるので、その実数は120程度とみられる。（DEEWR 2009b）

高等教育支援法（HESA）では、同法中の表Aに掲載の提供者（図表1）、つまりすべての公立大学と特別な公立自己適格認定機関（Batchelor Institute of Indigenous Tertiary Education）に連邦政府のすべての種類の補助金（grants）の受給資格を与え、またその学生にあらゆる形態の援助を受ける権利を与えている。

図表1 高等教育支援法（HESA）表A掲載高等教育機関

Central Queensland University	The University of Melbourne
Charles Darwin University	The University of Queensland
Charles Sturt University	The University of Sydney
Curtin University of Technology	The University of Western Australia
Deakin University	University of Ballarat
Edith Cowan University	University of Canberra
Griffith University	University of Newcastle
James Cook University	University of New England
La Trobe University	University of New South Wales
Macquarie University	University of South Australia
Monash University	University of Southern Queensland
Murdoch University	University of Tasmania
Queensland University of Technology	University of Technology, Sydney
Royal Melbourne Institute of Technology	University of the Sunshine Coast
Southern Cross University	University of Western Sydney

Swinburne University of Technology	University of Wollongong
The Australian National University	Victoria University
The Flinders University of South Australia	Australian Catholic University
The University of Adelaide	Batchelor Institute of Indigenous Tertiary Education

(Australia 2008: 15-6)

また、同法中の表 B に掲載の提供者（図表 2）、つまり私立大学と私立の自己適格認定機関に一部の補助金の受給資格と、その学生に一定の援助を受ける権利を与えている。

図表 2 高等教育支援法（HESA）表 B 掲載高等教育機関

Bond University	Melbourne College of Divinity
The University of Notre Dame Australia	—

(Australia 2008: 16)

さらに、他の私立高等教育機関の学生に対しても、一定の条件で連邦の奨学金システム（FEE-HELP）の対象としている。

## 2 オーストラリア高等教育の質保証

### 2-1 大学の質保証

大学は州法に基づき設置され、高い自律性と学位授与権を有する。つまり、大学は自ら学位プログラムを生み出す権限を有しているわけである。しかし、このことは一方で、その学位プログラムの質の確保について自ら強い責任を有していることを意味し、そのために大学内部に質保証の仕組みを持っている。その事の表現として、オーストラリアでは、大学に対して前出の自己適格認定機関（self-accrediting entities）という概念が用いられているわけである。

高等教育支援法（HESA）は、連邦政府による支援の対象機関の認証（approval）を行っているが、すでに見たように大学は表 A として法律自体にその対象であることが掲げられている。また、大学は 2002 年以來、オーストラリア大学質保証機構（AUQA）のオーディットを受けるようになってきているが、これについての紹介はすでに随所でなされているので、ここでは、大学の自己適格認定機能に注目して、訪問調査先の南オーストラリア大学を例として検討する。

まず同大学に対しては、州議会が単独法（University of South Australia Act 1990）で、その設置を行っている。この法律では、南オーストラリア大学の権限（Powers of University）の第一として、学位授与権について次のように規定している。（South Australia 2008: 3-4）

#### (1) 大学は—

- (a) 大学という地位に基づき、適切な学位（academic awards）を、大学によって認定された基準に達した者に対して授与することができる。また、
- (b) 大学という地位に基づき、名誉学位（honorary awards）を、大学が大学によ

- る特別な認知にメリットがあると見なす者に授与することができる。また、
- (c) 大学の卒業者に対して、大学が適切と考える理由によって、大学が過去に授与した学位その他の称号を放棄させることができる。
- (2) (1) 項の学位授与権は、次の機関と共同で授与する権限を含む。
- (a)他の大学、または、
- (b)登録された訓練組織、または
- (c)(1b)項による規定の特別な機関

このように、大学は、個々のレベルや分野ごとに学位授与権の認可を受けているのではなく、包括的な学位授与権を与えられていることが確認できる。

次に、この権限を行使する上で、南オーストラリア大学が持っている自己適格認定の仕組みを、新規学位プログラムの認定プロセスを例に示すと、図表3のようになる。なお、同大学には、教育&芸術&社会科学 (Education, Arts and Social Sciences)、健康科学 (Health Sciences)、ビジネス (Business)、情報技術&エンジニアリング&環境 (Information Technology, Engineering and the Environment) の4部門 (division) があり、図表4に示したように、それぞれが数個の学部 (school) から構成されている。なお、当然ながら、日本のような学部と大学院研究科の区別はなく、ここで学部と訳している school は卒後レベルの学位プログラムの実施主体でもある。

図表3 南オーストラリア大学における新規学位プログラムの認定プロセス

責任領域	活動
学部	提案プログラムの市場分析との整合性の確認、部門助言委員会を含む内外のステークホルダーとの相談 提案プログラムと学部及び部門の計画との整合性の検討 留学生を受け入れる場合の早期の国際部 (UniSA International) との相談
学部	部門ボード提出用のプログラム通知文 (Program Notification Statement) の準備
部門	部門ボードによる提案の大学及び部門の戦略的方針との適合性の確認 (ensure)
部門	部門ボードによる上記の承認 (approval) 後、プログラム通知文コピーの副総長を含む関係者への転送
学部	プログラム提案書 (new program proposal) 及びビジネス・ケース (business case) と呼ばれる財政的、人事的、学問的、物理的に適切かつ十分な資源が準備できることを示す書類の準備
部門	上記書類の部門アカデミックコーディネータによる審査 (review)
学部	影響とコンプライアンスに関する書類 (Impact and compliance statements) の、学習教授ユニット (LTU)、図書館、学生&教

	学サービス (SAS)、国際部による探査 (seek)
学部ボード	提案プログラムの承認 (endorse) と部門オフィスへの提出
部門プログラム認定委員会	提案プログラムの審査 (review) と承認 (endorse)
部門ボード	提案プログラムの承認 (endorse) 及び部門担当副総長による、ビジネス・ケースの保証を含む、提案プログラムの公式化 (formally authorise) 全学機関であるアカデミック政策及びプログラム審査委員会 (APPRC) への推薦 (recommend)
APPRC	アカデミック・ボードへの提案プログラムの推薦 (recommend)
アカデミック・ボード	全学の教学最高機関である同ボードによる、提案プログラムの認定 (approve)

(訪問時の面談及び「プログラム認定マニュアル」(UniSA 2008:11) より作成)

図表 4 南オーストラリア大学の部門&学部構成

Division	Schools
Education, Arts and Social Sciences	Communication Education International Studies Louis Laybourne Smith School of Architecture and Design Psychology Social Work and Social Policy South Australian School of Art The Unaipon School
Health Sciences	Health Sciences Nursing & Midwifery Pharmacy and Medical Sciences
Business	Commerce Law Management Marketing International Graduate School of Business
Information Technology, Engineering and the Environment	Advanced Manufacturing and Mechanical Engineering Computer and Information Science Electrical and Information Engineering Mathematics and Statistics Natural and Built Environments

(UniSA 2009a による)

このように、新規の学位プログラムは、提案者の学部段階でも慎重な査定 (investigation) の下に計画され、学部ボード、部門ボード、全学の審査委員会 (APPRC)、全学のアカデミック・ボードの4段階の承認 (approval) を得て、実現の運びとなる。(UniSA 2009b) つまり、大学内に日本の大学設置審査に匹敵する質保証の仕組みがあるということになるのである。

ちなみに、オーストラリア大学質保証機構 (AUQA) のオーディットは、こうした大学内の質保証システムが十分に機能しているかを、評価の主な狙いとしている。

## 2-2 非自己適格認定機関

一方、自己適格認定権を持たない他の高等教育提供機関は、学位プログラムのそれぞれについて、州又はテリトリーの政府の適格認定機構 (図表5) により、適格認定を受ける。そして、適格認定機構は、大学同様に、オーストラリア大学質保証機構のオーディットを受ける。

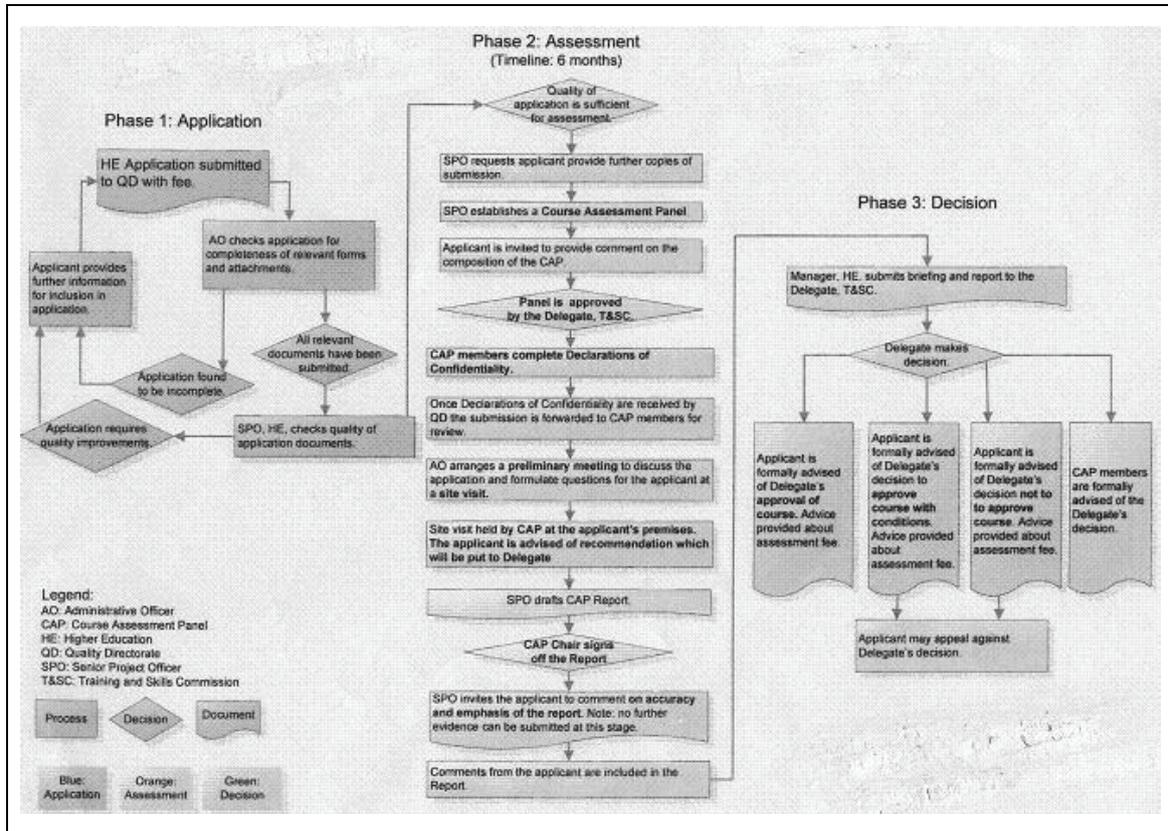
図表5 非自己適格認定機関の高等教育適格認定政府機関

Australian Capital Territory	Accreditation and Registration Council
New South Wales	Department of Education and Training, Higher Education Quality and Regulation
Northern Territory	Strategic Policy Training and Higher Education
Queensland	Department of Education, Training and the Arts
South Australia	Department of Further Education, Employment, Science and Technology
Tasmania	Tasmanian Qualifications Authority
Victoria	Victorian Registration and Qualifications Authority
Western Australia	Department of Education Services

適格認定のプロセスを、訪問先の南オーストラリア州政府の場合でみると、それは教育雇用訓練若年問題大臣カウンスル (Ministerial Council on Education, Employment, Training and Youth Affairs, MCEETYA) の定めた全国規定 (national protocols) に従われている。(MCEETYA 2009a) 同カウンスルは、州、テリトリー、連邦政府及びニューージーランドの教育、雇用、訓練、若年問題の担当大臣をメンバーとする組織で、職業技術教育大臣カウンスル (Ministerial Council for Vocational and Technical Education, MCVTE) と緊密な連携の下に、全国レベルでの戦略的政策の調整、カウンスルの責任領域において共有する目標と利益の全国的合意 (連邦政府と州との関係の原理を含む) の交渉と開発、責任領域における全国的報告の範囲と形式の交渉、同意した目標及び優先事項に対する情報の共有と資源の協調的な使用、及び関連する全国的機関とのコミュニケーションと、その間での協同を機能としている。(MCEETYA 2009b)

具体的な認定プロセスは、図表6に示されるように、申請、審査、決定の3段階から成っている。

図表6 非自己適格認定機関学位プログラム認定プロセス



(AQF カウンシル訪問時の提供資料)

適格認定の結果はプログラムごとに期限付きで行われ、AQF レジスターの記載では図表 7、図表 8 のように示される。図表 7 は、同州最大規模の営利高等教育機関の例であり、図表 8 はアメリカの有名大学の進出例である。

図表 7 非自己適格認定機関の AQF レジスター記載例 1

**Gibaran Graduate School of Business Pty Ltd (95049)**

Mrs Param Abraham  
1st Floor, 224 Hindley Street  
ADELAIDE SA 5000  
Phone: (08) 8212 8111 Fax: (08) 8212 0032  
Email: [param.abraham@gibaran.edu.au](mailto:param.abraham@gibaran.edu.au)  
Website: <http://www.gibaran.edu.au>

**Qualification & Recognition Period**

Diploma of Management - 31 May 2011  
Diploma of Management (Entrepreneurship) - 31 May 2011  
Diploma of Management (Finance) - 31 May 2011  
Diploma of Management (Marketing) - 31 May 2011  
Diploma of Management (Leadership) - 31 May 2011  
Diploma of Management (Human Resource Development) - 31 May 2011  
Diploma of Management (Public Sector Management) - 31 May 2011  
Diploma of Tourism and Hospitality Management - 31 May 2011  
Advanced Diploma of Management - 31 May 2011  
Advanced Diploma of Management (Entrepreneurship) - 31 May 2011  
Associate Degree in Management - 31 May 2011  
Associate Degree in Management (Entrepreneurship) - 31 May 2011  
Associate Degree in Management (Finance) - 31 May 2011  
Associate Degree in Management (Marketing) - 31 May 2011  
Associate Degree in Management (Leadership) - 31 May 2011  
Associate Degree in Management (Human Resource Development) - 31 May 2011  
Associate Degree in Management (Public Sector Management) - 31 May 2011  
Associate Degree in Tourism and Hospitality Management - 31 May 2011  
Bachelor of Business Administration - 31 May 2011  
Bachelor of Business Administration (Entrepreneurial Management) - 31 May 2011  
Bachelor of Business Administration (Financial Management) - 31 May 2011  
Bachelor of Business Administration (Logistics and Supply Chain Management) - 31 May 2011  
Bachelor of Business Administration (Marketing) - 31 May 2011  
Bachelor of Business Administration (Leadership) - 31 May 2011  
Bachelor of Business Administration (Human Resource Development) - 31 May 2011  
Bachelor of Business Administration (Public Sector Management) - 31 May 2011  
Bachelor of Business Administration (Tourism and Hospitality Management) - 31 May 2011

Graduate Certificate in Action Learning - 31 May 2011  
 Graduate Certificate in Change Management - 31 May 2011  
 Graduate Certificate in Corporate Governance - 31 May 2011  
 Graduate Certificate in Entrepreneurial Management - 31 May 2011  
 Graduate Certificate in Financial Management - 31 May 2011  
 Graduate Certificate in Human Resource Management - 31 May 2011  
 Graduate Certificate in Leadership - 31 May 2011  
 Graduate Certificate in Logistics and Supply Chain Management - 31 May 2011  
 Graduate Certificate in Management - 31 May 2011  
 Graduate Certificate in Management (Research) - 31 May 2011  
 Graduate Certificate in Marketing Management - 31 May 2011  
 Graduate Certificate in Public Sector Governance - 31 May 2011  
 Graduate Certificate in Tourism and Hospitality Management - 31 May 2011  
 Graduate Certificate in Wealth Management - 31 May 2011  
 Graduate Certificate in Work-based Learning - 31 May 2011  
 Graduate Diploma in Action Learning - 31 May 2011  
 Graduate Diploma in Change Management - 31 May 2011  
 Graduate Diploma in Corporate Governance - 31 May 2011  
 Graduate Diploma in Entrepreneurial Management - 31 May 2011  
 Graduate Diploma in Financial Management - 31 May 2011  
 Graduate Diploma in Human Resource Management - 31 May 2011  
 Graduate Diploma in Leadership - 31 May 2011  
 Graduate Diploma in Logistics and Supply Chain Management - 31 May 2011  
 Graduate Diploma in Management - 31 May 2011  
 Graduate Diploma in Management (Research) - 31 May 2011  
 Graduate Diploma in Marketing Management - 31 May 2011  
 Graduate Diploma in Public Sector Governance - 31 May 2011  
 Graduate Diploma in Tourism and Hospitality Management - 31 May 2011  
 Graduate Diploma in Wealth Management - 31 May 2011  
 Master of Business Administration - 31 May 2011  
 Master of Business Administration (Advanced) - 31 May 2011  
 Master of Business Administration (Entrepreneurial Management) - 31 May 2011  
 Master of Business Administration (Finance) - 31 May 2011  
 Master of Business Administration (Human Resource Management) - 31 May 2011  
 Master of Business Administration (Logistics and Supply Chain Management) - 31 May 2011  
 Master of Business Administration (Marketing Management) - 31 May 2011  
 Master of Business Administration (Public Sector Governance) - 31 May 2011  
 Master of Business Administration (Tourism and Hospitality Management) - 31 May 2011  
 Master of Business Administration (Wealth Management) - 31 May 2011  
 Master of Business Administration (Work-based Learning) - 31 May 2011  
 Master of Management - 31 May 2011  
 Master of Management (Advanced) - 31 May 2011  
 Master of Management (Research) - 31 May 2011  
 Master of Management (Work-based Learning) - 31 May 2011  
 Doctor of Business Administration - 31 May 2011  
 Doctor of Philosophy - 31 May 2011

(<http://www.training.sa.gov.au/OVETorgs/pages/default/providers/>, 7 April 2009)

図表8 非自己適格認定機関の AQF レジスター記載例2

<b>Carnegie Mellon University (05024)</b> Mr Tim Zak Executive Director
<b>Heinz School Australia</b> Torrens Building 220 Victoria Square ADELAIDE SA 5000
Phone: (08) 8110 9901 Fax: (08) 8211 9444 Email: <a href="mailto:tjak@andrew.cmu.edu">tjak@andrew.cmu.edu</a> Website: <a href="http://www.heinz.cmu.edu/australia">www.heinz.cmu.edu/australia</a>
<b>Qualification &amp; Recognition Period</b> Master of Science in Information Technology - 31 December 2013 Master of Science in Public Policy and Management - 31 December 2013 Graduate Certificate in Public Policy and Management - 31 December 2013 Graduate Certificate in Information Technology - 31 December 2013

(<http://www.training.sa.gov.au/OVETorgs/pages/default/providers/>, 7 April 2009)

### 3 オーストラリア資格枠組と准士学位

高等教育のアウトカム評価の視点から注目すべきことは、オーストラリアでは、国的資格枠組（national qualifications framework）であるオーストラリア資格枠組（AQF）の名称で1995年に導入され、5年をかけて、2000年から全面的に実施されていることである。

（AQF 2009）この枠組のもとでは、高等教育制度が、そのアウトカムである学位等の資格を下に整理され、機能している。オーストラリア資格枠組にアソシエート・ディグリー（准士学位）が追加されたのは2004年である。（AQF 2009）

AQFでは、資格（qualification）は「適切に認定された機関によって発行される、当該人物が個人的、職業的、産業的または共同体の需要に適合した学習成果あるいは能力を達成していることを認める公式の証明」（AQFAB 2007: v）と定義され、学校（中等教育）部門、職業教育&訓練部門（TAFE 及び登録私立提供者）及び高等教育部門（主として大学）において発行される国的資格から成る。（図表9）（AQF 2007: 1）

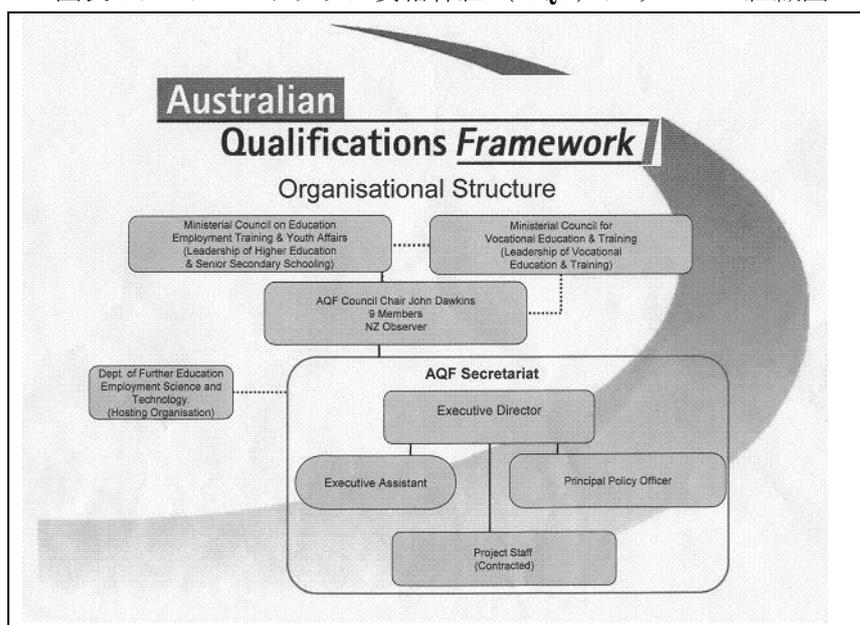
図表 9 AQF 資格 (適格認定部門別)

学校部門	職業教育&訓練部門	高等教育部門
		博士学位
		修士学位
	職業卒後ディプロマ	卒後ディプロマ
	職業卒後サティフィケート	卒後サティフィケート
		学士学位
	高度ディプロマ	准士学位、高度ディプロマ
	ディプロマ	ディプロマ
上級中等教育サティフィケート	サティフィケートIV	
	サティフィケートIII	
	サティフィケートII	
	サティフィケートI	

(職業 : vocational / 高度 : advanced / 卒後 : graduate)

AQF の実施組織は、2008 年 5 月の改革で、旧来のアドバイザー・ボードから、カウンシルに強化されている。図 10 は、同カウンシルが、前出の適格認定プロセスの全国規定の担い手である教育雇用訓練若年問題大臣カウンシル (MCEETYA) の下に置かれ、職業技術教育大臣カウンシル (MCVTE) と緊密な連携を持ち、また AQF カウンシルの事務局 (Secretariat) が所在の南オーストラリア政府で非自己適格認定機関の適格認定の担当者である継続教育雇用科学技術省 (DFEEST) の協力を得て運営されていることが示されている。

図表 10 オーストラリア資格枠組 (AQF) カウンシル組織図



(AQF Council Secretariat 提供)

#### 4 南オーストラリア州の大学における短期高等教育資格プログラム

次に、2004年から新たに資格枠組の中に導入された准士学位の状況について、短期高等教育資格（准士学位、高度ディプロマ、ディプロマ）全体の中で具体的にみとみることにする。まず、大学における状況としては、図表 11 に示したように、南オーストラリア州にはアデレード大学、フリンダース大学、南オーストラリア大学の3つの公立大学があるが、この内、准士学位プログラムを提供しているのは南オーストラリア大学のみである。

図表 11 南オーストラリア州の大学における短期高等教育資格プログラム

アデレード大学	Diploma in Languages Associate Diploma in Aboriginal Studies in Music Advanced Certificate of Aboriginal Studies in Music Diploma in Instrumental Music Diploma in Wine Marketing
フリンダース大学	Diploma in Language
南オーストラリア大学	Associate Degree in Accounting Associate Degree in Built Environment Associate Degree in Business Ventures Associate Degree in Engineering Associate Degree in Engineering (Defence Systems) Associate Degree in Information Technology Associate Degree in Languages and Culture Studies

アデレード大学：<http://www.adelaide.edu.au/programs/>, 6 April 2009

フリンダース大学：[http://www.flinders.edu.au/courses/undergrad/undergrad\\_home.cfm](http://www.flinders.edu.au/courses/undergrad/undergrad_home.cfm), 6 April 2009

南オーストラリア大学：<http://www.unisa.edu.au/study/progcourses/brochures.asp>, 7 April 2009

一方、他の2大学では学位ではない資格であるディプロマのプログラムを持っているのに対して、南オーストラリア大学はそれを持たず、准士学位プログラムに限って短期高等教育資格プログラムを持っている。このように、同大学が、この新しい学位を積極的に展開していこうとする意欲がみて取れる。

#### 5 南オーストラリア州の非自己適格認定機関と准士学位プログラム

##### 5-1 非自己適格認定機関と短期高等教育資格プログラム

AQF レジスターには、南オーストラリア州の非自己適格認定機関として、30校が掲載指されているが、その内、現在（2009年）において短期高等教育プログラムを提供している機関は、図表 12 掲載の16校である。そして、その内で、准士学位プログラムを持っているのは、9校である。

図表 12 南オーストラリア州の非自己適格認定機関における短期高等教育資格プログラム

Acelin Institute of Business	Diploma of Business
Adelaide Central School of Art	Associate Degree of Visual Art
Adelaide College of Divinity	Associate Degree of Ministry
Adelaide College of Ministries	Advanced Diploma of Ministries Diploma of Ministries
Australian Institute of Business Administration Pty Ltd	Diploma of Management Diploma of Management (Entrepreneurship) Diploma of Management (Finance) Diploma of Management (Marketing) Diploma of Management (Leadership) Diploma of Management (Human Resource Development) Diploma of Tourism and Hospitality Management Advanced Diploma of Management Associate Degree in Management Associate Degree in Management (Entrepreneurship) Associate Degree in Management (Finance) Associate Degree in Management (Marketing) Associate Degree in Management (Leadership) Associate Degree in Management (Human Resource Development) Associate Degree in Tourism and Hospitality Management
Australian Lutheran College	Diploma in Theology Diploma of Theology Diploma of Theology (Education) Diploma of Theology (Counselling)
Bible College of South Australia	Advanced Diploma of Theology Advanced Diploma of Ministry Associate Degree of Theology Diploma of Ministry Diploma of Theology
Bradford College	Diploma of Commerce
Entrepreneurship Institute Australia	Diploma of Management Diploma of Management (Entrepreneurship) Diploma of Management (Finance) Diploma of Management (Marketing) Advanced Diploma of Management Advanced Diploma of Management (Entrepreneurship) Associate Degree in Management

	<p>Associate Degree in Management (Entrepreneurship)</p> <p>Associate Degree in Management (Finance)</p> <p>Associate Degree in Management (Marketing)</p>
Eynesbury Institute of Business and Technology	<p>Diploma of Business</p> <p>Diploma of Computing and Information Technology</p>
Gibaran Graduate School of Business Pty Ltd	<p>Diploma of Management1</p> <p>Diploma of Management (Entrepreneurship)</p> <p>Diploma of Management (Finance)</p> <p>Diploma of Management (Marketing)</p> <p>Diploma of Management (Leadership)</p> <p>Diploma of Management (Human Resource Development)</p> <p>Diploma of Management (Public Sector Management)</p> <p>Diploma of Tourism and Hospitality Management</p> <p>Advanced Diploma of Management</p> <p>Advanced Diploma of Management (Entrepreneurship)</p> <p>Associate Degree in Management</p> <p>Associate Degree in Management (Entrepreneurship)</p> <p>Associate Degree in Management (Finance)</p> <p>Associate Degree in Management (Marketing)</p> <p>Associate Degree in Management (Leadership)</p> <p>Associate Degree in Management (Human Resource Development)</p> <p>Associate Degree in Management (Public Sector Management)</p> <p>Associate Degree in Tourism and Hospitality Management</p>
Le Cordon Bleu Australia	<p>Advanced Diploma of Business (International Hotel and Resort Management)</p> <p>Advanced Diploma of Business (International Hotel Management)</p> <p>Advanced Diploma of Business (International Restaurant and Catering Management)</p> <p>Advanced Diploma of Business (International Restaurant Management) -</p> <p>Advanced Diploma of Business (International Convention and Event Management)</p>
South Australian Institute of Business and Technology	<p>Diploma of Arts (Media and Communication)</p> <p>Diploma of Business</p> <p>Diploma of Computing and Information Technology</p> <p>Diploma of Health Sciences</p> <p>Diploma of Arts</p> <p>Diploma of Business</p> <p>Diploma of Technology (Engineering and Environment)</p>

	Diploma of Technology (Computer and Information Technology)
Tabor College Incorporated	Associate Degree in Intercultural Studies Associate Degree in Ministry Associate Degree in Theology Diploma of Intercultural Studies Diploma of Ministry Diploma of Theology
TAFE SA	Associate Degree in Electronic Engineering
Tourism Institute Australia	Diploma of Management Diploma of Tourism and Hospitality Management Associate Degree in Management Associate Degree in Tourism and Hospitality Management

このように、非自己適格認定高等教育機関の中では、短期高等教育資格プログラムが隆盛であり、准士学位プログラムは相当の展開をみせている。

## 5-2 アデレード中央芸術学校の准士学位プログラム

南オーストラリア州の非自己適格認定高等教育機関の中で、今回の訪問調査先としたアデレード中央芸術学校は 1982 年の開校の非営利機関であるが (ACSA 2009: 2)、図表 13 にあるように、オーストラリア資格枠組に准士学位が導入されたのを期に、これまでのディプロマや高度ディプロマの適格認定の受認を 2007 年までで止め、すべて准士学位プログラムに切り替えているところに特色がある。

図表 13 アデレード中央芸術学校のプログラム適格認定状況

<p><b>Adelaide Central School of Art (91063)</b>  Ms Sally Dukic  45 Osmond Terrace  NORWOOD SA 5067  Phone: (08) 8364 5075  Fax: (08) 8364 4865  Email: <a href="mailto:acsa@acsa.sa.edu.au">mailto:acsa@acsa.sa.edu.au</a>  Website: <a href="http://www.acsa.sa.edu.au/">http://www.acsa.sa.edu.au/</a></p> <p><b>Qualification &amp; Recognition Period</b>  Advanced Diploma of Visual Art - 31 December 2007  Associate Degree of Visual Art - 31 May 2011  Bachelor of Visual Art - 31 December 2007  Bachelor of Visual Art - 31 May 2011  Bachelor of Visual Art (Honours) - 31 December 2007  Bachelor of Visual Art (Honours) - 31 May 2011  Diploma of Visual Art - 31 December 2007  Graduate Diploma in Visual Art - 31 December 2007 (Available for continuing students only)  Graduate Diploma in Visual Art - 30 December 2011  Master of Visual Art - 31 December 2007 (Available for continuing students only)  Master of Visual Art - 30 December 2011</p>
--

(<http://www.training.sa.gov.au/OVETorgs/pages/default/providers/>, 5 April 2009)

また、図表 14 は学生数の動向・状況であるが、パートタイム学生については 2007 年 1 年次生が 105 人、2008 年の 2 年次生が 48 人、2009 年の 3 人、フルタイム学生については 2007 年 1 年次生が 11 人、2008 年の 2 年次生が 11 人、2009 年の 7 人と、准士学位が学習課程の一つの区切りとなっていることがうかがわれる。

図表 14 アデレード中央芸術学校の学生数

		2007	2008	2009
1 年次	パートタイム	105	94	97
	フルタイム	11	26	17
	サブトータル	116	120	114
2 年次	パートタイム	69	48	42
	フルタイム	7	11	22
	サブトータル	76	59	64
3 年次	パートタイム	5	6	3
	フルタイム	13	8	7
	サブトータル	18	14	10
4 年次	パートタイム	0	0	0
	フルタイム	4	13	8
	サブトータル	4	13	8
卒後	パートタイム	1	2	2
	フルタイム	0	0	1
	サブトータル	1	2	3
PF 別	パートタイム	180	150	144
	フルタイム	35	58	55
	サブトータル	215	208	199
全体		406	492	490
FTE		101.5	123	122.5

## おわりに

オーストラリアでは、2007 年 12 月に自由党（ジョン・ハワード John Winston Howard 首相）から労働党政権（ケビン・ラッド Kevin Michael Rudd 首相）へと移行した。新政権は政策の最重点課題として教育リボリューションを掲げており、内閣第 2 職位の副首相のジュリア・ギラード（Julia Gillard）を教育大臣、雇用&職場関係大臣及び社会包含大臣（Minster of Education, Minster for Employment and Workplace Relations and Minster for Social Inclusion）の職に付けている。そして、高等教育全般を根本的に見直すためのオーストラリア高等教育評価委員会（Review of the Australian Higher Education）を立ち上げ、その報告書が 2008 年 12 月に発表された。

同報告書は委員長の名前（Denise Bradley）を取ってブラッドリー・レポートと呼ばれ

ているが、そこでは今後のオーストラリア社会にとっての高等教育の重要性と、2020年を目標とした高等教育の拡大政策、そこでの社会階層を通じた公平性の確保が説かれ、質保証に関しては適格認定に関する中央機関の設立と自己適格認定の拡大が提起され、AQFに関してはディスクリプター（記述語）が、2000年の本格実施時のレビュー以来、2004年の准士学位の追加以外にほとんど改善がみられないとして、より高度な構造と最新で包括的な学習成果の記述語に改革の必要が提示されている。（Review of the Australian Higher Education 2008）今年に入って行われたギラード副首相の一連の演説（Gillard 2009a, 2009b, 2009c）は、これらの提案を全面的に支持し、実行に移そうというもので、今後の展開が注目される場所である。

以上、オーストラリアの高等教育の質保証制度と准士学位の動向を見てきたが、そこではアウトカムの視点から高等教育の展開を導ける資格枠組の発達、その展開に大きく寄与しているといえよう。

#### 引用（参考）文献一覧

- Adelaide Central School of Art (ACSA), 2009, *Undergraduate Student Handbook*, Adelaide Central School of Art.
- Australia, 2008, *Higher Education Support Act 2003*, 17 December 2008.
- Austrian Government (AG), 2009a, 'Our Country', <http://www.australia.gov.au/about-australia/our-country>, 4 April 2009.
- Austrian Government (AG), 2009b, 'Our Government', <http://www.australia.gov.au/about-australia/our-government>, 4 April 2009.
- Australian Qualifications Framework Advisory Board (AQFAB), 2007 *Australian Qualification Framework Implementation Handbook: Fourth Edition 2007*. Australian Qualifications Framework Advisory Board.
- Australian Qualification Framework Council (AQFC), 2009, 'About the Australian Qualification Framework', <http://www.aqf.edu.au/aboutaqf.htm>, 21 February 2009.
- Australian Qualification Framework Council (AQFC), 2009, 'Introduction of Associate Degree in 2004', <http://www.aqf.edu.au/ad.htm>, 21 February 2009.
- Department of Education, Employment and Workplace Relations (DEEWR), 2009a, 'Higher Education Summary', [http://www.dest.gov.au/sectors/higher\\_education/default.htm](http://www.dest.gov.au/sectors/higher_education/default.htm), 15 March 2009.
- Department of Education, Employment and Workplace Relations (DEEWR), 2009b, 'Higher education in Australia', <http://www.goingtouni.gov.au/Main/CoursesAndProviders/ProvidersAndCourses/HigherEducationInAustralia/Default.htm>, 6 April 2009.
- Gillard, Julia, 2009a, "Speech: Universities Australia Conference – 4 March 2009", University Australia Conference.
- Gillard, Julia, 2009b, "Speech: Universities Australia Conference – 4 March 2009",

Big Skills Conference.

- Gillard, Julia, 2009c, “Speech: Australian Financial Review – Higher Education Conference – 10 March 2009”.
- Ministerial Council on Education, Employment, Training and Youth Affairs (MCEETYA), 2009a, ‘National Protocols for Higher Education Approval Processes’, [http://www.mceetya.edu.au/mceetya/national\\_protocols\\_for\\_higher\\_education\\_main page,15212.html](http://www.mceetya.edu.au/mceetya/national_protocols_for_higher_education_main_page,15212.html), 25 March 2009.
- Ministerial Council on Education, Employment, Training and Youth Affairs (MCEETYA), 2009b, ‘About MCEETYA’, [http://www.mceetya.edu.au/mceetya/about\\_mceetya,11318.html](http://www.mceetya.edu.au/mceetya/about_mceetya,11318.html), 6 April 2009.
- Review of the Australian Higher Education, 2008, *Review of Australian Higher Education: Final Report*, Australian Government.
- South Australia, 2008, *University of South Australia Act 1990*, version: 31.12.2008.
- Smart D, 1992, “Australia”, Clark Burton R. & Neave Guy ed. The *Encyclopedia of Higher Education Vo.1 National System of Higher Education*. Pergamon Press. pp.29-42
- University of South Australia (UniSA), 2008, *Coursework Program Approval Manual*, University of South Australia.
- University of South Australia (UniSA), 2009a, ‘Schools sorted by Division’, <http://www.unisa.edu.au/about/divs/schools-div.asp>, 7 April 2009.
- University of South Australia (UniSA), 2009b, “Academic decision making in Course Program Approval: Summary of revised processes by level of approval”, Last updated: February 2009.